

倫理学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

「人間って本当にいいものかしら」という言葉が、児童文学作品の中にある。青年期の学生が社会有用の人材として、本物の大人、社会人になるためには、人間とは何かについて学びあい、より良く生きることに
ついて考える習慣を身につけたり、結論を得たりする必要がある。スポーツ、ビジネスなどの応用倫理学で
思考を深め、生き方を探る。

到達目標

- ・人間とは何か、私は何かなどの疑問や課題を把握することができる。
- ・発見した課題について主体的に取り組み、個としての結論を得ることができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合いができる。
- ・「人間とは何か」について、自己の表現力、表現方法で伝えようとする事ができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心がけて生活する。
「より良く生きる」「我は我なり」などの言葉との出会いを大切に、記録に留めておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	ようこそ倫理学「人間って本当にいいものかしら」	1	
2	道德教育 I 人間の魅力と魔力	2	
3	道德教育 II 重要ポイントと展望	3	
4	義務と責任 I	4	
5	義務と責任 II	5	
6	善と悪 I	6	
7	善と悪 II	7	
8	表現の自由 I	8	
9	表現の自由 II	9	
10	スポーツは公平・平等 I	10	
11	スポーツは公平・平等 II	11	
12	貨幣の倫理学 I	12	
13	貨幣の倫理学 II	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版社	「もういちど読む山川倫理」小寺 聡 山川出版社 「熊本の心」熊本県教育委員会編
関連のある授業科目	資格等
倫理学 II	なし

【次年度に向けての改善等について】

「人間とは何か」の問いに具体的資料をもとに思考し、自らの判断を得させる。	
授業目的 ・ねらい	「私はどのように判断し、行動したいか」自らの生き方について明確に伝えることが出来るように する。

倫理学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

「人間とは何か」について自己に問い続けることが、社会有用の人材となるには必要である。益々、高度情報化社会が進展する中で、ともすれば自己を見失い、自己有用感や自尊感情を獲得することなく、辛く困難な人生を歩んだり、自己否定の結果、生命の否定に及んだりすることもある。本授業では、多数と少数、存在と外見などの対立概念を現実の生活から問い、生きる価値について学び合う。人間はみんな本当にいいものなんだ。

到達目標

- ・人間とは何かの疑問や課題を把握することができる。
- ・自己の思考判断や結論をもとに、他者との比較検討や議論により、学び合うことができる。
- ・課題について主体的に追及し、検討の結果を踏まえて、自己の結論を得ることができる。
- ・追求・討論を通じて、人と社会の規範を問い続けようとすることができる。

事前事後学習

日常的に善悪や生き方について関心を持ち、責任ある行動を取ろうと心掛けて生活する。「より良く生きる」「我はわれなり」などの言葉との出会いを大切に、記録にとどめておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	さらに倫理学「花のき村と盗人たち」
2		2	多数と少数Ⅰ
3		3	多数と少数Ⅱ
4		4	宗教と倫理Ⅰ
5		5	宗教と倫理Ⅱ
6		6	自殺と自由Ⅰ
7		7	自殺と自由Ⅱ
8		8	ギャンブルと自由Ⅰ
9		9	ギャンブルと自由Ⅱ
10		10	情報と倫理
11		11	生命と倫理
12		12	環境と倫理
13		13	人権福祉と倫理
14		14	小論文作成
15		15	小論文発表会、意見交流

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「本当にわかる倫理学」田上孝一 日本実業出版社	「もういちど読む山川倫理」小寺 聡 山川出版社
関連のある授業科目	資格等
倫理学Ⅰ	なし

【次年度に向けての改善等について】

人間の多様性に気づき、他者との交流により自らの合理的判断を深めさせる。	
授業目的 ・ねらい	「人はひと、我はわれなり」を熟考し、自他を尊重し強く生き抜く思いを得させる。

文学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

山本八重子

授業の概要

本講義では、詩歌、随筆、小説などいろいろな文学作品を学習し、輪読やグループでの話し合い等を通して、読解力を付けるとともに読む楽しさを味わうことができるようにする。なお、熊本・八代に関連のある作家や作品も取り上げる。お互いの読みを交流し、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の総合的なコミュニケーション力を養う。

到達目標

- (1) 大学生として、集中して「読むこと」の技術を習得し読解力を伸ばすことができる。
- (2) ものの見方・考え方を学び、自己を見つめ視野を広げることができる。
- (3) 文学作品に関心をもち、読書の楽しさを味わうことができるようにする。

事前事後学習

《事前学習》 講義該当の文章を通読し、難語句の読みや意味を調べておくこと。
《事後学習》 学習した作品を読んでまとめておく。ノートを整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業内容の概要および計画の説明	16	
2	星新一のショートショートを読む。「きまぐれロボット」から	17	
3	星新一のショートショートを読む。構成のおもしろさ	18	
4	詩を読み、鑑賞力をつける。	19	
5	随筆を読み、鑑賞力をつける。岡潔「春宵十話」から	20	
6	随筆を読み、鑑賞力をつける。向田邦子「父の詫び状」から	21	
7	短編小説を輪読する。芥川龍之介「鼻」から	22	
8	短編小説の作中人物の考察	23	
9	短編小説の文体等の考察	24	
10	短編小説の鑑賞	25	
11	短編小説「さすらいの煩惱」(黒川嘉正)を輪読する。	26	
12	短編小説「さすらいの煩惱」山頭火の生き方を探る。	27	
13	短編小説「さすらいの煩惱」山頭火の日奈久の3日間を探る。	28	
14	山頭火の俳句の鑑賞をする。	29	
15	レポートの書き方と作成・まとめ	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題レポート(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「羅生門・鼻・芋粥」 芥川龍之介 角川文庫 その他の教材は作成し配布する。	星新一「きまぐれロボット」・岡潔「春宵十話」・向田邦子「父の詫び状」・黒川嘉正「さすらいの煩惱」
関連のある授業科目	資格等

【次年度に向けての改善等について】

- 1 語彙を少しでも増やすために、毎時間、小テストをして言語の意味や漢字等を身に付けさせる。
- 2 テキストについて、事前や事後にも読むようにさせ、読書に親しませる。
- 3 自分の意見を言ったり書いたりする場面を多く取り、毎時間感想文を書く時間を取る。

授業目的
・ねらい

人生には、苦しいこと、悲しいことが起きる。しかし、文学に接し、生き方を考えることにより、新しい知恵や認識、勇気などが与えられ、人間理解、他者理解、自己理解を深め、たくましく生き抜くことができる。また、語彙・言葉の質と量を増やすことによって、自分の考えや心を豊かにすることができる。そのために読解力を伸ばす。

文学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

山本八重子

授業の概要

文学Ⅱでは、文学1を踏まえ、登場人物の生き方を学び、読解力をさらに伸ばす。そのために優れた日本文学の韻文・散文に出会い、読み方・学び方を深めて、文章の描写の美しさ・細やかさに気付くようにする。熊本・八代にゆかりのある名作や作家も取り上げ、郷土の自然や先人の心に共感する機会とする。

到達目標

- (1) 地方文学を含めた文学作品を読解し、その良さや美しさを味わうことができる。
- (2) 表現を通して感動した場面を押さえ、自己を見つめ、共感することができる。
- (3) 文学作品に関心をもち、読書の楽しさを味わうことができる。

事前事後学習

《事前学習》 講義該当の文章を通読し、難語句の読みや意味を調べておくこと。
《事後学習》 学習した作品を読んで自分の感想をノートにまとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	授業内容の概要および計画の説明
2		17	短編小説「黄昏の蝶」(黒川嘉正)を輪読する。
3		18	短編小説「黄昏の蝶」作中人物の考察
4		19	短編小説「黄昏の蝶」表現の考察
5		20	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
6		21	熊本出身徳富蘆花の作品を輪読する。
7		22	八代に関連のある万葉集を探る。
8		23	八代に関連のある連歌師「西山宗因」を探る。
9		24	熊本ゆかりの「草枕」(夏目漱石)を輪読する。
10		25	熊本ゆかりの「草枕」を輪読する。
11		26	熊本ゆかりの「草枕」を輪読する。(非人情と不人情)
12		27	随筆を読み、ものの見方・考え方を広げる。幸田文「父・こんなこと」
13		28	随筆を読み、ものの見方・考え方を広げる。
14		29	レポートの書き方と作成準備
15		30	レポートの書き方と作成・まとめ

成績評価基準及び方法

レポート(70%)、学習態度(30%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「草枕」 夏目漱石 新潮文庫 その他の教材は作成し配布する。	黒川嘉正(黄昏の蝶)・徳富蘆花の作品・幸田文「父・こんなこと」 万葉集
関連のある授業科目	資格等

【次年度に向けての改善等について】

- 1 毎時間、レポートや小論文の書き方も含めて、文章を書くことを重点的に指導する。
- 2 テキストに出てくる語句が難しい点もあるので、調べる時間をとったり、小テストをしたりして語彙力を伸ばす。
- 3 感想や意見を出し合ったり、文章を表現したりしてコミュニケーション能力を付ける。
- 4 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」を毎時間総合的に取り入れる。

授業目的
・ねらい

文学1を踏まえ、さらに、文学作品を読み、生き方を考えることにより、新しい知恵や認識を持ち、人間理解、他者理解、自己理解を深めることができる。また、語彙・言葉の質と量を増やすことによって、自分の考えや心を豊かにすることができる。そのためにさらに読解力や表現力を伸ばす。

社会学概論 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

ヒトはどのようにして社会的人間になったのか。人は社会とどのような関係性を持って生きているのか。具体的事実に即して、関係としての人間学を学ぶ。本授業では、身近な社会である家族から始まり、様々な場で法則性を発見する喜びに触れる。特に、祭りを通して絆を深め、社会の発展に貢献してきた姿を理解する。

到達目標

- ・ヒトと人間について関心を持ち、主体的に学ぶことができる。
- ・家族や学校など、自分とその社会との関係性の法則を発見することができる。
- ・郷土の祭りに関心を持ち、積極的な調査活動で関係性に気づくことができる。
- ・高度情報化社会における光と影を理解し、自己の主張を公表できる。

事前事後学習

日常的にメディア情報(特に新聞)に注視して、社会事象に関心を持ちノートに記録する。各地、各国の「ふるさとの祭り」について理解を深め、触れ、親しもうとする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	ようこそ社会学「ヒトから人間へ」	1	
2	家族と人間 I 暮らしと食事	2	
3	家族と人間 II 子育てと介護	3	
4	憲法と人間 I 約束の手紙、日本国憲法	4	
5	憲法と人間 II 各国の憲法	5	
6	学校と人間 I 学校・学級の誕生	6	
7	学校と人間 II 学力・仲間づくり	7	
8	学校と人間 III 学校教育の成果と課題	8	
9	郷土の祭りと人間 I ふるさとの祭り	9	
10	郷土の祭りと人間 II 祭りの記憶	10	
11	郷土の祭りと人間 III 新しい祭りづくり	11	
12	情報社会と人間 I SNS、ロボット文化の時代到来	12	
13	情報社会と人間 II 今後の展望予測	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会、意見交流	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(45%)、レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「面白くて眠れなくなる社会学」橋爪大三郎 著 PHP研究所	「ヒューマン」NHKスペシャル取材班 角川書店 「地域の社会学」森岡清志編 有斐閣アルマ 各社新聞(学内図書館)
関連のある授業科目	資格等
社会学概論 II	なし

【次年度に向けての改善等について】

ヒトから人へ進化してきた今、これからを創造する私たちの姿を確かに想像させる。	
授業目的 ・ねらい	人間が学校で学ぶ機会を得たことで社会は大きく変容し、その学びの途に自らがあることに気づかせる。

社会学概論Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

次世代を担う学生が関係としての人間学を追究しその法則性を発見することは極めて重要である。本授業では、スポーツや遊びから始まり、将来の人生設計をも展望し人間学を追究する。特に、職業社会や格差社会については、的確な情報収集や判断分析力をもとに探究する。また、郷土の祭りについては、伝統文化や地域力向上の視点から、新たな時代の祭りの創造を模索する。

到達目標

- ・スポーツや遊びの経験から、仲間・友達の間を探究しあうことができる。
- ・八代の祭り「妙見祭」の調査を通して、関係の人間学を学ぶことができる。
- ・格差社会に興味を持ち、多様な情報から選択して思考できる。
- ・職業社会(職場)における人間学を学び、討論することができる。

事前事後学習

日常的にメディア情報(特に新聞)に注視して、社会事象に関心を持ちノートに記録する。各地各国の「ふるさとの祭り」について、理解を深め、触れ親しもうとする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	さらに社会学「町屋とマンション・・・」とは何か
2		2	スポーツと人間Ⅰ 遊びの経験に学ぶ
3		3	スポーツと人間Ⅱ 競技、芸術、人生の明暗
4		4	八代の祭りと人間Ⅰ 伝統文化としての妙見祭
5		5	八代の祭りと人間Ⅱ まちづくりとしての妙見祭
6		6	八代の祭りと人間Ⅲ 若者による祭りの創造
7		7	宗教と人間Ⅰ 様々な宗教文化
8		8	宗教と人間Ⅱ 生物社会の宿命
9		9	戦争と人間Ⅰ 争い、ケンカ
10		10	戦争と人間Ⅱ ムラから国へ
11		11	格差社会と人間Ⅰ 資本、労働、土地の確立
12		12	格差社会と人間Ⅱ 忍び寄る超格差社会
13		13	職業と人間:収入のある仕事、職業選択
14		14	小論文作成
15		15	小論文発表会、意見交流

成績評価基準及び方法

学習態度(45%)、レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「面白くて眠れなくなる社会学」橋爪大三郎 著 PHP研究所	「地域の社会学」森岡清志編 有斐閣アルマ 各社新聞(学内図書館)
関連のある授業科目	資格等
社会学概論Ⅰ	なし

【次年度に向けての改善等について】

継承、創造する人間として「まつり」の意義を的確に理解し、行動意欲を持たせる。	
授業目的 ・ねらい	「まつる、つなぐ、つくる」社会構築や現代的課題として戦争、格差、情報等に深い関心を持ち、持論を交流させる。

法学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

社会生活を営む上で数多くの法律(正式な法律名を知らないものがほとんどである)と関わり合いを持ってざるを得ない。たとえば、売買、土地・建物の賃貸、交通事故、家庭における親子関係、相続や新聞の三面記事に載る犯罪、また会社で働く場合の会社との関係などである。これらの法律関係を基礎から考えたい。

到達目標

売買、賃貸借等契約内容の理解、交通事故による損害賠償責任の意味、婚姻・離婚・相続・親子関係についての民法の定め等、最低限度の知識を修得する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	法の意義 法と道德の違い	1	
2	法の適用 裁判の意味と構造	2	
3	家庭と法 親族関係について(1)	3	
4	家族と法 親族関係について(2)	4	
5	家族と法 相続関係について	5	
6	犯罪と法 犯罪とは何か?	6	
7	犯罪と法 罪刑法定主義	7	
8	犯罪と法 刑罰の意味、内容	8	
9	損害と法 不法行為	9	
10	損害と法 損害賠償義務	10	
11	企業と法 会社の種類	11	
12	企業と法 会社の種類	12	
13	企業と法 株式会社の内容	13	
14	職場と法 労働基準法の意義	14	
15	職場と法 労働基準法の原則	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート等提出(15%)、学習態度等(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之著 有信堂高文社	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	資格等
法学Ⅱ	社会福祉主事任用資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	
--------------	--

法学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

前期科目の「法学Ⅰ」は、法学全般に対する基本的な理解を目標とするが、「法学Ⅱ」は法学Ⅰの理解を前提として、法律と政治の実践的な問題について説明したい。

到達目標

選挙に関する憲法および公職選挙法の規定、社会権のひとつとして憲法の保障する労働基本権や労働法の原則、さらに裁判に対する原則などを理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を授業前によんでおくこと。ホワイトボードに板書したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	政治① 民主主義について
2		2	政治② 政治的イデオロギーの機能
3		3	政治③ 選挙について
4		4	政治④ 現代国家の政治的特質
5		5	政治⑤ ナショナリズムについて
6		6	法律Ⅰ① 憲法の三大原則について
7		7	法律Ⅰ② 国会について
8		8	法律Ⅰ③ 裁判所について
9		9	法律Ⅰ④ 地方自治について
10		10	法律Ⅱ① 民法総則
11		11	法律Ⅱ② 物権法
12		12	法律Ⅱ③ 債権法
13		13	法律Ⅲ① 会社法
14		14	法律Ⅲ② 有価証券法
15		15	法律Ⅳ 労働法の現代的課題

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「基本法学入門」 蓮井良憲・畑 博之 有信堂高文社	「法学入門」 遠藤 浩・久保田きぬ子 有斐閣
関連のある授業科目	資格等
法学Ⅰ	社会福祉主事任用資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	
--------------	--

英語基礎

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期》

担当者

米本直美

授業の概要

基礎的な英文法を学び、英語を読む、書くに慣れていきます
プレゼンテーションなど実践的な英語力の練習をしていきます

プレ

到達目標

英文を読み、概要を理解することができる。 基本的な英文法の理解

簡単な英語の作文が書けるようになる

事前事後学習

単語や文法の復習をする

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(シラバス等の説明)
2		2	発音、スペル、文法の基礎学習
3		3	動詞の種類と変化(現在、過去、未来)
4		4	文章を読んでみよう&文法(時制1)
5		5	文章を読んでみよう&文法(代名詞)
6		6	文章を読んでみよう&文法(不定詞)
7		7	文章を読んでみよう&文法(助動詞)
8		8	Writing & Presentation
9		9	文章を読んでみよう&文法(接続詞)
10		10	文章を読んで伝えてみよう!
11		11	文章を読んで伝えてみよう!
12		12	Writing & Presentation
13		13	Research & Report
14		14	映画鑑賞
15		15	Writing & Presentation

成績評価基準及び方法

定期試験(30%)、課題提出及びプレゼンテーション(30%)、学習態度(小テスト結果含む)(40%)

テキスト

参考文献・推薦図書

適宜対応

関連のある授業科目

資格等

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

英会話 I

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期／選択》

担当者

村橋哲也

授業の概要

日常会話や海外旅行時に必要な英語を場面別に学習し、より実践的に学んでいきます。

到達目標

簡単な日常会話や、海外旅行時に必要な英語をマスターすることを目的とします。

事前事後学習

予習、復習に加え、クラスでの積極的な姿勢を期待します。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	オリエンテーション(シラバス等の説明)	16	Unit5:道のきき方
2	自己紹介、日常的なあいさつ	17	Unit5:道のきき方 (応用編)
3	単語を増やそう	18	プレゼンテーション:海外について学ぼう!
4	基礎的な英文法	19	Unit6:ホームステイ
5	基本的な英文法	20	Unit6:ホームステイ
6	テキストに登場する人物	21	Unit7:病気に関する会話
7	Unit1:機内での会話	22	Unit8:電話での会話
8	Unit1:機内での会話	23	Unit8:電話での会話
9	Unit:1応用編	24	Unit9:レストランでの会話
10	プレゼンテーション (Show & Tell)	25	Unit9:レストランでの会話
11	Unit2:入国審査に関する会話	26	Unit10:家族の紹介
12	Unit2:入国審査に関する会話	27	Unit10:家族の紹介
13	Unit3:両替に関する会話	28	総復習
14	Unit4:ホテルの予約	29	映画鑑賞
15	映画鑑賞	30	英語で寸劇を作ろう

成績評価基準及び方法

定期試験(30%)、課題(プレゼンテーションなど)(30%)、学習態度(出席日数含む)(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
・「大岩のいちばんはじめの英文法」大岩秀樹 東進ブックス ・「英文法 レベル別問題集1 超基礎編」安河内哲也 東進ブックス	随時紹介します
関連のある授業科目	資格等
	なし

【次年度に向けての改善等について】

--

授業目的
・ねらい

日常生活や職場で役立つ実践的な英語を使う能力を身につける。

英会話 II

《2単位(演習)/経営福祉学科1年後期/選択》

担当者

村橋哲也

授業の概要

日常会話や海外旅行時に必要な英語を場面別に学習し、より実践的に学んでいきます。前期よりプレゼンテーションにより力を入れていきます。

到達目標

簡単な日常会話や、海外旅行時に必要な英語をマスターすることを目的とします。

事前事後学習

予習、復習に加え、クラスでの積極的な姿勢を期待します。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	オリエンテーション(シラバス等の説明)	16	Unit16:郵便物に関して
2	基本的な英文法、単語の学習	17	Unit17:劇場やコンサートへ行ってみよう
3	Unit11:日本の事を話そう	18	Unit17:劇場やコンサートへ行ってみよう
4	Unit11:日本の事を話そう	19	復習
5	Unit11:日本の事を話そう(プレゼンテーション)	20	プレゼンテーション
6	Unit12:自分の意見を言おう	21	Unit18:失くしものをした時の英語
7	Unit12:自分の意見を言おう	22	Unit18:失くしものをした時の英語
8	Unit13:予定を話そう	23	Unit19:Goodbye and thanks
9	Unit13:予定を話そう	24	Unit19:Goodbye and thanks
10	プレゼンテーション	25	Unit20:帰国
11	Unit14:海外で乗り物に乗ってみよう	26	Unit20:帰国
12	Unit14:海外で乗り物に乗ってみよう	27	復習
13	Unit15:ショッピングでの会話	28	映画鑑賞
14	Unit15:ショッピングでの会話	29	英語で寸劇を作ろう
15	プレゼンテーション	30	プレゼンテーション

成績評価基準及び方法

定期試験(30%)、課題(プレゼンテーションなど)(30%)、学習態度(出席日数含む)(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
Passport (Oxford出版)	随時紹介します
関連のある授業科目	資格等
	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

英会話で培った英語力をさらに発展させ、高度な英語力を身につける。

日本語基礎演習

《2単位(演習)／経営福祉学科1年通年／選択》

担当者

萩田いくみ

授業の概要

文献の読解や発表のための日本語の基礎力を養うため、日本語能力試験N3レベルからN1レベルまでの読解力や文法、語彙の習得を目指します。また、日本語能力試験後はまとめとして、テーマに基づいた演習、簡単な発表を行います。

到達目標

日本語能力試験N3からN1程度の日本語力の習得を目指します。さらに自分の国や日本の文化について自分の考えを日本語で表現し、発表するための日本語の総合的な運用力を養います。

事前事後学習

毎授業の前に、必ず当該箇所の語彙を覚えておくこと。
授業後には配布したプリント・資料をファイリングし、整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	日本語能力レベルチェック・オリエンテーション	16	読解文法・語彙5(N2)
2	読解文法・語彙1(N3)	17	読解文法・語彙6(N2)
3	読解文法・語彙2(N3)	18	読解文法・語彙7(N2)
4	読解文法・語彙3(N3)	19	読解文法・語彙8(N2)
5	読解文法・語彙4(N3)	20	読解文法・語彙9(N2)
6	読解文法・語彙5(N3)	21	読解文法・語彙10(N2)
7	読解文法・語彙6(N3)	22	読解文法・語彙1(N1)
8	読解文法・語彙7(N3)	23	読解文法・語彙2(N1)
9	読解文法・語彙8(N3)	24	読解文法・語彙3(N1)
10	読解文法・語彙9(N3)	25	読解文法・語彙4(N1)
11	読解文法・語彙10(N3)	26	読解文法・語彙5(N1)
12	読解文法・語彙1(N2)	27	読解文法・語彙6(N1)
13	読解文法・語彙2(N2)	28	読解文法・語彙7(N1)
14	読解文法・語彙3(N2)	29	読解文法・語彙8(N1)
15	読解文法・語彙4(N2)	30	読解文法・語彙9(N1)

成績評価基準及び方法

小テスト、学期末試験(90%)、課題提出(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
レベルチェックの結果により、テキストを決定します。	必要に応じて紹介します。
関連のある授業科目	資格等
	なし

この科目は、日本語能力試験対策ではなく、日本語(文字語彙・文法・読解・記述)を総合的に学びます。

授業内容に疑問がある学生やN3程度のレベルの日本語力がない学生は、履修登録前に相談をしてください。

【次年度に向けての改善等について】

日本語能力試験対策を混ぜるのか？聴講生を認めるか？定住者ビザの学生の扱いは？

授業目的
・ねらい

科目名【 海外研修 】

《2単位(実習)／経営福祉学科・幼児保育学科1年後期／選択》

担当 者

経営福祉学科長・幼児保育学科長

授業の概要

本学では、例年11月下旬から12月の初旬にかけて約2週間のオーストラリアへの海外研修を実施しています。この研修の主な目的は、異文化に触れながら生活(ホームステイ)や学習(英会話研修・現地の幼稚園・施設等の見学および実習)を体験することです。そのなかで、国際感覚を身につけたり、自分自身の視野を広げることでもでき、学生時代の良き思い出にもなる有意義な研修となっています。
希望者のみですが、英会話が多少苦手である方も自由に参加できます。
授業計画(項目・内容)は、昨年度の実施状況を踏まえた内容を記載しています。詳細は後日に提示します。

到達目標

海外での生活の事前準備について理解を深め、研修においてその実際を学ぶ。

事前事後学習

研修先について事前に調べておく。研修後は、体験・歴史等について、学んだことをまとめる。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	事前オリエンテーション1(意義と目的等の説明)
2		2	事前オリエンテーション2(ホストファミリー、準備等について)
3		3	入国手続き、空港・機内における指導
4		4	研修センターにおけるオリエンテーション
5		5	英会話研修、他
6		6	英会話研修と体験学習(乗馬体験)
7		7	英会話研修と体験学習(アクティビティ)
8		8	英会話研修と体験学習(ハーバークルーズ)
9		9	英会話研修と体験学習(フェアウェルランチ)
10		10	英会話研修と体験学習(幼稚園・施設の見学・実習)
11		11	シドニー市内見学および研修1
12		12	シドニー市内見学および研修2
13		13	ホストファミリーとの市内観光および研修
14		14	英会話研修(まとめと修了式)
15		15	体験報告会(参加者による研修報告発表含む)

成績評価基準及び方法

実習(80%)、学習態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時、資料を配布	随時、参考資料を紹介
関連のある授業科目	資格等
基礎英語・英語応用・英会話Ⅰ・英会話Ⅱ	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	
--------------	--

ライフプランニング I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・久保英樹・黒木信吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。

到達目標

- ①就職に対する心構えを早期に確立する。
②社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身につける。

事前事後学習

配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	履修指導 全体指導・ゼミ別指導	1	
2	学科ガイダンス 大学での学び方	2	
3	学外研修 オリエンテーション	3	
4	ライフプランニング演習 キャリアデザイン (グループワーク)	4	
5		5	
6	学ぶことと働くということ 関連・意義	6	
7	就職環境の変化 社会で必要とされる人材	7	
8	企業研究 業界・業種・職種	8	
9		9	
10	自己理解 自己分析	10	
11		11	
12	卒業生講和 私が選んだ道(仮題)	12	
13	進路相談 個別面談	13	
14		14	
15	交通安全講和	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、課題消化状況(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	随時紹介します。
関連のある授業科目	資格等
ライフプランニング II	

ライフプランニングⅡ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・久保英樹・黒木信吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

社会人としての基礎能力を身に付け、これからの社会で生き抜くための人生観、職業観を確立させる。

到達目標

- ①自分らしい生き方を考える。
- ②ビジネスマナーの実際を習得する。
- ③卒業後の進路(職業選択)を明確にする。

事前事後学習

配布資料がある場合には事前に読んで予習しておくこと。講義後は、習った内容をノート等に各自まとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション 後期オリエンテーション及び履修指導
2		2	人生設計 ファイナンシャルプランナー講和
3		3	
4		4	学園祭について ゼミ別に学園祭について話し合い
5		5	学園祭準備 ゼミ別に学園祭の準備
6		6	一般常識① 模擬試験
7		7	身だしなみ・服装・動作 メイク・ヘア
8		8	
9		9	アサーション コミュニケーションスキル
10		10	文章作成
11		11	履歴書指導 個別指導
12		12	
13		13	一般常識② 模擬試験
14		14	一般常識③ 模擬試験
15		15	

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、課題消化状況(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	随時紹介します。
関連のある授業科目	資格等
ライフプランニングⅠ	

経営学 I

《2単位(講義)／経営福祉学科 1年前期 選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

今日、企業を取り巻く環境はますます厳しくなっている。貿易摩擦、リストラ、環境に対する企業責任、不良債権処理など、企業の個別対応だけでは解決できない課題が山積の状況である。しかし、企業は存続、維持されるべき宿命を負わされている。そこで、経営学 I の講義でこれらの諸問題解決の糸口を理解してもらいたい。

到達目標

資本主義社会における会社の役割、企業の国際化、これからの企業の社会的責任に対する理解を深める。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	企業の意義と役割①資本主義社会と社会主義社会	1	
2	企業の意義と役割②大企業と中小企業の区別	2	
3	企業の歴史①企業発展の歴史	3	
4	企業の歴史②生・家業、人的私企業	4	
5	企業の歴史③資本的私企業	5	
6	企業の歴史④現代企業	6	
7	企業の国際化①国際化の意義・動機	7	
8	企業の国際化②国際化の課題	8	
9	企業の国際化③経営資源の移転戦略	9	
10	企業の国際化④金融危機の問題	10	
11	会社形態 合名・合資・有限・株式	11	
12	株式会社①株式の意味	12	
13	株式会社②株式会社の現代の特徴	13	
14	株式会社③株式会社のガバナンス	14	
15	株式会社④株式会社の長所・短所	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「ゼミナール経営学入門」伊丹・加護野著 日本経済新聞社	配布資料
関連のある授業科目	資格等
経営学Ⅱ	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	
--------------	--

経営学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科 1年後期 選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

経営学Ⅰにおいて学んだ経営学に対する基礎的理解を前提にして、今日の経営学の課題に積極的に挑戦してみたい。

到達目標

人はなぜ働くか、について人の欲求にまで深めて理解する。また会社側および働く側双方から、働く意欲(インセンティブ)の意味を考える。さらに、日本の経営について、これまでとこれからについて理解する。

事前事後学習

授業計画のそれぞれにテーマに関連するテキストの箇所を授業前に読んでおくこと。ホワイトボードに記述したことをノートにとり、整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	人の欲求① マズローの欲求・生理的欲求、安全欲求
2		2	人の欲求② マズローの欲求・愛情欲求、尊厳欲求
3		3	人の欲求③ マズローの欲求・自己実現欲求
4		4	組織のインセンティブ①物的インセンティブ
5		5	組織のインセンティブ②評価的インセンティブ
6		6	組織のインセンティブ③理念的インセンティブ
7		7	組織のインセンティブ④自己実現的インセンティブ
8		8	企業文化①企業文化とは
9		9	企業文化②活力ある企業文化
10		10	企業文化③澱んでいる企業文化
11		11	日本的経営①日本的経営とは
12		12	日本的経営②終身雇用
13		13	日本的経営③年功主義
14		14	日本的経営④企業別組合・社内教育
15		15	経営学Ⅱのまとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「ゼミナール経営学入門」伊丹・加護野著 日本経済新聞社	配布資料
関連のある授業科目	資格等
経営学Ⅰ	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	
--------------	--

経済統計

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

日本経済の現状を理解するためには、様々な経済統計を参照する必要があり、経済統計の理解が必要不可欠である。本講義では、経済分析に必要な経済統計の意味を理解するとともに、様々な経済統計をもとにして日本経済の現状を解説してゆく。

到達目標

経済統計の意味を理解し、データをもとに、日本経済の現状を理解することを目的とする。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経済統計とは何か		
2	GDPとは何か(フローとストックについて)		
3	GDPとは何か(付加価値、総額と純額について)		
4	経済循環と三面等価の原則		
5	経済成長率		
6	寄与度・寄与率		
7	物価指数(パーシェ指数、ラスパイレス指数)		
8	失業率		
9	マネーストック		
10	為替レート		
11	一般会計予算		
12	公債残高		
13	株価		
14	まとめ1		
15	まとめ2		

成績評価基準及び方法

学習態度・小テスト・レポート課題(40%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	『経済統計入門』 中村隆英著 東京大学出版会
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、国際経済論、総合政策論	なし

中小企業論

《4単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

現在の日本経済を支えているのは一部の大企業ではなく、多くの中小企業である。中小企業は国民経済の礎であり、様々な技術やノウハウを持っている。中小企業の現状と特徴を理解することは、日本の経済、産業、流通、労働などを理解することにつながる。本講義では、中小企業を様々な観点から解説するとともに、学生の中小企業への理解の深化と関心を高める事を重視して進めていく。

到達目標

中小企業が経済において果たす役割と重要性、日本の中小企業の特徴を理解する。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	企業とは何か、中小企業とは何か	16	中小企業と労働問題
2	企業とは何か、中小企業とは何か	17	中小企業と金融問題
3	中小企業の経済的役割	18	中小企業と金融問題
4	中小企業の経済的役割	19	産業集積の概念と理論
5	中小企業を取り巻く経営環境	20	産業集積の概念と理論
6	中小企業を取り巻く経営環境	21	産業集積と中小企業
7	中小企業が抱える経営問題に対する課題と方策	22	産業集積と中小企業
8	中小企業が抱える経営問題に対する課題と方策	23	地域産業と地域中小企業
9	中小企業の経営革新	24	地域産業と地域中小企業
10	中小企業の経営革新	25	地域産業と地場産業
11	下請システムと中小企業	26	地域産業と地場産業
12	下請システムと中小企業	27	東アジアでの事業展開
13	労働市場の構造と賃金格差	28	東アジアでの事業展開
14	労働市場の構造と賃金格差	29	経済のグローバル化と中小企業
15	中小企業と労働問題	30	経済のグローバル化と中小企業

成績評価基準及び方法

学習態度・小テスト・レポート課題(40%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	『現代中小企業論』, 高田亮爾 他著, 2013年版, 同友館
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅰ・経済学Ⅱ	なし

【次年度に向けての改善等について】

学生が講義内容を深く理解できるように、パソコンを使用して、中小企業に関するデータの収集や、グラフや表の作成をやっていきたい。

授業目的
・ねらい

中小企業の重要性、大企業と中小企業の関係性などを理解する。

簿記

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／選択必修》

担当者

磯部雄大

授業の概要

簿記初学者を対象に簿記の基礎から日商簿記3級程度の力の習得を目指す。
簿記の実務は、問題やテキストでの勉強だけではイメージが湧きづらいので、実際の実務での処理も交えながら簿記の全体像を理解していきます。

到達目標

- ・簿記の流れについて理解する。
- ・勘定科目の意味を把握する。
- ・貸借対照表、損益計算書について理解する。

事前事後学習

事前にテキストの該当ページについて目を通しておくこと

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	簿記とは、資産・負債・資本と貸借対照表	16	その他債権・債務取引(立替金、預り金ほか)
2	収益・費用と損益計算書	17	売買目的有価証券、固定資産取引
3	取引と勘定記入	18	個人企業の資本と税務取引(資本金勘定、引出金勘定)
4	仕訳と転記	19	個人企業の資本と税務取引(個人企業の税金、消費税)、訂正仕訳
5	試算表、決算(決算とは、決算の手続き、振替と損益勘定)	20	演習問題他
6	決算(帳簿決算、損益計算書・貸借対照表の作成)	21	決算の手続き(決算、決算の手続き、決算整理事項①)
7	演習問題他	22	決算の手続き(決算整理事項①)
8	現金・預金取引(現金・現金過不足)	23	決算の手続き(棚卸表、8欄精算表)
9	現金・預金取引(当座預金・当座借越)	24	決算の手続き(BS、PLの作成)
10	現金・預金取引(小口現金)	25	決算の手続き(決算整理事項②)
11	商品売買取引(分記法と3分法)	26	決算の手続き(決算整理事項②)
12	商品売買取引(3分法による記帳)	27	伝票
13	掛け取引(売掛金と売掛金元帳、買掛金と買掛金元帳)	28	演習問題他
14	手形取引(受取手形勘定と支払手形勘定他)	29	演習問題他
15	その他の債権・債務取引(貸付金、借入金ほか)	30	演習問題他

成績評価基準及び方法

出席(50%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「基本簿記」 実教出版	
関連のある授業科目	資格等
会計学	日商簿記3級受験

【次年度に向けての改善等について】

学生の興味のある時事問題をもっと授業に取り込む

授業目的
・ねらい

社会人になってから必要な経理能力等を養うこと

簿記演習

《2単位(演習)／経営福祉学科 1年後期 選択必修》

担当者

坂口慶多

授業の概要

簿記の講義で学んだ知識で演習問題を数多く解く。

到達目標

日商簿記検定3級に合格できる程度の知識を身につける。

事前事後学習

基本簿記の該当ページを読み、復習しておくこと。
講義中に一度解くだけでは身につかないので、講義後も複数回解くこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	簿記とは、資産・負債・資本と貸借対照表	16	伝票・月次合計試算表
2	収益・費用と損益計算書	17	演習問題①
3	取引と勘定記入・仕訳と転記	18	演習問題②
4	試算表	19	演習問題③
5	決算	20	演習問題④
6	精算表、現金・預金取引(当座まで)	21	演習問題⑤
7	現金・預金取引、商品売買取引	22	演習問題⑥
8	掛け取引	23	演習問題⑦
9	手形取引、その他の債権・債務取引	24	演習問題⑧
10	売買目的有価証券	25	演習問題⑨
11	固定資産取引、個人企業の資本と税務取引	26	演習問題⑩
12	訂正仕訳、決算・決算整理手続き・決算整理事項(その1)	27	演習問題⑪
13	決算・決算整理手続き・決算整理事項(その1)	28	演習問題⑫
14	棚卸表・8欄清算表・損益計算書と貸借対照表	29	演習問題⑬
15	決算整理事項(その2)	30	その他講義

成績評価基準及び方法

定期試験(100%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「基本簿記演習」実教出版	
関連のある授業科目	資格等
会計学	日商簿記3級受験

【次年度に向けての改善等について】

学生の興味のある時事問題をもっと授業に取り込む。

授業目的
・ねらい

社会人になってから必要な計数感覚を養うこと。

情報ビジネス論 I・II

《4単位(講義)／情報福祉学科1年前期・後期／選択必修》

担当者

村上 亜由美

授業の概要

日本のしきたりやマナーの歴史を学び社会人として、国際人としてのマナーを理解し、堂々と振る舞えるように学んでいく。又、会社の仕組みを知り、仕事をの進め方、ビジネスコミュニケーションのルールを学ぶ。実践を通し訓練を繰り返すことで社会人としての振る舞い方、就職活動に役立つスキルを身につける。

到達目標

社会人として、国際人として、マナーとは何か。歴史、しきたり、意味を理解する。社会人として身につけた基礎知識を実践し、自身を持って社会の為、自己実現のために高い成果を達成できる人材になる。

事前事後学習

随時資料を配布します。資料をよく読み理解を深める事。必要に応じて「働く若者のハンドブック」を活用します。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	1 授業オリエンテーション	16	1 授業オリエンテーション
2	2 マナーとは何か、歴史と意味	17	2 第一印象
3	3 国際人としてのマナー	18	3 身だしなみ
4	4 社会人に必要なマナー	19	4 挨拶
5	5 社交の場でのコミュニケーション	20	5 発声法 (声のマナー)
6	6 会社の仕組み	21	6 自己PRの作成
7	7 仕事の進め方	22	7 お辞儀のマナー(実践)
8	8 電話対応のマナー	23	8 歩き方 座り方
9	9 来客対応のマナー	24	9 丁寧な言葉遣い
10	10 ビジネス文書のルール ①書面	25	10 自己PRの作成
11	11 ②電子メール他	26	11 就職活動について
12	12 食事のマナー (和・洋・中)	27	12 面接練習
13	13 しきたり、慣習について	28	13 面接練習
14	14 インバウンドとは何か	29	14 模擬面接、評価
15	15 まとめ レポート作成	30	15 まとめ レポート作成

成績評価基準及び方法

レポート(50%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
	働く若者のハンドブック
関連のある授業科目	資格等
情報ビジネス論	なし

【次年度に向けての改善等について】

後期に面接の実践練習があまりできなかったので、次年度は積極的に取り入れたい。

授業目的
・ねらい

短大の二年間で就職していくために早い段階から社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身につけ、実践に活かして欲しい。

コンピュータ概論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

コンピュータの原理やハードウェア、ソフトウェアなどの基本的な知識を習得する。さらに、情報を学ぶ上で必要な数学や論理学にもふれる。

到達目標

コンピュータを学ぶために必要な知識を学ぶだけでなく、プログラミングやシステム設計を学ぶ上で必要となる情報数学や論理学を身につける。

事前事後学習

講義中に練習問題を出すので、しっかりと復習しておくこと。次回に小テストを行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	コンピュータの誕生と歴史	1	
2	ハードウェア1	2	
3	ハードウェア2	3	
4	ソフトウェア(OSとアプリケーション)	4	
5	Microsoft Windowsとその他のOS	5	
6	データベース	6	
7	n進数	7	
8	論理数学1	8	
9	論理数学2	9	
10	情報数学1	10	
11	情報数学2	11	
12	知的財産権等の情報関連法規	12	
13	コンピュータネットワーク	13	
14	セキュリティについて	14	
15	最近の動向	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、小テスト(20%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	
関連のある授業科目	資格等
コンピュータリテラシー	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

コンピュータリテラシー

《2単位(演習)／経営福祉学科1年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

本講義では、パソコンの基本的な操作を学び、さらに社会人になるために必須となっているワードプロセッサ・表計算・プレゼンテーションのソフトウェアの操作方法を中心に学ぶ。また、インターネットを使っていく上で習得しておくべき情報セキュリティや情報モラルについて学ぶ。

到達目標

コンピュータの基本的な操作とオフィススイートの操作を習得することを目標とする。また、インターネットを利用した基本的なIT技術を身につける。

事前事後学習

演習中に行う演習については、時間内に終わらない場合は必ず次の演習までに終えておくこと。また、小テストを行うこともあるので、必ず前回の復習をしておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	パソコンの基礎知識 パソコンの基本操作1	16	Excel表作成 I 基本操作2
2	パソコンの基礎知識 パソコンの基本操作2	17	Excel 表作成 II グラフや計算式1
3	情報セキュリティと情報モラル1	18	Excel 表作成 II グラフや計算式2
4	情報セキュリティと情報モラル2	19	Excel 表計算 III 便利なツール1
5	Word 文書作成 I ページ設定、簡単な書式設定1	20	Excel 表計算 III 便利なツール2
6	Word 文書作成 I ページ設定、簡単な書式設定2	21	WordとExcelの連携1
7	Word 文書作成 II 画像ファイルやテキストボックスなど1	22	WordとExcelの連携2
8	Word 文書作成 II 画像ファイルやテキストボックスなど2	23	PowerPoint プレゼンテーション I テキストと画像1
9	Word 文書作成 III オートシェイプ1	24	PowerPoint プレゼンテーション I テキストと画像2
10	Word 文書作成 III オートシェイプ2	25	PowerPoint プレゼンテーション II マルチメディア1
11	Word 文書作成 III 表の操作1	26	PowerPoint プレゼンテーション II マルチメディア2
12	Word 文書作成 III 表の操作2	27	マイクロソフトOffice Word、Excel、PowerPoint以外のソフト
13	Word 文書作成 IV 総合演習1	28	インターネット ブラウザの基本操作とEメール
14	Word 文書作成 IV 総合演習2	29	インターネット を利用したファイルのやり取り
15	Excel 表作成 I 基本操作1	30	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、演習での成果(30%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	
関連のある授業科目	資格等
コンピュータ概論	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

社会福祉概論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

久保 英樹

授業の概要

人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援について概説する。
(授業の目的・ねらい)
「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

到達目標

1. 人間の多面的理解と尊厳について理解する。
2. 人間の尊厳の保持のための対応の仕方について理解する。
3. 自立と自律の考え方について理解する。
4. 介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎知識を習得する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	人間の多面的理解①
2		2	人間の多面的理解②
3		3	人間の尊厳①
4		4	人間の尊厳②
5		5	人間の自立と自律の考え方①
6		6	人間の自立と自律の考え方②
7		7	人間の自立と自律の考え方③、 確認テスト①
8		8	権利擁護とアドボカシー
9		9	人権尊重
10		10	身体的・精神的・社会的自立支援①
11		11	身体的・精神的・社会的自立支援②
12		12	介護における自立支援の方法 事例検討①
13		13	介護における自立支援の方法 事例検討②
14		14	尊厳保持と自立支援に関する制度 事例検討③
15		15	まとめ、確認テスト②

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、レポート(10%)、定期試験(70%)

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第3版)」中央法規出版

参考文献・推薦図書

「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社

関連のある授業科目

介護領域を編成する科目

資格等

介護福祉士国家試験受験資格
社会福祉主事任用資格

社会の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

久保 英樹

授業の概要

生活と福祉、社会保障制度について概説する。(授業の目的、ねらい) 1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。
2. わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。

到達目標

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。
2. 個人・家族・近隣・地域・社会の単位で人間を捉える視点を養う。
3. わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	生活と福祉(生活の構造)	1	
2	生活と福祉(家族とは)	2	
3	生活と福祉(地域社会と個人、人と社会、組織)	3	
4	生活と福祉(現代におけるライフスタイルの変化)	4	
5	生活と福祉(生活の支援と福祉の体系)	5	
6	生活と福祉(社会制度と人間生活の関係)、確認テスト①	6	
7	社会保障制度(社会保障制度の基本的な考え方)	7	
8	社会保障制度(社会政策と社会福祉)	8	
9	社会保障制度(社会保障制度の歴史的発展)	9	
10	社会保障制度(社会保障制度の発達)	10	
11	社会保障制度(社会保障制度の仕組み①)	11	
12	社会保障制度(社会保障制度の仕組み②)	12	
13	社会保障制度(社会保障制度の仕組み③)	13	
14	社会保障制度(これからの社会保障の課題)	14	
15	まとめ、確認テスト②	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、確認テスト(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%)

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第6版)」中央法規出版

参考文献・推薦図書

「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社

関連のある授業科目

社会の理解Ⅱ、介護領域を編成する科目

資格等

介護福祉士国家試験受験資格
社会福祉主事任用資格

介護基本 I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・介護福祉士を取り巻く状況について概説する。
・介護を必要とする人の理解について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

①わたしたちの生活を理解することができる。
②介護を必要とする人を理解することができる。
③介護の働きと基本的視点を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本 I」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	介護を必要とする人の理解	1 6	社会課題としての高齢者介護
2		1 7	「その人らしさ」の背景
3		1 8	
4		1 9	生活様式、生活文化の多様性
5		2 0	
6		2 1	
7		2 2	変化する社会
8		2 3	
9		2 4	時代や文化の理解
10		2 5	
11		2 6	
12		2 7	介護における生活環境という視点
13		2 8	
14		2 9	人的な生活環境の重要性
15		3 0	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護基本 I 第3版」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社 「第16巻 資料編 第7版」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

介護基本Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松本 末信

授業の概要

・尊厳を支える介護について概説する。
・自立に向けた介護について概説する。
・介護を必要とする人の理解について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

①尊厳を支える介護とは何かについて説明できる。
②自立に向けた介護とは何かについて説明できる。
③介護を必要とする人の生活ニーズは何かについて説明できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本Ⅰ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	介護を必要とする人の理解～「生活障害」とは
2		2	生活障害の理解と生活ニーズ 「生活ニーズ」とは
3		3	介護とは
4		4	自立に向けた介護とは 「生活支援」としての介護とは
5		5	介護における倫理観
6		6	介護職が行う生活支援
7		7	様々な生活支援とその意義
8		8	尊厳を支える介護とは
9		9	ノーマライゼーションの実現
10		10	尊厳を支える介護～介護の はたらきと基本的視点 ICFの考え方
11		11	
12		12	リハビリテーションの考え方
13		13	日常生活と社会生活の機能の 維持・拡大への支援
14		14	
15		15	リハビリテーション専門職との連携

成績評価基準及び方法

レポート(50%)、保育専門用語テスト(00%)、課題等提出物(00%)、学習態度(50%)

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ 第3版」中央法規出版

参考文献・推薦図書

「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版

関連のある授業科目

介護過程、社会福祉概論、障がいの理解、ほか

資格等

介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

介護基本V

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松永智也

授業の概要

・介護福祉士を取り巻く状況について概説する。
・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて概説する。
・介護従事者の倫理について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

・介護福祉士を取り巻く状況について説明できる。
・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて説明できる。
・介護従事者の倫理について説明できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本Ⅱ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	介護福祉士を取り巻く状況
2		2	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
3		3	介護における専門職能団体の活動
4		4	介護従事者の倫理
5		5	職業倫理
6		6	介護学の先行研究から学ぶ
7		7	
8		8	求められる介護福祉士とは？
9		9	介護福祉士とは？
10		10	介護サービスと介護福祉士の働く場を考える
11		11	「介護とは？」をテーマに発表会
12		12	
13		13	介護の日フォーラム
14		14	フォーラム準備
15		15	フォーラム 高齢者サービス 在宅ケアと施設ケア

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 第4版」中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、介護総合演習ほか	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

コミュニケーション技術 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松永智也(11)・小野尚寿(4)

授業の概要

・介護におけるコミュニケーションの基本について概説する。
・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション技法について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

到達目標

①介護におけるコミュニケーションの基本(意義や目的など)について説明できる。
②適切なコミュニケーションの実践ができる。
③様々なコミュニケーション障害のある利用者を理解できる。
④レクリエーションを通しコミュニケーションの工夫ができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「コミュニケーション技術 第2版」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	介護におけるコミュニケーションの基本(松永)	1	
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8	施設レクリエーション(松永)	8	
9		9	
10		10	
11		11	
12	在宅レクリエーション(松永)	12	
13		13	
14		14	
15		15	

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術 第3版」 中央法規出版	「七訂 介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、認知症の理解、ほか	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

コミュニケーション技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

松本末信(11)・中村久美(4)

授業の概要

・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて概説・習得する。
・介護におけるチームのコミュニケーションについて概説・習得する。
(授業の目的、ねらい)
介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

到達目標

①プロセスレコードについて学び、自己覚知と他者理解によって関係が深まっていく過程を理解することができる。
②介護現場での言語的コミュニケーションを基本として、非言語的コミュニケーション、準言語的コミュニケーションを学び、様々なコミュニケーション障害のある利用者を理解することができる。
③関係者と情報を適切に共有するために、記録や報告書を作成する意味を理解することができる。
④記録の種類と管理について理解すると共に、会議の重要性を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護の基本Ⅰ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	視覚障がいがある方とのコミュニケーション
2		2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション～視覚障がい～(中村)
3		3	点字をやってみよう
4		4	
5		5	報告、連絡、相談の重要性
6		6	事例検討
7		7	介護におけるチームのコミュニケーション～記録による情報の共有化について～(松永)
8		8	会議の重要性
9		9	
10		10	情報の共有と個人情報保護
11		11	
12		12	文書作成
13		13	介護におけるチームのコミュニケーション(松永)
14		14	
15		15	プロセスレコード

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成校座 第5巻 コミュニケーション技術 第3版」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい

介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

生活支援技術 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松本 末信

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
・自立に向けた移動の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
④安心して心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「生活支援技術Ⅱ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1	生活を理解する視点と環境	16		
2		洗面・整髪を理解する		17
3	ひげ・爪の手入れ	18		
4	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	19		
5		点眼・化粧		20
6		口腔ケアを理解する		21
7	歩行介助を理解する	22		
8	・自立に向けた移動の介護 ～移動・移乗の基本的理解	23		
9		車いす介助を理解する		24
10	生活支援における介護	25		
11		移乗の介護を理解する		26
12	安楽な体位の保持を理解する	27		
13	体位変換を理解する	28		
14	自立に向けた排泄の介護～ 排泄の意義・目的	29		
15		排泄の介護(尿器・差し込み便器)		30
16	排泄の介護(トイレ・ポータブルトイレ)			
17	課題別確認テスト			
18	技術の確認テスト			

成績評価基準及び方法

レポート(50%)、保育専門用語テスト(00%)、課題等提出物(00%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」 中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

生活支援技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松本 末信

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
・自立に向けた移動の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
④安心して心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「生活支援技術Ⅱ」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	生活を理解する視点と環境	ICFの視点・アセスメントを理解する	16
2		洗面・整髪	17
3		シーツ交換	18
4	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	ひげ・爪の手入れ・点眼・化粧	19
5			20
6		口腔ケア	21
7	・自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解	歩行介助	22
8		車いす介助	23
9		移乗の介護	24
10	生活支援における介護	安楽な体位の保持	25
11		体位変換	26
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	排泄の介護(尿器・差し込み便器)	27
13		排泄の介護(トイレ・ポータブルトイレ)	28
14	課題別確認テスト		29
15		技術の確認テスト	30

成績評価基準及び方法

実技試験(50%)、保育専門用語テスト(00%)、課題等提出物(00%)、学習態度(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」 中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

科目名【 生活支援技術Ⅲ 】

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／介護必修》

担当者

竹永 鴻

授業の概要

- ・生活支援について概説する。
- ・自立に向けた居住環境の整備について概説する。

到達目標

- ①住宅の改修を課題に平面計画の設計及び作図
- ②居住環境の改修設計に関する学習レポートの提出
- ③高齢者及び障害者のための住宅の基本的な計画のレポート提出

事前事後学習

- ①人が安心して快適に暮らすために必要な環境整備を習得する。
- ②他の領域との関連性を理解する。
- ③住宅や施設での生活環境など、その特性を理解する。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1	生活環境における居住環境整備の意義と目的	16		
2		居住環境の整備とは		17
3		生活空間と介護		18
4		居住環境のアセスメント		19
5				20
6		21		
7	居住環境の整備	22		
8		高齢者住宅を考える		23
9		施設入所中のA氏が自宅に帰るには？		24
10		中古住宅の改修を課題に平面図を作成する		25
11				26
12	27			
13	安心で快適な生活の場作り	28		
14		住まいの場における工夫・留意点		29
15		集団生活の場における工夫・留意点		30

成績評価基準及び方法

レポート(30%)、課題等提出物(50%)、学習態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ 4版」中央法規出版	1.長寿社会対応住宅設計(戸建住宅編) 2.高齢化住宅リフォームマニュアル(熊本県監修)
関連のある授業科目	資格等
建築学科と住宅の改修計画、設計、製図完成	一級建築士(国土交通大臣許可) 第247477号

【次年度に向けての改善等について】

本学の卒業生が介護専門員となるためにも、ぜひ在宅改修の知識と計画、設計の技術を身につけたい。	
授業目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

生活支援技術Ⅳ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
・自立に向けた睡眠の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解することができる。
②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
③利用者の状況に合わせた介護技術を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	自立支援の入浴介護
2		2	入浴におけるアセスメント
3		3	入浴・清潔保持の介護 部分入浴の基本理解
4		4	清潔保持の基本理解
5		5	他職種の役割と協働
6		6	自立支援の排泄介護
7		7	排泄におけるアセスメント
8		8	排泄の介護 排泄における基本理解
9		9	他職種の役割と協働
10		10	自立支援の睡眠介護
11		11	睡眠におけるアセスメント
12		12	睡眠の介護 安眠における基本理解
13		13	他職種の役割と協働
14		14	他職種の役割と協働
15		15	他職種の役割と協働

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

・「生活支援技術Ⅴ」と2コマ連続で介護棟にて授業を行いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

授業目的
・ねらい

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

生活支援技術Ⅴ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説・習得する。
・自立に向けた排泄の介護について概説・習得する。
・自立に向けた睡眠の介護について概説・習得する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解することができる。
②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
③利用者の状況に合わせた介護技術を理解することができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1		1	入浴・清潔保持の意義	
2		2	入浴・清潔保持の介護	
3		3		入浴・清潔保持の目的
4		4		入浴介護技術
5		5		
6		6	排泄の介護	
7		7		排泄の意義
8		8		排泄の目的
9		9	排泄の介護技術	
10		10		
11		11	睡眠の介護	
12		12		睡眠の意義
13		13		睡眠の目的
14		14	睡眠の介護技術	
15		15	技術テスト	
			介護技術テスト	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、実技試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第3版」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

・生活支援技術Ⅳと連続で介護棟にて行いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

授業目的
・ねらい

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

生活支援技術Ⅶ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／選択必修》

担当者

山口 亮治

授業の概要

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

生活支援について概説する。
自立支援に向けた居住環境の整備について概説する。
自立に向けた身支度の介護について概説する。
自立に向けた移動の介護について概説する。

事前事後学習

①介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。 ②利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	運動機能障害とADL
2		2	生活場面と支援
3		3	介護技術の展開
4		4	心臓機能障害の理解
5		5	介護技術の展開
6		6	腎臓機能障害の理解
7		7	介護技術の展開
8		8	呼吸器機能障害の理解
9		9	介護技術の展開
10		10	膀胱機能障害の理解
11		11	介護技術の展開
12		12	肝機能障害の理解
13		13	介護技術の展開
14		14	重複障害の理解
15		15	介護技術の展開

成績評価基準及び方法

小テスト(10%)、学習態度(10%)テスト(80%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版	「介護福祉用具辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ、介護基本など	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

教科書の輪読と小テストを組み合わせで行ってきたが、疾患別の介護技術の実技を取り入れる

授業目的
・ねらい

介護支援に向けた介護技術の習得

介護過程 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松本 末信

授業の概要

・介護過程の意義について概説する。
・介護過程の展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

①介護過程の意義と目的を理解することができる。
②生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解することができる。
③ICFの考え方について理解することができる。
④介護を提供するためのアセスメントの必要性を理解する。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	介護過程の意義・目的	16	
2		17	
3		18	
4		19	
5	介護過程の展開～ICFの考え方と介護過程	20	
6		21	
7		22	
8		23	
9	介護過程の展開～情報収集の方法	24	
10		25	
11		26	
12	介護過程の展開～事例	27	
13		28	
14		29	
15	事例検討	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 第3版」 中央法規出版	「七訂 介護福祉士用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術など	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

介護過程Ⅱ

《1単位(演習)/経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・介護過程の展開について概説する。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

①介護過程の展開のプロセスを理解することができる。
②介護過程の一連の流れを理解し、展開することができる。
③利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開を学ぶことができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストを読んでおくこと。
・授業時に使用した配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	介護過程の展開～介護過程の全体像
2		2	アセスメント、介護計画、実施、モニタリングの過程を理解する
3		3	介護過程の実践的展開～利用者を理解する①
4		4	生活歴、心身の状況等から考えるアセスメント
5		5	
6		6	介護過程の実践的展開～アセスメント表の作成
7		7	アセスメント表作成の実際
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	介護過程の実践的展開～介護計画の作成
12		12	アセスメント表を参考に個別援助計画書を作成する
13		13	
14		14	介護過程の実践的展開～利用者を理解する②
15		15	実習先で受け持つ担当者の仮アセスメント表と仮個別援助計画書を作成する

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 第3版」中央法規出版 実習のしおり	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護実習、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

介護総合演習 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

介護実習 I aの実習を充実したものにするため、記録の書き方、研究の準備、介護技術の確認等を学ぶ。また、身だしなみ等、実習に必要な姿勢も同時に学ぶ。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
・他科目での学びの統合化について概説する。
・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①介護実習のあり方を理解できる。
- ②実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備をしておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

授業計画(項目・内容)

回		前期	回	後期
1		介護実習の意義と目的	1	
2	介護実習で何を学ぶのか	介護実習の種類	2	
3		実習前後の学びと活かし方	3	
4	介護実習とは	介護福祉士資格取得までの道筋	4	
5	介護実習 I aについて	通所介護・通所リハビリテーションの機能と役割を知る	5	
6	介護実習を知る	2年生の介護実習体験者の体験談を聴講する	6	
7		実習先の説明	7	
8		施設概要の書き方・作成	8	
9		実習目標の説明	9	
10		実習目標の作成	10	
11	介護実習 I a へ向けて実習準備	自己紹介書、個人情報に関する誓約書記入	11	
12		実習日誌の書き方について①	12	
13		実習日誌の書き方について②	13	
14		記録物等の準備、実習説明会の開催、及び個人面接	14	
15			15	

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」 中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程など	介護福祉士受験資格

介護総合演習Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者 松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

介護実習Ⅰbの実習を充実したものにするため、実習Ⅰaの研究のまとめ、発表し、介護実習Ⅰbの自己課題や研究テーマを明確にし、高齢者施設介護に向けた準備を行う。また、課題別介護技術を習得する。

(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。

授業の概要

- ・介護福祉士養成校における介護実習について概説する。
- ・他科目での学びの統合化について概説する。
- ・多職種協働の意味と重要性の意識化について概説する。

(授業の目的、ねらい)

・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記帳できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。
- ③実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備しておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1		1	お礼状作成、提出物の確認	
2		2	介護実習Ⅰaの振り返り 介護実習Ⅰa報告書の作成①	
3		3		介護実習Ⅰa報告書の作成②
4		4		介護実習Ⅰa報告書の作成③
5		5	介護研究を知る 2年生の介護研究発表会の聴講	
6		6	介護実習報告会Ⅰa 自己の実習を報告する	
7		7		
8		8	介護実習Ⅰb実習準備 施設概要の書き方・作成	
9		9		実習先の説明
10		10		実習目標の説明
11		11	実習目標の作成	
12		12		
13		13		
14		14	介護技術確認テスト 課題別介護技術確認テスト	
15		15		

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版・実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

介護実習 I a

《2単位(実習)／経営福祉学科1年前期集中・介護必修》

担当者

松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

本実習では、訪問介護事業所と通所介護事業所で計12日間の実習を実施するものとする。
(授業の目的、ねらい)
・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

到達目標

- ①本学の書式を活用し、受け持ち利用者のアセスメントの方法が理解できる。
- ②介護技術の確認を行い、様々な技術を身につける。
- ③多職種協働や関係機関との連携を理解する。
- ④介護福祉士の役割について理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
	◆期日 1年次:8月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)	1	
		2	
	◆実習先	3	
	①訪問介護(3日間)	4	
	②通所介護(9日間)	5	
	◆目標	6	
	① 本学の書式を活用し、受け持ち 利用者のアセスメントの方法が理 解できる。	7	
	②介護技術の確認を行い、様々 な技術を身につける。	8	
	③多職種協働や関係機関との連 携を理解する。	9	
	④介護福祉士の役割について 理解する。	10	
		11	
		12	
		13	
		14	
		15	

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程、介護総合演習など	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

- ①事前事後学習の変更
- ②成績評価基準及び方法の変更

授業目的
・ねらい

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

介護実習 I b

《2単位(実習)／経営福祉学科1年後期集中・介護必修》

担当者

松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

本実習では、特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設のうち、いずれか1つの施設で合計12日間の実習を行うものとする。
(授業の目的、ねらい)
・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

到達目標

- ①受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画、実施といった介護過程の展開ができる。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療職と介護職の役割の違いについて理解する。
- ④在宅復帰に向けた支援を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1			◆期日 1年次:2月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず)
2			◆実習先 特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設
3			◆目標【第1週】
4			①施設のスケジュールを把握すると共に、日常生活上の介護技術を習得する。
5			②実習指導者の指導を受け、受け持ち者のアセスメント、計画の作成を行う。
6			◆目標【第2週】
7			③介護計画に基づく実施を展開する。
8			④関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
9			⑤医療職と介護職の役割の違いについて理解する。
10			⑥在宅復帰に向けた支援を理解する。
11			
12			
13			
14			
15			

介護技術の実践を軸とした介護実習をおこなう。

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版・実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護過程、生活支援技術、社会の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

- ①到達目標の③の内容変更
- ②成績評価基準及び方法の変更
- ③授業計画(項目・内容)の◆目標【第2週】の⑤の内容変更

授業目的
・ねらい

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

発達と老化の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・人間の成長と発達の基礎的理解について概説する。
・老年期の発達と成熟について概説する。
・老化に伴うところとからだの変化と日常生活について概説する。
(授業の目的、ねらい) 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得することを目的とする。

到達目標

①人間の成長と発達の基礎について理解できる。
②老年期の発達と成熟について説明できる。
③老化に伴うところとからだの変化と日常生活について説明できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	人間の成長と発達の基礎的理解～人間の成長と発達,発達課題と個人差	1	
2	人間の成長と発達の基礎的理解～人間の発達段階と発達課題と個人差	2	
3	老年期の発達と成熟～老化がおよぼす心理的影響	3	
4	老年期の発達と成熟～老いの価値観・受容、老年期の発達課題の留意点	4	
5	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～高齢者のこころの問題と精神障害	5	
6	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～心理的影響、老いの価値観・受容	6	
7	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～身体的機能の変化と日常生活への影響 外見上の変化、免疫機能の変化	7	
8	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～身体的機能の変化と日常生活への影響 感覚機能の変化	8	
9	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 咀嚼・消化機能の変化	9	
10	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 循環器系の変化	10	
11	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 呼吸器系の変化	11	
12	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響 骨・関節系、体温維持機能の変化	12	
13	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響まとめ	13	
14	老化に伴うところとからだの変化と日常生活～知的機能の変化と日常生活への影響	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第11巻 発達と老化の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ 介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

認知症に関する基礎を習得すると共に認知症にある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

発達と老化の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・高齢者と健康について概説する。
(授業の目的、ねらい) 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。

到達目標

①高齢者と健康について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	高齢者と健康～高齢者の症状・疾患の特徴
2		2	高齢者と健康～高齢者に多い症状・訴えとその留意点
3		3	高齢者と健康～高齢者に多い症状・訴えとその留意点
4		4	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 生活習慣病
5		5	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 骨・関節疾患
6		6	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 口腔、目、耳の疾患
7		7	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 皮膚、呼吸器系の疾患
8		8	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 腎・泌尿器系の疾患
9		9	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 消化器系の疾患
10		10	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 循環器系の疾患
11		11	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 婦人科系の疾患
12		12	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 脳・神経系の疾患
13		13	高齢者と健康～高齢者に多い病気と留意点 精神の病気、特定疾患の疾患
14		14	高齢者と健康～保健医療職との連携について
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第11巻 発達と老化の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ 介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得することを目的とする。

認知症の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・認知症を取り巻く状況について概説する。
・医学的側面から見た認知症の基礎について概説する。
・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について概説する。
(授業の目的、ねらい) 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

①認知症を取り巻く状況について理解できる。
②医学的側面から見た認知症の基礎について理解できる。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	認知症を取り巻く状況～認知症の人の生きる世界	1	
2	認知症を取り巻く状況～認知症ケアの歴史、理念と視点	2	
3	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症とは？診断と治療	3	
4	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の原因疾患	4	
5	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人の行動	5	
6	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人の生活	6	
7	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人の介護	7	
8	医学的側面から見た認知症の基礎～認知症の人に対する介護～認知症のひとへのかかわり	8	
9	医学的側面から見た認知症の基礎～初期の認知症への介護、中期の認知症への介護	9	
10	医学的側面から見た認知症の基礎～後期の認知症への介護	10	
11	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～特徴的な心理的影響と行動障害	11	
12	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～周辺症状の背景にあるこころの理解	12	
13	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響	13	
14	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～認知症の特性を踏まえたアセスメント	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的・ねらい	
	認知症に関する基礎的知識を習得すると共に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

認知症の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について概説する。
・認知症の方をサポートする為の連携と協働について概説する。
・認知症の方の家族の支援について概説する。
(授業の目的、ねらい) 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

①認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解できる。
②認知症の方をサポートする為の連携と協働について理解できる。
③認知症の方の家族の支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～認知症の人を支える介護の仕事
2		2	連携と協働～地域におけるサポート体制、チームアプローチ
3		3	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～グループ毎にまとめる(認知症とは？全体像をGWを通して考える)
4		4	
5		5	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～事例検討～
6		6	実習で体験した事例からのディスカッション・検討・考察発表(実習の経験から)
7		7	
8		8	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活～認知症に関する最新情報を探る
9		9	報道、記事、インターネットを利用(レポートを作成し提出)
10		10	家族への支援～認知症の人に対する介護について(GW)
11		11	家族への支援～認知症の人に対する介護について発表・まとめ
12		12	家族への支援～認知症受容のための援助
13		13	家族への支援～家族のレスパイト
14		14	連携と協働～認知症に関する諸制度および関係機関
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的・ねらい	
	認知症に関する基礎的知識を習得すると共に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得することを目的とする。

からだのしくみ I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年通年・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・こころのしくみについて説明する。
・からだのしくみについて説明する。
・身じたく、移動、食事に関連したところとからだのしくみについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。

到達目標

- ①こころのしくみについて説明できる。
- ②からだのしくみについて説明できる。
- ③身じたくに関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ④移動に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
- ⑤食事に関連したところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	こころのしくみの理解～人間の欲求とは、基本的欲求・社会的欲求等について	16	身じたくに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
2	こころのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題	17	身じたくに関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
3	こころのしくみの理解～自己概念と尊厳、生きがい等について	18	身じたくに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
4	こころのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題(演習)	19	移動に関連したところとからだのしくみ～基礎知識
5	こころのしくみの理解～こころのしくみの基礎①	20	移動に関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
6	こころのしくみの理解～こころのしくみの基礎②	21	移動に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が移動に及ぼす影響
7	こころのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題(演習)	22	移動に関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
8	からだのしくみの理解～生命の兆候について	23	移動に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
9	からだのしくみの理解～自分の生活で考えてみよう、テキスト課題(演習)	24	移動に関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
10	からだのしくみの理解～からだのしくみの基礎①	25	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～基礎知識
11	からだのしくみの理解～からだのしくみの基礎②	26	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
12	からだのしくみの理解～ボデイメカニクス、テキスト課題(演習)	27	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が食事に及ぼす影響
13	身じたくに関連したところとからだのしくみ～基礎知識	28	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)
14	身じたくに関連したところとからだのしくみ～あなたはどんな？、テキスト課題(演習)	29	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応
15	身じたくに関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が身支度に及ぼす影響	30	食事のしくみに関連したところとからだのしくみ～テキスト課題(演習)

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第14巻 こころとからだのしくみ」 第3版中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

①概要、目標の変更、事前事後学習追加 ②授業計画変更 ③テキスト 「第3版」を追加 ④関連のある授業科目追加 ⑤資格等追加

授業目的
・ねらい

介護技術の根拠となる人体の構造・機能・こころのしくみを介護実践との関連の中で理解していく介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。

医療的ケア概論 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期・介護必修》

担当者

中村京子

授業の概要

医療的ケア実施にあたっての基礎知識として、関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などを学習する。

到達目標

- ① 医療的ケアに関してチーム医療と連携の必要性が説明できる。
- ② 安全にたんの吸引や経管栄養を提供する重要性を説明できる。
- ③ 感染予防について、説明できる。
- ④ 健康状態の把握ができ、急変状態の対応と報告ができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	人間と社会 ①個人の尊厳と自立、②医療の倫理、③利用者や家族の気持ちの理解	1	
2	保険医療制度	2	
3	医行為に関する法律とチーム医療と介護職員との連携	3	
4	安全な療養生活(1)痰の吸引の安全な実施	4	
5	安全な療養生活(2)経管栄養の安全な実施	5	
6	安全な療養生活(3)痰の吸引と経管栄養のリスクマネジメント、ヒヤリハット	6	
7	安全な療養生活(4)救急蘇生法①	7	
8	安全な療養生活(5)救急蘇生法②	8	
9	清潔保持と感染予防(1)感染予防、職員の感染予防	9	
10	清潔保持と感染予防(2)療養環境の清潔、消毒法	10	
11	清潔保持と感染予防(3)滅菌と消毒	11	
12	健康状態の把握(1)身体・精神の健康	12	
13	健康状態の把握(2)健康状態の観察法、バイタルサイン	13	
14	健康状態の把握(3)急変状態について	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」第3版 中央法規出版	「資料編」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	医療的ケア 基本研修修了

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な基礎知識を習得する。

医療的ケア概論Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期・介護必修》

担当者

中村京子

授業の概要

喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ①呼吸のしくみと痰の吸引について説明できる。
- ②安全で適切なたんの吸引の手順が説明できる。
- ③たんの吸引を必要とする人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	高齢者及び障害児・者の「たん吸引」概論
2		2	呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態
3		3	たんの吸引とは
4		4	人工呼吸器と吸引①
5		5	人工呼吸器と吸引②
6		6	子どもの吸引について
7		7	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、呼吸器系の感染と予防
8		8	たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認
9		9	急変、事故発生時の対応と事前対策及び障害児・者の「たん吸引」実施手順解説
10		10	たんの吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持
11		11	吸引の技術と留意点(1)必要物品の準備と利用者の状態観察
12		12	吸引の技術と留意点(2)吸引の実施手順と留意点
13		13	吸引の技術と留意点(3)吸引実施に伴う利用者の身体変化
14		14	吸引の技術と留意点(4)吸引物の確認、記録と報告、痰の吸引に伴うケア、後片付け
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート等の提出物(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」第3版 中央法規出版	「資料集」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	医療的ケア 基本研修修了

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

授業のテーマ・目的・到達目標
たんの吸引を安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

地域福祉論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

久保英樹

授業の概要

講義、グループワークを通じ、多様な地域の問題事例を基に地域福祉の基本的な考え方とその内容について概説する。また、地域住民の生活ニーズ充足にむけての社会資源の活用・調整・開発のための方法について概説する。

到達目標

- ①地域福祉の基本的考え方について理解する。
- ②地域住民の自立生活実現にむけての各組織、専門職の役割について理解する。
- ③地域問題解決における援助方法について理解する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	地域福祉の歴史とその基本的考え方①(地域福祉の理論)
2		2	地域福祉の基本的考え方(地域分析の枠組み)
3		3	地域福祉に関連するわが国の諸制度
4		4	地域福祉に関連するわが国の諸制度
5		5	地域福祉に関連する組織(社会福祉法人)
6		6	地域福祉に関連する組織(NPO)
7		7	地域福祉に関連する組織(社会福祉協議会)
8		8	地域福祉に関連する組織(共同募金会)
9		9	地域福祉に関連する組織(民生委員・児童委員)
10		10	コミュニティソーシャルワークの実際①
11		11	コミュニティソーシャルワークの実際②
12		12	社会資源活用、調整、開発の進め方
13		13	事例検討①
14		14	事例検討②
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

授業態度(10点)、確認テスト(10点)、レポート課題(10点)、筆記試験(70点)

テキスト	参考文献・推薦図書
「福祉を拓く2」 南方新社	「社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法」(中央法規出版)
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、社会の理解Ⅰ、Ⅱ	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

【次年度に向けての改善等について】

学生が具体的にイメージができるように視聴覚教材等を用いながら演習を実施していく。
また、レポート課題や確認テストを実施し、学生らの習熟度を高められるよう努める。

心理学

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／介護必修》

担当者

坂本哲朗

授業の概要

私たちは、高齢者への道を歩み続けている。介護福祉に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。
緊急に解決すべき課題が生じた場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション。人は見かけで決まるか	1	
2	本当の私とはⅠ 自尊感情	2	
3	本当の私とはⅡ 感情と健康	3	
4	相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション	4	
5	相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾	5	
6	もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則	6	
7	もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展、失恋	7	
8	みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力	8	
9	みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力	9	
10	見えない情報圧力とはⅠ 消費行動	10	
11	見えない情報圧力とはⅡ 群衆心理	11	
12	ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存	12	
13	ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時、資料を配布する。	「本当にわかる心理学」植木理恵著 日本実業出版社 「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
	社会福祉主事任用資格

【次年度に向けての改善等について】

自分の心に関心を持ち、心身に不自由のある人と共生、成長する心情を育てる。	
授業目的 ・ねらい	具体的事象、事例から、自他の心情に関心を持ち、豊かな対人関係能力を育てる。

英語応用

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期》

担当者

米本直美

授業の概要

1年時より高度な文法の学習、そしてそれらを使って、各々の学生に適した教材を使い、英文を読み、日本語、英語で要約をしていきます。自らの言葉をスピーキングやライティングで、英語にする練習をしていきます

到達目標

多岐にわたる英語の文章を読むことで、英語力を養うとともに、より広い視点を持つ。読む、書く、話すなど実践的英語力を取得する

事前事後学習

単語や文法の復習をする

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	シラバスの説明、自己紹介など	16	
2	文法復習、スラッシュReading復習	17	
3	単語力、文法力を強化しよう (1)	18	
4	単語力、文法力を強化しよう (2)	19	
5	読解力をつけよう & 要約 (1)	20	
6	読解力をつけよう & 要約 (2)	21	
7	読解力をつけよう & 要約 (3)	22	
8	プレゼンテーション	23	
9	読んでみよう、書いてみよう、伝えてみよう (1)	24	
10	読んでみよう、書いてみよう、伝えてみよう (2)	25	
11	読んでみよう、書いてみよう、伝えてみよう (3)	26	
12	英文ビジネスE-mailに挑戦しよう (1)	27	
13	英文ビジネスE-mailに挑戦しよう (2)	28	
14	映画鑑賞	29	
15	プレゼンテーション	30	

成績評価基準及び方法

定期試験(30%)、課題提出及びプレゼンテーション(30%)、学習態度(小テスト結果含む)(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
コピーにて対応	
関連のある授業科目	資格等

【次年度に向けての改善等について】

--

授業目的
・ねらい

--

ライフプランニングⅢ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

1年次に身につけた知識や技術をもとに具体的に進路決定のために行動する。

事前事後学習

随時指示する。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション 履修指導及び進路志望調査	1	
2	進路指導 全体指導 業種、職種などについて	2	
3	進路指導 全体指導 就活サイト登録など	3	
4	進路指導 全体指導 社会人としてのマナー I	4	
5	進路指導 全体指導 社会人としてのマナー II	5	
6	進路指導 全体指導 履歴書の書き方 I	6	
7	進路指導 全体指導 履歴書の書き方 II	7	
8	進路指導 全体指導 卒業生講和	8	
9	進路指導 全体指導 就職講和	9	
10	進路指導 ゼミ別に進路指導	10	
11	基礎学力向上 全体指導 就職模擬試験	11	
12	基礎学力向上 全体指導 適性検査	12	
13	基礎学力向上 全体指導 小論文指導	13	
14	進路指導 全体指導 就職活動状況調査	14	
15	進路指導 全体指導 夏季休暇の有効活用	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題の消化状況(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	随時紹介します。
関連のある授業科目	資格等
ライフプランニングⅣ	

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

社会の急激な変化に対応できる、広い視野と的確な判断力をそなえた積極的で意欲ある人材の育成を目的としている。

ライフプランニングⅣ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期／卒業必修》

担当者

坂本哲朗・宇野木広樹・深町修一・
松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

進路指導と、各自の個性に応じた専門知識と技術の修得を行う。

到達目標

進路を決定し社会人になるための準備をする。

事前事後学習

随時指示する。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション 後期オリエンテーション及び進路決定状況調査
2		2	進路指導 ゼミ別に進路指導
3		3	進路指導 ゼミ別に進路指導
4		4	学園祭について ゼミ別に学園祭について話し合い
5		5	進路指導 ゼミ別に進路指導
6		6	学園祭準備 ゼミ別に学園祭の準備
7		7	学園祭に対するゼミ学生の反省・評価を発表
8		8	進路指導 ゼミ別に進路指導
9		9	進路指導 ゼミ別に進路指導
10		10	進路指導 ゼミ別に進路指導
11		11	進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応
12		12	進路状況確認と個別指導
13		13	個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得
14		14	個別指導及び進路決定者には進路先で必要とされる知識の習得
15		15	進路指導 全体指導 進路決定状況調査及び未決定者の対応

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題の消化状況(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	随時紹介します。
関連のある授業科目	資格等
ライフプランニングⅢ	

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

社会の急激な変化に対応できる、広い視野と的確な判断力をそなえた積極的で意欲ある人材の育成を目的としている。

経済学 I

《2単位(講義) / 経営福祉学科2年前期 / 選択必修》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

我々は周囲の人々との色々な関係の中で生活しています。個人の行動は少なからず、周囲の人々の行動に影響を与え、それが社会全体への影響として波及していきます。集団的意思決定メカニズムでは、結果が自分ひとりの行動によって決まるのではなく、相手の行動によっても異なります。このように、複数の主体が相互に依存し合う状況をゲーム理論を用いて簡潔に表現し、理解していきます。また、家計や企業の経済行動を考えるマイクロ経済学の基礎的な部分を、身の回りの状況に照らし合わせながら解説していきます。

到達目標

マイクロ経済学とゲーム理論とはどのようなものか、消費者行動の理論、生産者行動の理論、戦略形ゲーム、展開形ゲームなどを理解する。公務員試験などで出題される問題を解けるようになる。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経済学とは何か		
2	需要と供給		
3	市場均衡		
4	均衡に影響を与える要因		
5	限界効用均等の法則		
6	限界生産力		
7	利潤最大化条件		
8	インセンティブと戦略		
9	ナッシュ均衡		
10	戦略形ゲーム(1)		
11	戦略形ゲーム(2)		
12	展開形ゲーム(1)		
13	展開形ゲーム(2)		
14	展開形ゲーム(3)		
15	まとめ		

成績評価基準及び方法

学習態度・小テスト・レポート課題(40%)、定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	『マイクロ経済学戦略的アプローチ』、梶井厚志、松井彰彦著、日本評論社
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅱ、総合政策論、経済統計	なし

経済学Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

人々の意見をまとめてその中から望ましい選択肢を選び出すルールを集約ルールといいます。代表的な集約ルールは単純多数決であり、我々は普段から良く用いています。しかし、単純多数決よりも優れた集約ルールがたくさん存在します。より良い集約ルールを社会全体の意思決定に用いる事で、我々の意思が反映される社会が実現されるのです。
本講義では、社会選択論を基礎として、様々な集約ルールを紹介し、それらの特徴を解説していきます。最終的に日本の憲法改正要件に関して、理論的に考えていきます。

到達目標

様々な集約ルールを理解し、実際に意見集約の際に最適な集約ルールを用いる事が出来るようになる。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	順序関係と選好
		2	選好関係
		3	選択構造
		4	独立投票モデル
		5	単純多数決の問題点
		6	ペア敗者基準
		7	スコアリングルール
		8	ペア勝者基準
		9	多数決ルール
		10	コンドルセ・ヤングの最尤法
		11	マルケヴィッチの反例
		12	オストロゴルスキーのパラドックス
		13	単峰性と中位投票者定理
		14	憲法改正を考える
		15	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度・小テスト・レポート課題(40%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か-』,坂井豊貴著,岩波新書
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅰ、総合政策論、経済統計	なし

【次年度に向けての改善等について】

学生に経済学が身近な学問であることを知ってもらうために、どのようなところで経済学が応用されてきているのかを紹介していきたい。	
授業目的・ねらい	本講義で学ぶことで、多人数の意見を集約して意思決定を行う事の意義とその方法を理解する。

国際経済論

《4単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

現在、世界的に所得と資産の格差が拡大してきている。このままでは、富めるものはますます富み、貧しいものはますます貧しくなるのか。この事を考える為に、所得と資産の格差が起こるメカニズムを理論とデータを用いて説明していきます。また、近年の国際情勢を解説していきます。

到達目標

所得・資産格差の発生メカニズムを理解するとともに、近年の国際事情を理解する。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	所得・資産格差の拡大(1)	16	資産格差拡大の原因(4)
2	所得・資産格差の拡大(2)	17	資産格差拡大の原因(5)
3	所得格差拡大の原因(1)	18	資産格差拡大の原因(6)
4	所得格差拡大の原因(2)	19	資産格差拡大の原因(7)
5	所得格差拡大の原因(3)	20	資産格差拡大の原因(8)
6	所得格差拡大の原因(4)	21	21世紀の資本のまとめ(1)
7	所得格差拡大の原因(5)	22	21世紀の資本のまとめ(2)
8	所得格差拡大の原因(6)	23	サブプライムローン問題(1)
9	所得格差拡大の原因(7)	24	サブプライムローン問題(2)
10	所得格差拡大の原因(8)	25	欧州金融危機(1)
11	所得格差拡大の原因(9)	26	欧州金融危機(2)
12	所得格差拡大の原因(10)	27	イギリスのEU離脱(1)
13	資産格差拡大の原因(1)	28	イギリスのEU離脱(2)
14	資産格差拡大の原因(2)	29	まとめ(1)
15	資産格差拡大の原因(3)	30	まとめ(2)

成績評価基準及び方法

学習態度・小テスト・レポート課題(40%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	『21世紀の資本』、トマ・ピケティ著、山形浩生他訳、みすず書房
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計	なし

【次年度に向けての改善等について】

様々な国が抱えている問題点を、経済データを用いて視覚的・直感的に理解できるように講義を行う事で、学生が講義内容を深く理解できるように心がけたい。

授業目的
・ねらい

世界の様々な国の経済状況や、世界的な所得格差の進展を理解する。

総合政策論

《4単位(講義)／経営福祉学科2年前期／選択必修》

担当者

宇野木広樹

授業の概要

現在の日本経済は、長期に渡る経済不況、労働状況の悪化、社会保障費の増大、財政赤字の増加、急速に進む少子高齢化など、様々な問題を抱えている。これらの問題はそれぞれが密接な関係を持っており、問題解決のためには幅広い分野の知識が必要である。本講義では、日本経済が抱える問題を明らかにするとともに、その問題に対する解決策を解説する。

到達目標

総合政策の目的と課題を理解し、様々な問題に対する政策を理解する。

事前事後学習

事前に講義で使用する配布資料を配るので、各自予習・復習をしておいてください。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	総合政策論とは何か	16	医療保障制度の仕組み(1)
2	財政・金融政策の経済分析(1)	17	医療保障制度の仕組み(2)
3	財政・金融政策の経済分析(2)	18	国民医療費の動向と医療の経済分析(1)
4	財政・金融政策の経済分析(3)	19	国民医療費の動向と医療の経済分析(2)
5	財政・金融政策の経済分析(4)	20	労働者に関する社会保障(1)
6	成熟化社会における社会保障	21	労働者に関する社会保障(2)
7	少子・高齢化社会の現状と動向	22	高齢者関係の社会福祉と介護保険(1)
8	高齢化と日本経済	23	高齢者関係の社会福祉と介護保険(2)
9	社会保障制度の機能	24	児童向け・子育て支援関連の社会保障制度(1)
10	社会保障の歴史	25	児童向け・子育て支援関連の社会保障制度(2)
11	公的年金の歴史	26	障害者のための社会保障(1)
12	女性就業の社会的分析	27	障害者のための社会保障(2)
13	現行年金制度の概要	28	低所得者に対する社会保障
14	高齢者世帯の生活実態と公的年金給付の現状	29	社会福祉と福祉サービスの改革
15	公的年金の経済理論	30	全体の講義のまとめ

成績評価基準及び方法

学習態度・小テスト・レポート課題(40%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時資料を配布する。	『福祉の総合政策』、駒村康平著、創成社
関連のある授業科目	資格等
経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、経済統計	なし

【次年度に向けての改善等について】

学生の講義への理解を深める為に、様々なデータの紹介と詳しい解説を行っていく。学生が興味を持ちやすいテーマを積極的に取り上げる。	
授業目的・ねらい	経済政策や社会福祉政策などの効果・意義を理解する。戦後、日本の社会福祉制度がどのように整備されていったのか、現在どのような制度があるのかを理解する。

会計学

《4単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

企業の会計はお金の処理から始まり、財務諸表(貸借対照表・損益計算書等)の作成へと続く一連の手続きである。この会計手続きの流れを把握し、財務諸表を作成する力、財務諸表を理解する力を講義を通じて身につけてもらいたい。

到達目標

それぞれの会社において作成される財務諸表の内容を理解できる力を身につける。財政状態を表す貸借対照表・収益力を表す損益計算書の内容を理解する力である。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの箇所を事前によく読んでおくこと。
ホワイトボードの板書したことをノートに取り整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	会計の構造① 財務計算の意味	16	貸借対照表原則②繰延資産の会計処理 I
2	会計の構造② 損益計算の意味	17	貸借対照表原則③繰延資産の会計処理 II
3	会計の目的①会計の目的とは?	18	財務諸表の理解①収益力を見る I
4	会計の目的②財務諸表の意味	19	財務諸表の理解②収益力を見る II
5	会計公準 会計公準とは?	20	財務諸表の理解③資本収益率を見る。
6	一般原則①真实性の原則	21	財務諸表の理解④金利支払い能力 I
7	一般原則②正規の簿記の原則	22	財務諸表の理解⑤金利支払い能力 II
8	一般原則③継続性の原則	23	財務諸表の理解⑥損益分岐点の理解 I
9	一般原則④明瞭性の原則	24	財務諸表の理解⑦損益分岐点の理解 II
10	一般原則⑤単一性の原則	25	財務諸表の理解のまとめ
11	一般原則⑥保守主義の原則	26	財務諸表の作成①試算表 I
12	損益計算書原則①発生主義の原則	27	財務諸表の作成②試算表 II
13	損益計算書原則②実現主義の原則	28	財務諸表の作成③精算表 I
14	損益計算書原則③費用収益対応の原則③	29	財務諸表の作成④精算表 II
15	貸借対照表原則①貸借対照表3原則	30	財務諸表の作成まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「財務会計論講義第3版」宇南山英夫編著 東京経済情報出版	「財務計画の原理」宇南山英夫編著 税務経理協会
関連のある授業科目	資格等
簿記・簿記演習	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的・ねらい	企業経営におけるお金の処理についての基本的ルールを理解する。
----------	--------------------------------

所得税法

《2単位(講義)／経営福祉学科 2年前期 ／ 選択必修》

担当者

鶴 濱 邦 昭

授業の概要

確定申告に必要なとされる所得税法の知識を習得します。
全て国民は納税の義務を負っています。個人事業者、給与所得者等その年度中に何らかの収入があった国民は確定申告等を行うことにより、所得税を支払わなければなりません。所得税等の税金により「国」は運営されています。税金のうちでも重要であり、かつ生活に密着した所得税の仕組みを解説します。

到達目標

収入・所得のある人は、確定申告等により、すべて所得税を「国」に納付しなければならぬことになっています。そこで、所得税に関する基本的な事項について理解します。例えば、所得の種類・必要経費・源泉徴収制度・所得税控除等の意味を理解します。

事前事後学習

授業計画のそれぞれのテーマに関連するテキストの個所を事前によく読んでおくこと。
ホワイトボードに板書したことをノートにとり整理すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	所得税制度のあらまし①所得とは？	1	
2	所得税制度のあらまし②課税所得の内容	2	
3	所得税制度のあらまし③変動所得・臨時所得	3	
4	所得税制度のあらまし④源泉徴収制度	4	
5	所得税制度のあらまし⑤青色申告制度	5	
6	所得金額の計算①収入金額の計算 Ⅰ	6	
7	所得金額の計算②収入金額の計算 Ⅱ	7	
8	所得金額の計算③必要経費の計算 Ⅰ	8	
9	所得金額の計算④必要経費の計算 Ⅱ	9	
10	所得金額の計算⑤所得税控除等について	10	
11	所得金額の計算⑥事業所得金額の計算	11	
12	所得金額の計算⑦不動産所得金額の計算	12	
13	所得金額の計算⑧給与所得金額の計算	13	
14	所得金額の計算⑨その他所得金額の計算	14	
15	所得税制度まとめ	15	

成績評価基準及び方法

レポート(00%)、保育専門用語テスト(00%)、課題等提出物(00%)、学習態度(00%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「暮らしの税金百科」財団法人納税協会 清文社	「やさしい所得税」税務経理研究協会
関連のある授業科目	資格等
会計学	無し

【次年度に向けての改善等について】

学生の理解度に応じて、教育内容を工夫していきたい。

授業目的 ・ねらい	所得税の一般的な知識の習得をするとともに、最終的には、簡単な所得税の計算ができるように指導したい。
--------------	---

相続税法

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／選択必修》

担当者

原田 八重

授業の概要

民法に定める相続に関する基礎知識について解説する。
相続税の基本的な計算のしくみについて解説する。

到達目標

民法に定める相続に関する基礎知識(相続・法定相続人・法定相続分・遺留分・遺言等)を理解し、相続税の基本的な計算のしくみが理解できるようになること。

事前事後学習

授業計画におけるテキストの該当箇所を事前に読み、授業中に板書したことをノートにとり、理解が出来なかった点を確認し、質問するように努めること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	相続の基礎知識Ⅰ(承認・放棄)
3		3	相続の基礎知識Ⅱ(法定相続人・法定相続分)
4		4	相続の基礎知識Ⅲ(遺留分・遺言書)
5		5	贈与税と相続税の関係
6		6	相続税の計算のしくみⅠ(申告期限と申告方法)
7		7	相続税の計算のしくみⅡ(相続財産)
8		8	相続税の計算のしくみⅢ(みなし相続財産)
9		9	相続税の計算のしくみⅣ(基礎控除)
10		10	相続税の計算のしくみⅤ(財産評価)
11		11	相続税の計算のしくみⅥ(小規模宅地の特例)
12		12	相続税の計算のしくみⅦ(配偶者の税額軽減)
13		13	相続税の計算のしくみⅧ(相続時精算課税)
14		14	納付税額の計算Ⅰ(各種税額控除)
15		15	納付税額の計算Ⅱ(税額計算)

成績評価基準及び方法

定期試験(50%)、出席・学習態度(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
『新くらしの税金百科』 公益財団法人 納税協会連合会	なし
関連のある授業科目	資格等
所得税法	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	
--------------	--

e-ビジネス論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

eビジネスとは、インターネットが作り出すビジネス環境を利用して、サプライヤーと顧客との間で商品・サービスや情報の取引を行うビジネス形態だが、インターネットの急速な普及により、あらゆる業種において、既存ビジネスモデルに変革をもたらしている。ここでは今後のeビジネスの動向と方向性を検証していく。

到達目標

ビジネスでどのようにコンピュータやインターネットが関わっているのかを理解し、社会にでてからどのような場面でIT機器を導入するかを判断できるような知識を身につける。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に数回レポートを提出してもらう。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	e-ビジネス e-ビジネスとは	1	
2	経営情報システムの変遷 情報システムの歴史	2	
3	経営情報システムの変遷 EDPS、MIS、DSS、SIS	3	
4	経営情報システムの変遷 BPR、IT、BtoB	4	
5	小売業の情報システム 利益の評価指標、EOS、POS	5	
6	小売業の情報システム ERモデルとファイルデザイン	6	
7	eビジネスの現状 ECの種類と規模	7	
8	eビジネスの現状 BtoBの種類、BtoCの消費者動向と運営	8	
9	eビジネスの現状 ボーダーレス・ビジネス	9	
10	eビジネスの現状 ビジネス社会への影響	10	
11	eビジネスの現状 ニュービジネスとサービス経済化	11	
12	eビジネスの現状 ベンチャービジネスとe-ビジネス	12	
13	eビジネスの実際 事例研究(1)	13	
14	eビジネスの実際 事例研究(2)	14	
15	eビジネスの今後 eビジネスの可能性と課題	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、課題提出(30%) 定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	eビジネスの教科書[第五版] 幡鎌博著 創成社
関連のある授業科目	資格等
	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

プログラミング演習I

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期》

担当者

深町修一

授業の概要

プログラミングを通じて、コンピュータの動作を制御する作業手順であるプログラムの設計と作成に必要な知識を学習させ、ソフトウェア開発の流れを理解する。

到達目標

プログラミング言語としてC言語を用いて、初歩的なプログラミング技術を習得する。本講義では、まずプログラミングを行うための問題解決の手順を学ぶ。そして、C言語の文法知識を具体的な例題を通して理解し、それを実際にプログラミングし、実行する形で授業を進行する。

事前事後学習

演習中に作成したプログラムについては必ず復習して、同じ問題が出された時には解けるようになっておくこと。また、課題を出すので、自分で考えてプログラムを作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	後期	回	後期
1	問題解決の手順1(アルゴリズムとは?)	16	多重ループ(for文)
2	問題解決の手順2(演習)	17	配列(合計、平均)1
3	コンパイル環境、プログラミングの初歩1	18	配列(合計、平均)2
4	コンパイル環境、プログラミングの初歩2	19	配列(ソート)1
5	変数と式1	20	配列(ソート)2
6	変数と式2	21	配列(多次元配列)と2重ループ1
7	計算と出力1	22	配列(多次元配列)と2重ループ2
8	計算と出力2	23	関数(変数のスコープ)1
9	条件分岐1(if文)1	24	関数(変数のスコープ)2
10	条件分岐1(if文)2	25	関数(引数、返値)1
11	多岐条件文(if文)	26	関数(引数、返値)2
12	多岐条件文(switch文)	27	関数(値渡しと参照渡し)1
13	繰り返し(while文)1	28	関数(値渡しと参照渡し)2
14	繰り返し(while文)2	29	総合問題演習1
15	多重ループ	30	総合問題演習2

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、課題提出(20%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	プログラミング言語C第2版 B.Wカーニンハン、D.M.リッチー共著 共立出版株式会社
関連のある授業科目	資格等
プログラミング演習II	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

プログラミング演習II

《2単位(演習)/経営福祉学科2年後期》

担当者

深町修一

授業の概要

Webプログラミングを通して、PHPを習得し、リレーショナルデータベースの概念の理解を進める。また、Webサイトの仕組みやデータベースの利用の仕方を理解する。

到達目標

HTMLやPHPを通して、Webサイトの構築の仕方を習得する。また、リレーショナルデータベースの使い方をマスターする。

事前事後学習

演習中に作成したプログラムについては必ず復習して、同じ問題が出された時には解けるようになっておくこと。また、課題を出すので、自分で考えてプログラムを作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	基本的なHTML1	16	PHPの練習2 定数と変数
2	基本的なHTML2	17	PHPの練習3 文字列
3	HTML5の機能1	18	PHPの練習4 配列
4	HTML5の機能2	19	PHPの練習5 演算子
5	JavaScript1	20	PHPの練習6 繰り返し処理
6	JavaScript2	21	PHPの練習7 条件分岐
7	jQueryとその利用1	22	PHPの練習8 クラスとオブジェクト
8	jQueryとその利用2	23	PHPの練習9 セッション管理
9	Webアプリケーションについて	24	PHPの練習10 正規表現
10	XAMPP環境設定	25	Smartyの利用1
11	MySQLの練習1	26	Smartyの利用2
12	MySQLの練習2	27	総合演習1
13	MySQLの練習3	28	総合演習2
14	MySQLの練習4	29	総合演習3
15	PHPの練習1 基本構造	30	総合演習4

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、演習での成果(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	
関連のある授業科目	資格等
プログラミング演習 I	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

システム設計

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期》

担当者

深町修一

授業の概要

システム開発を行う際に、どのような工程が必要となるかを理解するだけでなく、実際に簡単なシステムを構築するためにはどのようなソフトウェアが必要となるかを体験してもらう。

到達目標

企業等でシステムを導入する場合に必要な知識を身につける。特に、ネットワークを利用したシステムは必須であり、セキュリティーに対する理解も深める。

事前事後学習

講義内容について復習を行い、講義期間中に数回レポートを提出してもらう。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	講義のintroduction
2		2	システム開発工程とシステム開発の手法について
3		3	基本的な計画の立て方と戦略的展開について
4		4	システム開発の準備段階としての要求定義について
5		5	要求仕様の確認やコード設計およびデータ設計について
6		6	アプリケーションの詳細な技術的設計仕様について
7		7	プログラム開発手順と構造化設計について
8		8	テストが必要な局面についてと統合テストへのアプローチの仕方
9		9	システムの導入と運用管理、品質管理について
10		10	開発支援ツールについて
11		11	演習1 実例によるシステム開発計画の演習
12		12	演習2 実例による要求定義の演習
13		13	演習3 実例による外部設計の演習
14		14	演習4 開発支援ツールの使い方
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

最終課題(50%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
毎回プリントを配布	
関連のある授業科目	資格等
	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

税理事務実習

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中／選択必修》

担当者

川井健次

授業の概要

会計処理の実務を実際に体験することにより、会計の専門知識と会計処理能力を身につける。
税理事務実習の目的
①会計処理の実際に触れ、将来の職業会計人としての素養を身につける。
②基本的な技能を実習先にて実際に応用し、生きた知識を身につける。

到達目標

簿記・会計学・所得税等、会計および税については、講義を通じて学ぶことになっているが、現実の社会における会計実務の流れを体験する。

事前事後学習

実習前指導と実習後の評価表による指導を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
	・実習の内容		
	①計算実務、②帳簿・伝票の貴重		
	③データ入力、④説客・接遇		
	⑤文書実務		
	・実習の選考基準		
	①税務・会計分野に所属するもの		
	②つぎの科目から3科目以上履修したもの		
	◆簿記		
	◆簿記演習		
	◆会計学		
	◆所得税法		
	◆相続税法		
	・実習期間		
	8月(12日間)		

成績評価基準及び方法

実習評価(70%)、学習態度(30%)

テキスト	参考文献・推薦図書
なし	会計学及び簿記テキスト
関連のある授業科目	資格等
簿記・簿記演習・会計学・所得税法・相続税法	なし

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	
--------------	--

人間関係とコミュニケーション

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

久保英樹

授業の概要

コミュニケーションの基礎、人間関係の形成について概説する。
(授業の目的、ねらい)
介護の実践のために必要な人間の理解や他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。

到達目標

- ・自己覚知、他者理解の意義について説明できる。
- ・対人関係、コミュニケーションの意義と概要について説明できる。
- ・多様なコミュニケーション技法を用い、他者とコミュニケーションを図ることができる。
- ・道具を用いた言語的コミュニケーションについて理解できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所テキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	関係づくりための人間の理解
2		2	自己覚知の意義
3		3	他者理解、ラポール形成の意義
4		4	人間関係の形成について理解する。 発達と人間関係
5		5	エコロジカルな視点からみた人間関係
6		6	対人関係・コミュニケーションの意義と概要
7		7	集団力学からみた人間関係
8		8	コミュニケーションとは
9		9	対人関係とコミュニケーション
10		10	コミュニケーションの技法(対人距離)
11		11	コミュニケーションの技法(言語的コミュニケーション)
12		12	コミュニケーションの技法(非言語的コミュニケーション)
13		13	コミュニケーションの技法(受容・共感・傾聴)
14		14	機器を用いたコミュニケーション
15		15	記述によるコミュニケーション

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

【次年度に向けての改善等について】

学生が具体的にイメージができるように視聴覚教材等を用いながら演習を実施していく。

授業目的
・ねらい

1. 介護の実践のために必要な人間の理解や他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力基礎的知識を習得する。
2. 利用者に対して、あるいは多職種協働ですすめるチームケアの実践ができるようになる。

社会の理解Ⅱ

《1単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

久保英樹

授業の概要

介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度について概説する。
(授業の目的、ねらい)
1. 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護の実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。
2. 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 介護保険制度の基礎的知識を習得する。
2. 障害者自立支援制度の基礎的知識を習得する。
3. 個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	介護保険制度創設の背景と目的	1	
2	介護保険制度のしくみ①	2	
3	介護保険制度のしくみ②	3	
4	介護保険制度にかかわる組織と専門職	4	
5	介護保険制度の動向	5	
6	確認テスト①(介護保険制度)	6	
7	障害者の自立とその支援制度	7	
8	障害者自立支援制度のしくみ①	8	
9	障害者自立支援制度のしくみ②	9	
10	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割	10	
11	確認テスト②(障害者自立支援制度)	11	
12	介護実践に関連する諸制度(人々の権利を保護する諸制度)	12	
13	保健医療にかかわる諸施策と医療にかかわる法と諸施策	13	
14	生活を支える諸制度のあらし	14	
15	確認テスト③(介護実践に関連する諸制度)	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、確認テスト(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第6版)」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

【次年度に向けての改善等について】

社会保障関連制度の理解について苦手意識を持っている学生が多く見受けられるため、テキストの内容だけでなく、近年の動向などの参考資料を活用しながら講義にあたりたい。
また、今日社会保障関連制度においては、関係法令を含めめまぐるしい制度の改正がおこなわれているため、改正内容を反映した授業内容としていく。
小単元ごとに確認テストを行いながら知識の定着を図りたい。

授業目的
・ねらい

1. 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護の実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。
2. 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

介護基本Ⅲ

《4単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

松本 末信

授業の概要

・介護を必要とする人の理解について概説する。
・介護サービスについて概説する。
・介護実践における連携について概説する。
(授業の目的、ねらい)
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

- ①介護福祉士とは何かを理解することができる。
- ②介護サービス提供の場を理解することができる。
- ③介護実践における連携を理解することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	介護サービスの 特徴	16	多職種連携の意義と目的
2		17	
3		18	
4	福祉関係法と介護保険	19	協働職種の理解と連携のあり方
5		20	
6		21	
7	介護サービス提供の場の特性 (高齢者)	22	介護実践における連携 地域連携の定義と目的
8	介護サービス提供の場の特性 (障がい者)	23	
9	24		
10	介護を必要とする人の理解 多様なサービス(介護保険)	25	地域連携にかかわる機関の理解
11		26	
12		27	
13	多様なサービス(障害者自立支援法)	28	身近なサービスや機関
14	地域福祉計画と介護	29	
15		30	

成績評価基準及び方法

定期試験(80%)、保育専門用語テスト(00%)、課題等提出物(00%)、学習態度及びレポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版	「介護福祉士用語辞典」中央法規出版 「新・介護福祉士養成講座 第16巻 資料編」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

介護基本Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

皆吉秀太

授業の概要

・介護を必要とする人の理解について概説する。
・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概説する。
・介護従事者の安全について概説する。
・介護従事者の倫理について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

①介護福祉士の倫理について、「社会福祉士及び介護福祉士法」の規定を下に理解し、介護実践の場でどのように活かせるかについて考察できる。
②生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全対策の重要性について理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	利用者主体・自立支援の考え方 利用者主体の実現とノーマライゼーション
2		2	介護を必要とする人の理解～人間の多様性・複雑性の理解 生活史、価値観、生活観、生活習慣、就労、雇用、生活様式等の多様性
3		3	
4		4	介護における安全の確保とリスクマネジメント 観察、正確な技術、予測・分析
5		5	
6		6	セーフティマネジメント、緊急連絡システム、防火・防災対策、利用者の生活の安全(防犯、消費者被害)
7		7	介護における安全の確保とリスクマネジメント～事故防止、安全対策 転倒・転落防止、骨折予防(介護予防)
8		8	
9		9	
10		10	介護における安全の確保とリスクマネジメント～感染対策 感染予防の意義と介護、感染管理、衛生管理
11		11	
12		12	感染予防の基礎知識と技術
13		13	介護従事者の安全と介護従事者の倫理～介護従事者の心身の健康管理 心の健康管理(ストレス、燃え尽き症候群)
14		14	身体の健康管理(感染予防と対策、腰痛予防と対策)
15		15	労働安全、職業倫理

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート(20%)、定期試験(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

介護基本VI

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

皆吉秀太

授業の概要

・介護を必要とする人の理解について概説する。
・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概説する。
・介護従事者の安全について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

到達目標

①介護福祉士の倫理に基づいて、「社会福祉士および介護福祉士法」の規定のもとに理解し、実践の場で倫理がどのように活かせるのかについて理解できる。
②生活者としての利用者が安心して生活できる環境を整えるため、介護の場における事故防止や安全対策の重要性について理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	利用者主体・自立支援の考え方
2		2	介護を必要とする人の理解～人間の多様性・複雑性の理解
3		3	
4		4	介護における安全の確保とリスクマネジメント
5		5	観察、正確な技術、予測・分析の実際
6		6	
7		7	介護における安全の確保とリスクマネジメント～
8		8	事故防止、安全対策
9		9	転倒・転落防止、骨折予防(介護予防)
10		10	
11		11	介護における安全の確保とリスクマネジメント～
12		12	感染対策
13		13	自己分析とエゴグラム
14		14	介護従事者の安全～介護従事者の心身の健康管理
15		15	心身の健康管理の実際と管理者の役割、職業倫理

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポートまたは定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

科目名【 生活支援技術Ⅵ 】

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／介護必修》

担当者

稲田美和子(10)・竹原輝子(5)

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた食事の介護について概説する。
・自立に向けた家事の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

①高齢者や障がい者の家庭生活の基本知識を学ぶ。
②食生活の知識とその援助方法を学習する。
③高齢者や障がい者の支援に応じた食生活が理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	家事の意義と目的
2		2	
3		3	家事に関するアセスメント
4		4	生活支援と自立に向けた食事の介護～自立に向けた食生活の介護(稲田)
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	高齢者・障害者の食生活
11		11	衣類の役割と機能
12		12	生活支援と自立に向けた家事の介護～自立に向けた衣生活の介護(竹原)
13		13	
14		14	
15		15	高齢者・障害者の被服

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート又は定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、介護基本、障がい理解など	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。
--------------	--

生活支援技術Ⅷ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／選択必修》

担当者

山口 亮治

授業の概要

ADL評価の学習とそれを基にして各疾患の動画を参考にADL評価・介護計画作成・介護計画発表を行い生活支援の視点から介護計画の立て方を学ぶ

到達目標

生活支援の視点からの介護計画の立て方ができるようになる

事前事後学習

事前に渡す資料の読み込み

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	障害老人・認知症老人のADL自立判定 しているADL(FIM)の理解	16	
2	症例検討Ⅰ ADL評価	17	
3	症例検討Ⅰ ADL評価・介護計画作成	18	
4	症例検討Ⅰ ADL評価・介護計画発表	19	
5	症例検討Ⅱ ADL評価	20	
6	症例検討Ⅱ ADL評価・介護計画作成	21	
7	症例検討Ⅱ ADL評価・介護計画発表	22	
8	症例検討Ⅲ ADL評価	23	
9	症例検討Ⅲ ADL評価・介護計画作成	24	
10	症例検討Ⅲ ADL評価・介護計画発表	25	
11	症例検討Ⅳ ADL評価	26	
12	症例検討Ⅳ ADL評価・介護計画作成	27	
13	症例検討Ⅳ ADL評価・介護計画発表	28	
14	まとめ①	29	
15	まとめ②	30	

成績評価基準及び方法

課題等提出物(10%)、学習態度(10%)、テスト(80%)

テキスト	参考文献・推薦図書
ADL評価、FIM評価等随時資料配布	
関連のある授業科目	資格等
介護過程、介護総合演習	介護福祉資格

【次年度に向けての改善等について】

実際のADL場面の動画を流すとともにADL上の問題点を具体的にあげさせ、実際のADL場面を想定して介助支援の検討を行う

授業目的
・ねらい

介護支援に向けた介護計画の習得

生活支援技術Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

松永智也

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護を習得する。
・自立に向けた移動の介護を習得する。
・自立に向けた排泄の介護を習得する。
(授業の目的、ねらい)
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した
り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とす
る。

到達目標

①他の領域との関連性を理解することができる。
②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
③利用者の状況に応じた介護技術が展開することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期	
1	知的障がい者と生活支援	1		
2	介護技術の展開	2		
3	精神障がい者と生活支援	3		
4	介護技術の展開	4		
5	生活支援・自立に向けた身 じたくの介護・自立に向け た移動の介護	高次脳機能障害と生活支援	5	
6	介護技術の展開	6		
7	発達障がい者の生活支援	7		
8	介護技術の展開	8		
9	重度心身障がい者の生活支援	9		
10	介護技術の展開	10		
11	自立に向けた排泄の介護	障害に応じた排泄の介護	11	
12		12		
13	自立に向けた睡眠の介護	介護技術の展開	13	
14	介護技術	実技テスト	14	
15		15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ 3版」 中央法規出版	・「介護福祉用語辞典」 中央法規出版 ・「プロが教える本当に役立つ介護術」 ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を
引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識につ
いて習得する学習とする。

生活支援技術Ⅹ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

松永智也

授業の概要

・終末期の介護について概説する。
・自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解する。
- ②利用者の状況に応じた介護技術が展開できる。
- ③終末期の介護ができる。
- ④季節レクリエーションが展開できる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	終末期の介護～死を迎える さまざまな状況と介護
2		2	終末期の介護～死を迎える さまざまな状況と介護
3		3	終末期の介護～痛み のケア
4		4	終末期の介護～痛み のケア
5		5	終末期の介護～終末期 の意義
6		6	終末期の介護～終末期 の意義
7		7	終末期の介護～在宅 での看取り
8		8	終末期の介護～在宅 での看取り
9		9	終末期の介護～施設 での看取り
10		10	終末期の介護～施設 での看取り
11		11	障害に応じた介護
12		12	障害に応じた介護
13		13	終末期の介護～看 取りでの対応
14		14	終末期の介護～看 取りでの対応
15		15	終末期の介護～自立 に向けた入浴・清潔保持 の介護

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 3版」中央法規出版	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「幸せな旅立ちを約束します 看取り士」コスモス21
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

介護過程Ⅲ

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

松永智也

授業の概要

・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

①介護実習Ⅰbの介護過程の実践を振り返ることができる。
②アセスメントや個別援助計画の実際が理解できる。
③介護実習Ⅰcの介護過程の実践の取り組みができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	介護過程の実践的展開 ～介護過程の一連の流れを理解する	16	高齢者を理解する
2	生活支援の課題、目標の捉え方	17	介護過程の実践的展開 ～介護過程の実際
3		18	ボランティアで利用者を理解する
4	介護過程の実践的展開 ～利用者の状況・状態に応じた介護過程の実際	19	フェイスシートの作成
5	実習の受け持ち担当者を見つめなおし、介護過程の一連の方法を習得する	20	
6		21	アセスメントの作成
7		22	
8	老人福祉法を理解する	23	
9		24	介護過程の実践的展開 ～介護実習における介護過程
10	要介護者が利用する各法を理解する	25	個別援助計画書の作成
11		26	
12	介護保険を理解する	27	
13		28	モニタリングの方法
14	障害者自立支援法を理解する	29	
15	介護過程の実践的展開 ～介護過程の実際	30	施設アセスメントと計画書

成績評価基準及び方法

学習態度および提出物(20%)、レポート(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 3版」中央法規出版	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版 ・「ICFをとり入れた介護過程の展開」建帛社
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

介護過程Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

黒木真吾

授業の概要

・介護過程の実践的展開について概説する。
・介護過程とチームアプローチについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

到達目標

- ①様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解することができる。
- ②介護実習Ⅱでの介護過程の実践を振り返ることができる。
- ③チームアプローチにおける介護福祉士の役割について理解することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	介護過程の実践的展開 実習の受け持ち担当者を見つめ直し、モニタリング、アセスメント、計画、実施の一連の方法を習得する
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	ケースカンファレンスの展開と進行の方法(ロールプレイ)
9		9	
10		10	介護過程とチームアプローチ サービス担当者会議での情報提供の方法(ロールプレイ)
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	介護過程とケアプラン(介護サービス計画)
15		15	
			他の職種との連携

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

介護総合演習Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

介護実習 I bのまとめを行うとともに、介護実習 I cへ向けて事例発表の方法、介護技術の確認や自己課題を明確にする。また、自分の将来を考えた職業の選択も考える。
(注) 実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
(授業の目的、ねらい)
・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ③実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ④家族・職員とのコミュニケーションの在り方を理解できる。

事前事後学習

随時指示する。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	介護実習 I bの振り返り お礼状の作成・提出物の確認、報告書のまとめ	1	
2	介護実習 I b発表会 介護実習 I bで学んだことを発表する	2	
3	介護実習 I cについて(実習先の説明、概要を知る)	3	
4	介護実習 I c実習準備 実習目標の作成	4	
5	施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ	5	
6	お礼状の作成・提出物の確認	6	
7	介護実習 I cの振り返り 報告書のまとめ①	7	
8	報告書のまとめ②	8	
9	介護実習 IIについて	9	
10	実習先の説明、実習先の概要を知る、実習目標の作成	10	
11	介護実習 II 実習準備 個人紹介書・個人情報に関する誓約書	11	
12	施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ①	12	
13	施設介護計画・アセスメント・個別援助計画の記入方法を学ぶ②	13	
14	介護技術確認テスト 基本介護技術の確認テスト	14	
15		15	

成績評価基準及び方法

学習態度及び実技テスト(80%)、レポート(20%)

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習第3版」 中央法規出版 ・ 実習のしおり

参考文献・推薦図書

「介護福祉用語辞典」 中央法規出版

関連のある授業科目

社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など

資格等

介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

介護総合演習Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とし、介護実習Ⅱのまとめ・発表を行い、事例発表の方法、介護技術の確認等を行い、2年間の介護実習を統括しまとめる。
(注)実習先オリエンテーション、実習指導、実習直前指導は、介護技術確認テスト・定期試験に合格した学生のみ、時間外で実施する。
(授業の目的、ねらい)
・実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

到達目標

- ①実習中に使用する記録類を記載できる。
- ②自己が行う研究に関する準備ができる。(希望者のみ)
- ③実習で行われる基本介護技術を展開できる。
- ④実習先の事業や支援内容を理解できる。
- ⑤介護福祉士としての求められる資質を身につける。

事前事後学習

事前学習として、次回の授業内容についての指示をもとに準備しておくこと。
事後学習として、授業内容を整理し理解すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	お礼状の作成と提出物の確認
2		2	報告書の作成①
3		3	報告書の作成②
4		4	報告書の作成③
5		5	介護実習Ⅱの発表
6		6	介護実習Ⅱにて学んだことを発表する
7		7	介護の日の活動
8		8	活動を通じて自己の進路を模索する
9		9	2年間の報告書作成
10		10	2年間の実習の振り返り
11		11	
12		12	2年間の実習のまとめ
13		13	
14		14	介護知識・技術確認テスト
15		15	介護知識・技術の確認テスト

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、レポート(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版・実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習に必要な知識や技術、介護課程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

介護実習 I c

《2単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所のうちいずれかの施設で合計12日間の実習を行うものとする。
(授業の目的、ねらい)
・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

到達目標

- ① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程が展開できる(アセスメント・介護計画の作成、実施、評価)。
- ② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。
- ③ 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。
- ④ 利用者の個別性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	◆期日 2年次:6月～7月(12日間) (土日・祭日・中間指導含まず) ◆実習先 老人福祉法に基づく施設や事業所もしくは障害者総合支援法に基づく施設や事業所 ◆目標【第1週】 ① 介護実習 I a、I bの体験を踏まえて、介護過程が展開できる(アセスメント・介護計画の作成)。 ② さまざまな利用者の生活像、障害像について理解できる。 ③ 受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画を作成する。 ◆目標【第2週】 ① 障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。 ② 利用者の個性を尊重した自立支援の在り方を理解できる。 ③ 受け持ち利用者のアセスメントと個別介護計画に基づく実施、評価といった介護過程の展開を行う。		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」中央法規出版・実習のしおり	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

介護実習Ⅱ

《4単位(実習)／経営福祉学科2年前期集中・介護必修》

担当者

松永智也・久保英樹・黒木真吾・篠原淑子・松本末信

授業の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。実習は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設で23日間行う。
(授業の目的、ねらい)
・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養い、自立支援の観点から介護実践ができる能力を学ぶ。また、ご利用者やご家族等に対する精神的支援や援助のために実践的なコミュニケーション能力を身につけ、多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程の展開できる能力を養い、ご利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を習得する。

到達目標

- ①受け持ち担当者に対して、アセスメントを行い、短期入所のイメージで個別介護計画を作成、モニタリングを行い、計画の修正を行うといった、一連の介護過程を展開する。
- ②関係機関との連携やチームケアの実際を把握する。
- ③医療と介護の区別や違いを理解する。
- ④地域・家族に向けた支援を理解する。

事前事後学習

実習の事前学習として、実習受け入れ先について調べておくこと。
事後学習として実習報告書を作成すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
	◆期日 2年次:9月～10月(23日間) (土日・祭日・中間指導含まず)	1	
		2	
	◆実習先 特別養護老人ホームもしくは介護老人保健施設	3	
		4	
		5	
	◆目標【第1週】 ①施設の概要、機能、役割、1日のスケジュール等を理解する。 ②実習指導者の指導を受け、受け持ち担当者のアセスメントを行う。	6	
		7	
高齢者施設の介護現場 で実習を行う		8	
	◆目標【第2週～第5週】 ①利用者に提供される日常生活上の介護技術を習得する。 ②日常生活上の不自由を有する人への介護・援助方法を習得する。 ③受け持ち担当者の個別援助計画を立案、実施し、モニタリングの結果、必要であれば計画の見直しを行う。 ④関係職種の役割と連携方法を習得する。 ⑤地域における施設の役割を学び、家族への支援、地域ケアの展開方法を学ぶ。	9	
		10	
		11	
		12	
		13	
		14	
		15	

成績評価基準及び方法

実習先評価(50%)、実習巡回時における面接評価(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第3版」 中央法規出版 ・ 実習のしおり	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会の理解、生活支援技術、介護過程、認知症の理解、医療的ケア概論など	介護福祉士受験資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養い、自立支援の観点から介護実践ができる能力を学ぶ。また、ご利用者やご家族等に対する精神的支援や援助のために実践的なコミュニケーション能力を身につけ、多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程の展開できる能力を養い、ご利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を習得する。

障がい理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・障害の基礎的理解について概説する。
・障害の医学的側面の基礎的知識について概説する。
(授業の目的、ねらい)
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族も含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

①障害の基礎について理解できる。
②障害の医学的側面の基礎的知識を習得できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	障害の基礎的理解～障害の概念、障害者福祉の基本的理念	1	
2	障害の基礎的理解～障害の構造的理解(ICIDHからICF)	2	
3	障害者の基礎的理解と現状	3	
4	障害の医学的側面の基礎的知識(視覚・聴覚・言語障害のある人の生活)	4	
5	障害の医学的側面の基礎的知識(運動機能障害のある人の生活)	5	
6	障害の医学的側面の基礎的知識(内部障害、腎機能障害のある人の生活)	6	
7	障害の医学的側面の基礎的知識(呼吸機能障害、膀胱・直腸障害のある人の生活)	7	
8	障害の医学的側面の基礎的知識(心臓・血管系疾患ある人の生活)	8	
9	障害の医学的側面の基礎的知識(免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人の生活)	9	
10	障害の医学的側面の基礎的知識(知的障害、精神障害のある人の生活)	10	
11	障害の医学的側面の基礎知識(高次脳機能障害・発達障害のある人の生活)	11	
12	障害の医学的側面の基礎的知識(難病障害のある人の生活)	12	
13	障害の医学的側面の基礎的知識(重症心身障害のある人の生活)	13	
14	障害のある人に対する介護の基本的視点	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第13巻 障害の理解」第4版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころからのだのしくみ 介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的・ねらい	
	障害の概念や定義を理解したうえで、障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎知識を医学的側面から学び、本人および家族介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得することを目的とする。

障がい理解Ⅱ

【1単位(演習)／経営福祉学科2年後期・介護必修】

担当者

篠原淑子

授業の概要

・障害の医学的側面の基礎的知識について概説する。
・連携と協働について概説する。
・家族への支援について概説する。
(授業の目的、ねらい)
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族も含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

到達目標

- ①障害の医学的側面の基礎的知識を習得できる。
- ②連携と協働について理解できる。
- ③家族への支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	障害の医学的側面の基礎的知識～視覚障害・聴覚障害(ディスカッション・G)にて理解を深める
2		2	障害の医学的側面の基礎的知識～言語障害・ディスカッション・Gにて理解を深める
3		3	障害の医学的側面の基礎的知識～肢体不自由(運動機能障害)・ディスカッション・Gにて理解を深める
4		4	障害の医学的側面の基礎的知識～呼吸機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める
5		5	障害の医学的側面の基礎的知識～心臓機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める
6		6	障害の医学的側面の基礎的知識～腎機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める
7		7	障害の医学的側面の基礎的知識～膀胱・直腸機能障害・ディスカッション・Gにて理解を深める
8		8	障害の医学的側面の基礎的知識～疑似体験・聴覚障害・言語障害
9		9	障害の医学的側面の基礎的知識～疑似体験・肢体不自由(運動機能障害)
10		10	連携と協働～事例検討(地域におけるサポート体制)
11		11	連携と協働～事例検討(チームアプローチ)
12		12	連携と協働～基本的視点に基づいた個別支援、社会資源の利用と開発
13		13	家族への支援～家族の状態の把握と介護負担の軽減
14		14	家族への支援～家族のレスパイト
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第13巻 障害の理解」第4版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころからのしくみ 介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	障害の概念や定義を理解したうえで、障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎知識を医学的側面から学び、本人および家族介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得することを目的とする。
--------------	--

からだのしくみⅡ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・入浴に関連したところとからだのしくみについて概説する。
・排泄に関連したところとからだのしくみについて概説する。
・睡眠に関連したところとからだのしくみについて概説する。
(目的、ねらい)
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。

到達目標

①入浴に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
②排泄に関連したところとからだのしくみについて理解できる。
③睡眠に関連したところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ	1	
2	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が入浴・清潔時に及ぼす影響	2	
3	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①(演習)	3	
4	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②(演習)	4	
5	排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ①	5	
6	排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ②	6	
7	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①	7	
8	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②	8	
9	排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①(演習)	9	
10	排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②(演習)	10	
11	睡眠に関連したところとからだのしくみ～睡眠のしくみ①	11	
12	睡眠に関連したところとからだのしくみ～睡眠のしくみ②	12	
13	睡眠に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響①	13	
14	睡眠に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響②	14	
15	睡眠に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応(観察、連携のポイント)(演習)	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第14巻 ところとからだのしくみ」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的・ねらい	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。「生から死」までのライフサイクルの過程を学び、身体的・心理的変化に対応する援助の在り方と知識を習得することを目的とする。
----------	---

からだのしくみⅢ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期・介護必修》

担当者

篠原淑子

授業の概要

・死にゆく人のところとからだのしくみについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。

到達目標

①死にゆく人のところとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」について
2		2	死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」を理解する(生物学的・法律学的死)
3		3	死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」を理解する(臨床的な死)
4		4	死にゆく人のところとからだのしくみ～終末期から「死」までの変化と特徴(身体的機能低下)
5		5	死にゆく人のところとからだのしくみ～終末期から「死」までの変化と特徴(死後の身体的変化)
6		6	死にゆく人のところとからだのしくみ～終末期から「死」までの変化と特徴
7		7	死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」に対するところの理解(恐怖・不安)
8		8	死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」に対するところの理解(受容する段階)
9		9	死にゆく人のところとからだのしくみ～「死」に対するところの理解(家族の譲る段階)
10		10	死にゆく人のところとからだのしくみ～施設での看取りについて
11		11	死にゆく人のところとからだのしくみ～医療職との連携のポイント
12		12	死にゆく人のところとからだのしくみ～医療職との連携のポイント
13		13	死にゆく人のところとからだのしくみ～緊急時の対応、応急処置、応急時の対応
14		14	死にゆく人のところとからだのしくみ～緊急時の対応、応急処置、応急時の対応
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート等の提出物(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第14巻 ところとからだのしくみ」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。「生から死」までのライフサイクルの過程を学び、身体的・心理的变化に対応する援助の在り方と知識を習得することを目的とする。

医療的ケア概論Ⅲ

《1単位(講義)／経営福祉学科2年前期・介護必修》

担当者

中村京子

授業の概要

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ①経管栄養のしくみについて説明できる。
- ②安全で適切な経管栄養の手順を説明できる。
- ③経管栄養を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	消化器系のしくみとはたらき。消化、呼吸とよくある消化器系の症状	1	
2	経管栄養法とは、注入する内容に関する知識。経管栄養実施上の留意点	2	
3	こどもの経管栄養について。経管栄養に関係する感染と予防。経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	3	
4	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認。急変・事後発生時の対応と事前対策 高齢者及び障害者の「経管栄養」の実施手順	4	
5	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持。経管栄養の技術と留意点(1) 必要物品の準備と設置利用者の観察	5	
6	経管栄養の技術と留意点(2) 経管栄養の実施手順と留意点、経管栄養実施に伴う利用者の身体変化	6	
7	経管栄養の技術と留意点(4)片づけ、医療者への報告及び記録	7	
8	まとめ	8	

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」第3版 中央法規出版	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	医療的ケア 基本研修修了

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

経管栄養を安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

医療的ケア演習

《1単位(演習)／経営福祉学科2年集中・介護必修》

担当者

中村京子・篠原淑子

授業の概要

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

1. 経管栄養や痰の吸引について説明できる。
2. 安全で適切な経管栄養や痰の吸引の手順を説明できる。
3. 経管栄養やたん吸引を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。
4. 緊急時の対応について理解できる。

事前事後学習

配布されているプリントを読み、手順を覚えて演習の準備をする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	経管栄養や痰吸引の手順を復習し、演習を行う。	1	
2	経管栄養や痰の吸引演習	2	
3	経管栄養や痰の吸引演習	3	
4	経管栄養や痰の吸引演習	4	
5	経管栄養や痰の吸引演習	5	
6	経管栄養や痰の吸引演習	6	
7	経管栄養や痰の吸引演習	7	
8	経管栄養や痰の吸引演習	8	
9	経管栄養や痰の吸引演習	9	
10	経管栄養や痰の吸引演習	10	
11	経管栄養や痰の吸引演習	11	
12	経管栄養や痰の吸引演習	12	
13	経管栄養や痰の吸引演習	13	
14	救急蘇生法演習	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

経管栄養法(経鼻経管栄養、胃ろう各5回)、吸引(口腔、鼻腔、気管切開各5回)最終回に実技試験。および救急蘇生法1回実施

テキスト

「新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」第3版
中央法規出版

参考文献・推薦図書

必要に応じて紹介します

関連のある授業科目

こころとからだのしくみ

資格等

医療的ケア 基本研修修了

外国語コミュニケーション

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

村橋 哲也

授業の概要

保育現場でよく使う単語や語句、表現を豊富に使い、より現場に則した対話練習や、園児および保護者への英語での対応演習を各週のトピックに合わせて行う。また、保育現場で役立つ英語を使った遊びなども授業の中に織り交ぜて実施する。

到達目標

保育現場で役立つ英会話を保育英検2級程度の能力まで高める。

事前事後学習

学習予定範囲の単語や表現などを予め調べておく。出題されている設問の解答準備をしておく。授業後は学習したポイントを繰り返し復習し、確認テストなどに備える。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	
1	保育の英会話への第一歩	16	保育室の中
2	みなと保育園によくこそ！	17	園児の持ち物
3	時間と数	18	園庭の道具
4	地図と道案内	19	天気
5	クラスメイトとの出会い	20	園児の遊び
6	デイヴィーの登園と降園	21	感情と体調
7	保育者の仕事	22	ランチタイム
8	手を洗いましょう	23	ランチの献立
9	排泄に関する会話	24	連絡帳
10	けんか	25	身体の部位
11	けがと病気	26	救急処置
12	電話での対応	27	電話の対応
13	遠足	28	留守番電話
14	赤ちゃんのケア	29	年間行事予定
15	卒園	30	育児用品

成績評価基準及び方法

保育専門用語テスト(80%)、学習態度(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
保育の英会話 Childcare English, 保育英語の練習帳	
関連のある授業科目	資格等
海外研修	幼稚園免許二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	様々な年齢の園児とのコミュニケーションがとれるように、日常的かつ緊急時に必要と考えられる英語表現、および語彙力を身につけることを目標とする。
--------------	--

体育実技

《1単位(実技)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

村上清英

授業の概要

学生同士や教員と学生間でコミュニケーションをはかりながら、様々な運動・スポーツ活動の面白さを探り、追求することを通して、安全で道理にかなう運動実践力を身につけることを目指す。

到達目標

- ①スポーツ教材に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。
- ②スポーツ教材の基本動作、スキル、戦術をゲームの中で実践できる。
- ③スポーツ教材のルールおよび審判法を理解し、ゲーム運営ができる。
- ④スポーツ教材の用器具の使用法および管理法を理解し、実践できる。

事前事後学習

授業中に出される課題(実技テスト、レポート等)を出す。課題をクリアできるように工夫すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	身体を知る①:形態測定, 体力測定	1	
2	身体を知る②: 体力測定, ソフトバレーボール	2	
3	ソフトバレーボール	3	
4	バードゴルフ①	4	
5	バードゴルフ②	5	
6	バレーボール①	6	
7	バレーボール②	7	
8	卓球①シングルス, 技術練習	8	
9	卓球②シングルス, ゲーム	9	
10	卓球③ダブルス, ゲーム	10	
11	バドミントン①	11	
12	バドミントン②	12	
13	バドミントン③	13	
14	身体を知る③:形態測定, 体力測定	14	
15	身体を知る④: 体力測定	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、講義内課題(30%)、レポート(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
特になし(必要に応じて資料を配布します)	「最新スポーツ百科」 大修館書店
関連のある授業科目	資格等
体育講義	幼稚園免許二種免許・保育士資格

体育講義

《1単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業必修》

担当者

村上清英

授業の概要

健康問題と生活環境の関係、健康維持・増進の方法、動作の巧みさについて学び、より豊かに健康的な生活をするための知識と実践力を身につける。

到達目標

①現代社会における運動・スポーツ実践の重要性とその意義を述べることができる。
②ライフスタイルに応じた生涯スポーツの実践に関心を持つようになる。

事前事後学習

毎授業の前後に、必ず予習復習をすること。レポート提出あり。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション:授業の概要、受講上の心得など
2		2	ライフスタイルと健康について
3		3	運動習慣と生活習慣病について
4		4	肥満のメカニズムについて
5		5	肥満の改善について
6		6	力やパワーについて
7		7	筋力と筋パワーを高める方法について
8		8	持久力を高める方法について
9		9	運動と骨の関係について
10		10	加齢による身体機能の変化と運動の関係
11		11	睡眠問題について
12		12	ストレスと運動について
13		13	動作の巧みさについて
14		14	子どもの身体活動不足、座位中心生活による影響
15		15	栄養とスポーツについて

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、レポート(30%)、学習態度(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
特になし(必要に応じて資料を配布します)	「これからの健康とスポーツの科学」 安部孝・琉子友男編 講談社サイエンティフィク
関連のある授業科目	資格等
体育実技	幼稚園免許二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

能動的に授業に参加できるような課題を出して行く予定である。具体的には、課題をもとにしたウエイトコントロールやトレーニング方法の実践などである。

授業目的
・ねらい

現代社会における健康のあり方と運動を含む身体活動や不活動との関連について考える。

基礎ゼミ

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

授業の概要

「大学での学び方」「保育用語」「ゼミ別研究」「保育学生としての学び」においては、基礎学力を高め、自ら考え表現する方法を学ぶ。「地域ボランティア」は、地域清掃活動を行い、地域の環境の実態を知り、社会貢献を目指す。また「専門職ガイダンス」では、保育・教育分野に限らず、様々な領域の外部講師をお招きし、最新状況についてお話していただく。以上のような様々な演習を通して社会人・保育者としての資質を磨いていく。

到達目標

本演習では、大学生・保育者にとって必要な素養を身につける事を旨とし、学習・実習・就職活動に対する意識向上をはかる。

事前事後学習

授業教科書、資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨む。またゼミにおける課題について自分なりに情報収集・整理が求められる。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション・大学での学び①(ガイダンス)	16	観察実習オリエンテーション
2	大学での学び②(マナー・生活編)	17	観察実習
3	日本語文章スキルアップ①	18	観察実習まとめ(お礼状作成等)
4	日本語文章スキルアップ②	19	キャンパスライフ(共同企画②)
5	保育学生としての学び①(マナー)	20	地域ボランティア①(学内外清掃活動等)
6	ゼミ別研究・学びのスキルアップ①	21	保育用語Ⅲ
7	保育用語Ⅰ	22	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑤
8	保育学生としての学び②(マナー)	23	専門職ガイダンス②
9	ゼミ別研究・学びのスキルアップ②	24	保育用語Ⅳ
10	保育用語Ⅱ	25	保育学生としての学び③(言葉)
11	ゼミ別研究・学びのスキルアップ③	26	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑥
12	ゼミ別研究・学びのスキルアップ④	27	保育用語Ⅴ
13	専門職ガイダンス①	28	保育学生としての学び④(保育場面における気づき)
14	キャンパスライフ(共同企画①)	29	専門職ガイダンス③
15	学習のまとめ	30	学習のまとめ

成績評価基準及び方法

レポート(30%)、保育専門用語テスト(30%)、課題等提出物(20%)、学習態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育のマナーと言葉」長島和代編 わかば社 その他、適宜資料を配布する	「大学生の日本語トレーニング」世界思想社 その他、適宜紹介する。
関連のある授業科目	資格等
キャリアスタディ、卒業研究等	

【次年度に向けての改善等について】

社会人としてのマナーや保育学生としての心得を学び、保育用語等を中心に、基礎学力向上に努めたい。	
授業目的・ねらい	本演習では、保育者に必要な一般教養ならびに専門的知識を身につける事を旨とします。

基礎音楽

《4単位(演習)/幼児保育学科1年通年/卒業・保育士必修》

担当者	《基礎音楽全般》田邊裕子 《ピアノ》赤峯美津子・松岡美羽・三浦栄子・宮部明子・山田倫子
授業の概要	「保育表現技術」における「基礎音楽」の授業は、子どもの遊びや保育環境を豊かにするために必要な基礎音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。 また、感性豊かな保育者を育成するために、さまざまな音楽に興味関心を持ち主体的に取り組む学びの姿勢が求められる。子どもの発達や保育の環境・内容について理解しながら、豊かな感性や創造性を養うための音楽表現の実践とその展開の方法を学ぶ。音楽表現に必要な基礎的知識や技術を理解し習得しやすいうに、小人数編成の演習形式やピアノ個人レッスンを展開する。
到達目標	①子どもの歌や、ピアノ伴奏、弾き歌いなど基礎的な音楽表現技術を理解し習得する。 ②歌やピアノ実技などの実践・活動に繋げる音楽表現の知識を習得し、読譜力を高める。 ③ハンドベルやヴォイス・アンサンブルなどの演奏体験により音楽の楽しさを味わう。
事前事後学習	週毎に示している課題を目標とし、ピアノの練習等を毎日積み重ねることが基本である。また、練習方法を随時工夫して人前での発表や実践の準備に取り組む。 毎回の授業の復習をし、目標課題の達成に努力を怠らないこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	前期オリエンテーション	31	後期オリエンテーション
2	ピアノ奏法および楽譜の理解(メロディ)	32	子どもの歌とオリジナル伴奏法1
3	子どもの歌と簡易伴奏法1	33	ピアノ奏法および楽譜の理解(装飾音)
4	ピアノ奏法および楽譜の理解(三和音)	34	子どもの歌とオリジナル伴奏法2
5	子どもの歌と簡易伴奏法2	35	ピアノ奏法および楽譜の理解(二長調)
6	ピアノ奏法および楽譜の理解(リズムと拍子)	36	子どもの歌とオリジナル伴奏法3
7	子どもの歌と簡易伴奏法3	37	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調)
8	ピアノ奏法および楽譜の理解(音符と休符)	38	子どもの歌とオリジナル伴奏法4
9	子どもの歌と簡易伴奏法4	39	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ短調)
10	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調)	40	子どもの歌とオリジナル伴奏法5
11	子どもの歌と簡易伴奏法5	41	ピアノ奏法および楽譜の理解(その他の調)
12	ピアノ奏法および楽譜の理解(カデンツ)	42	子どもの歌とオリジナル伴奏法6
13	子どもの歌と簡易伴奏法6	43	ピアノ奏法および楽譜の理解(マーチ)
14	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調)	44	子どもの歌とオリジナル伴奏法7
15	子どもの歌と簡易伴奏法7	45	ピアノ奏法および楽譜の理解(独奏曲)
16	ピアノ奏法および楽譜の理解(音階と和音)	46	子どもの歌とオリジナル伴奏法8
17	子どもの歌と簡易伴奏法8	47	ピアノ奏法および楽譜の理解(確認と小テスト)
18	ピアノ奏法および楽譜の理解(ヘ長調)	48	子どもの歌とオリジナル伴奏法9
19	子どもの歌と簡易伴奏法9	49	器楽アンサンブル1
20	ピアノ奏法および楽譜の理解(記号・楽語)	50	子どもの歌とオリジナル伴奏法10
21	子どもの歌と簡易伴奏法10	51	器楽アンサンブル2
22	ピアノ奏法および楽譜の理解(奏法)	52	子どもの歌とオリジナル伴奏法11
23	ピアノ弾き歌い課題発表の選曲と奏法1	53	ハンドベルの奏法とアンサンブル3
24	ヴォイス・アンサンブル1	54	後期ピアノ課題の選曲と奏法1
25	ピアノ弾き歌い課題の発表のための工夫と奏法2	55	ハンドベルの奏法とアンサンブル1
26	ヴォイス・アンサンブル2	56	後期ピアノ課題の選曲と奏法2
27	ピアノ弾き歌い課題の発表のための工夫と奏法3	57	ハンドベルの奏法とアンサンブル2
28	ヴォイス・アンサンブル3	58	後期ピアノ課題の選曲と奏法3
29	ピアノ弾き歌い課題発表	59	後期ピアノ課題の発表
30	前期のまとめと振り返り	60	後期のまとめと振り返り

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題発表提出(40%)、筆記テスト(30%)により総合的に評価する。	
テキスト	参考文献・推薦図書
「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 権歌書房 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 その他、随時資料、楽譜を配布	「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト」編著:全国大学音楽教育学会九州地区学会、「おんがくのしくみ-歌って動いてつくってわかる音楽理論-」著者:今村恭子ほか その他適宜、授業中に紹介する。
関連のある授業科目	資格等
こどもと表現、保育内容【表現I】、教育実習、保育実習など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的・ねらい	後期のアンサンブル「ハンドベル」と「器楽」の順序を入れ替えた。器楽合奏は子どもへの指導を想定した選曲を行っており、学生にとっては比較的平易に合奏活動を行うことができ、ハンドベルの方がより個人技術を必要とし学習が効果的であると考えた。 保育表現技術における基礎音楽の授業は、子どもの遊びや、保育環境を豊かにするために必要な音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。保育の内容を理解し、保育の環境構成及び具体的な展開のための技術や、基本的な音楽の知識を習得することを目的とする。さらに、感性豊かな保育者を育成するためにいろいろな音楽に興味関心を持ち、主体的に取り組む学びの姿勢を求める。
----------	--

保育者論

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／保育士・幼免必修》

担当者

惟任泰裕

授業の概要

直接的に幼児と関わる保育者の役割・専門性について、事例や職務内容から理解する。専門性が高度化するなかで、それら背景にある社会的期待や課題を知り、保育者の職業的意義について考えを深める。併せて組織内外での連携の重要性についても事例から検討する。保育者の制度的位置づけを確認し、専門職的成長はどのように起きうるのか、自己課題も含め考察する。

到達目標

- ・保育者の専門性と倫理を理解している。
- ・現代的な社会課題とそれに応じた保育者の役割を理解している。
- ・組織内、また保護者や地域社会との協働・連携について、その重要性を理解している。
- ・保育者の制度的位置づけについて理解している。
- ・保育者の専門職的成長を理解し、自己課題を把握している。

事前事後学習

- ・下記テキストの関連箇所やレジュメ・配布資料などを授業前後で読み、理解を深めていくこと。
- ・グループでの活動があるときには、事前・事後で活動に向けて準備・振り返りを行うこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	保育者の役割と倫理
3		3	保育者の専門性①子ども理解と養護・教育の一体
4		4	保育者の専門性②記録とふりかえり
5		5	保育者の専門性③子育て支援
6		6	保育と家族・地域の関係①モンスターペアレント
7		7	保育と家族・地域の関係②地域社会での保育
8		8	保育と家族・地域の関係④現代における子育て
9		9	保育者の協働①組織と園務
10		10	保育者の協働②地域・小学校との協働
11		11	保育者の協働③他の専門職との協働
12		12	保育者の制度的位置づけ－責務と資格・要件
13		13	保育者の成長－学び続ける保育者
14		14	保育者のキャリア形成とライフプラン
15		15	講義のまとめ

成績評価基準及び方法

ワークシートあるいは課題等の提出状況と内容(50%)、定期試験(40%)、発表・学習態度(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「今に生きる保育者論第3版」 秋田喜代美ほか編著 みらい	「日本人のしつけは衰退したかー『教育する家族』のゆくえ」 広田照幸 講談社 1999年 「家族援助を問い直す 第二版」 金田利子・齋藤政子編著 同文書院 2009年 ※その他、授業中に随時紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育原理、教育原理、保育実習指導Ⅰ、教育実習指導	幼稚園教諭二種免許、保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

保育者として知っておかねばならない、保育の今日的課題への言及を増やす。

授業目的
・ねらい

直接的に幼児と関わる保育者の役割・専門性について、事例や職務内容から理解する。専門性が高度化するなかで、それら背景にある社会的期待や課題を知り、保育者の職業的意義について考えを深める。

保育内容【表現Ⅱ】

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

森本直樹

授業の概要

領域「表現」のねらい及び内容をふまえて、幼児造形表現の理論と実践、実技を学ぶ。造形要素による子どもの発達を理解し、教材研究をとおして、様々な素材や用具、表現法に触れ、理解する。幼児造形活動の指導や支援に必要な基礎的な知識や技術を習得し、就学前教育においてのつながりを身に付けさせるための、方法や指導を理解する。また協同制作での対話や、造形遊び、描く、作る活動内容をおとして、楽しさを味わい、保育者としての感性や造形表現力及び、指導方法を身につける。

到達目標

・領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
・子どもの造形の発達段階や学びについての課程を理解する。
・素材や用具、表現法に触れ、幼児造形活動の指導法や支援に必要な、基礎的な知識と技術を体験する。
・就学前教育における内容の関連性や教科等のつながりについて理解する。
・個人やグループでの対話や制作に積極的に取り組み、幼児の造形表現が豊かになるための工夫を体験する。

事前事後学習

・指定された用具を持参すること。
・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション: 幼児の造形表現についての概観	16	幼児造形の指導: かく活動の制作体験
2	幼児の造形表現の理解: 領域「表現」のねらい及び内容についての理解	17	幼児造形の指導: かく活動の指導法
3	ものを観察して: デッサンを描く	18	幼児造形の指導: つくる活動の制作体験
4	色彩基礎: 色相環の理解、色彩構成(基礎)	19	幼児造形の指導: つくる活動の指導法
5	絵画表現と画材経験: モダンテクニック技法	20	造形遊びの理解: ねらいと内容、制作体験
6	絵画表現と画材経験: 組み合わせによる描画	21	造形遊びの理解: 実践と評価
7	子どもの発達と造形表現の理解: かく活動	22	子どもの発達: 幼児絵画の見方
8	子どもの発達と造形表現の理解: つくる活動	23	造形表現の実践: 教材開発研究
9	造形表現の基礎: 線描における表現	24	造形表現の実践: 指導案作成
10	造形表現の基礎: 絵の具における表現	25	造形表現の実践: 模擬保育
11	造形表現の基礎: 遊び活動	26	造形表現の実践: 模擬保育の振り返り、まとめ
12	造形表現の基礎: 素材における活動	27	造形表現の応用: 協同活動の実践と指導法
13	作品制作: 絵本の世界(イメージづくり)	28	造形表現の応用: 教材制作(協同制作)
14	作品制作: 絵本の世界(鑑賞、評価)	29	造形表現の応用: 教材制作、発表(協同制作)
15	まとめ: 振り返り(ワークシート活動、レポート作成)	30	まとめ: 振り返り(ワークシート活動、レポート作成)

成績評価基準及び方法

ワークシート(20%)、課題等提出物(50%)、レポート(20%) 学習態度(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『保育内容 表現(第2班)』 編著 中川香子・清原知二 みらい	『流れがわかる幼稚園・保育所実習』 発達年齢、季節や場所にあった指導案を考えよう 浅川 蘭子著他 萌文書林 2015
関連のある授業科目	資格等
保育内容指導法、保育内容総論など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

保育現場において実践的な要素を高めるために、造形表現における子どもの発達段階を理解し、知識を高め、保育者としての実践力を身に付けさせるための改善を行う。

授業目的
・ねらい

領域「表現」のねらい及び内容について理解し、子どもの造形活動における発達段階及び、学びについての課程を理解をする。造形活動の指導法や支援に必要な、基礎的な知識や技術を体験し、就学前教育の関連性及び教科等のつながりについて学び理解する。個人やグループ活動の対話により、幼児の表現が豊かになるための工夫を体験をして理解する。

保育内容指導法

《2単位(演習)／幼児保育学科1年前期／幼免必修》

担当者

岡山愛子

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
授業の概要	保育内容をふまえた指導に関する理解と子どもの発達課題に応じた遊びの効用を学習し、指導法について具体的・実践的に学ぶ。子どもの遊びの中心となる5領域と関連させて理解を深め、様々な保育方法を理解する。課題制作やレポート作成に取り組みながら保育現場の中での多様な保育の展開を理解する。具体的には、保育技術と指導案作成を行い発表する中で自己評価、他者評価を行うことができる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・幼稚園教育要領・保育所保育指針における目標及び主な内容並びに発達段階に応じた全体像を把握し、授業設計の重要性を理解し模擬保育などに応用できる。・個別学習内容、把握保育計画における立案方法などの基礎的要素を指導上の留意点を理解する。・当該教科の背景となる領域との関係を理解し、情報機器などを教材研究に活用することができる。
事前事後学習	<ul style="list-style-type: none">・毎授業の資料を振り返り、講義や演習の内容と合わせて整理すること。・教材や指導案の作成においては授業時間内に成果を上げるため、授業に臨む前に資料収集や教材研究などの準備をしておくこと。・予定の段階まで進まない場合は授業時間外での取り組みを行うこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業概要の説明・保育現場での指導法	16	絵本の特性と5領域の関連性
2	子どもにとっての遊びの意義	17	絵本の読み聞かせの実践
3	子ども理解と保育指導法の意義	18	保育に役立つ教材作成:手袋人形制作
4	子どもの発達と遊びの効用1(言葉)絵本・紙芝居	19	保育に役立つ教材作成:指人形制作
5	子どもの発達と遊びの効用2(造形)折り紙	20	手袋人形における作品の発表と振り返り
6	現代における子どもの実情(新聞記事まとめ)	21	保育内容の指導(1)指導案作成の意義
7	3歳以上児における実習記録の意義	22	保育内容の指導(2)指導案の記入方法
8	3歳未満児における実習記録の意義	23	保育内容の指導(3)部分実習のための教材研究および指導案作成の意義
9	保育に役立つ教材作成 ペーパーサート:型紙作成	24	保育内容の指導(4)部分実習のための教材研究および指導案作成
10	保育に役立つ教材作成ペーパーサート:仕上げ	25	園行事における指導案作成の意義
11	教材発表と振り返り	26	園行事における指導案作成の実際
12	子どもの発達と遊びの効用3(造形)新聞紙遊び	27	園行事における指導案作成の発表
13	保育形態の特性	28	現代における子ども事例検討とグループワーク
14	保育の目標と計画	29	現代の子育ての事例と検討とグループ発表
15	パネルシアターの理解と作成方法	30	まとめと発表(情報機器使用)

成績評価基準及び方法

レポート作成(20%)、課題提出(30%)、中間試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
那須川知子監修「保育内容の指導法」ミネルヴァ書房	「幼稚園教育要領」フレーベル館「保育所保育指針」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」フレーベル館 随時資料を配布する。
関連のある授業科目	資格等
保育内容総論、教育実習指導など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

子ども理解と子どもの発達段階をふまえ、保育技術の活用方法など主体的に取り組めるようにしたい。

授業目的
・ねらい

・子どもを理解するとともに指導の観点を持ち、保育現場における基礎力及び実践力を身につけることができる。

子どもの保健

《4単位(講義)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士必修》

担当者

宮村信子

授業の概要

子どもは絶えず成長し、健康な体と健全な心を育むためには、健康が保持・増進されなければならない。そのために、子どもの成長・発達、栄養・生活への適応や、養護・社会の制度や施策、また病気や事故などの特徴・対応・予防について学び保育士として必要な知識を身につける。

到達目標

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体発育や生理機能及び、運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
- 3.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 4.子どもの精神保健とその課題等について理解する。
- 5.保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 6.施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

事前事後学習

毎授業の前に『J』の当該箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートを整理しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	16	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症とその予防
2	健康の概念と健康指標 地域における保健活動と児童虐待防止	17	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	18	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
4	身体発育と保健	19	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
5	生理機能の発達と保健	20	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
6	生理機能の発達と保健	21	子どもの疾病の予防と適切な対応 発熱・嘔吐・下痢
7	生理機能の発達と保健	22	子どもの疾病の予防と適切な対応 頭痛・腹痛・咳・けいれん 予防接種
8	運動、精神機能の発達保健	23	小児期からの生活習慣の予防の重要性 生活習慣病とは
9	運動、精神機能の発達保健	24	子どもの生活環境と精神保健 子どもの生活と環境
10	発育・発達の把握と健康診断	25	子どもの生活環境と精神保健 子どもの心身症と精神疾患
11	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 免疫とアレルギー疾患	26	子どもの心の健康とその課題 発達障害・自閉症・アスペルガー症候群
12	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 免疫とアレルギー疾患	27	保育環境と衛生・安全管理 保育環境整備と保健・食中毒への対応
13	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 慢性疾患	28	保育環境と衛生・安全管理 事故防止と安全対策・危機管理
14	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 慢性疾患	29	健康及び安全の実施体制 職員間の連携の組織的取組・母子保健対策と保健
15	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 慢性疾患	30	健康及び安全の実施体制 家庭、専門機関、地域との連携

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(30%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ」 加藤忠明・岩田力編著 建帛社	「からだのしくみ全書」 高橋健一 中央文化社
関連のある授業科目	資格等
子どもの保健Ⅱ・子どもの食と栄養・乳児保育	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

- ・一方的な講義ではなく、学生が能動的参加するような手立てを考える。
- ・図や視聴覚機器を利用して、興味がわくようにする。

授業目的
・ねらい

子どもが健康で安全な生活が出来るように子どもの未熟性を医学的知識を下に補完し快適な生活が出来るように習熟する。

子どもの健康と安全

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

宮村信子

授業の概要

保育現場において、子どもたちの健やかな成長発達を促進し、健康を守るために、健康な子どもの観察、身体発育の測定方法と評価、精神・運動機能の発達の観察・評価や、保育・養護、さらに、事故時の応急処置、心肺蘇生法、包帯の巻き方等についても実践できる知識・技術を習熟する。

到達目標

1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。
2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。
4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。
5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。

事前事後学習

必ずテキスト『』の当該箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートの整理をしておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	○・R 保健計画の作成と活用
2		2	保健活動の記録と自己評価 健康状態の観察
3		3	保健活動の記録と自己評価 身体発育の測定と方法と評価
4		4	子どもの保健に係る個別対応と 子ども集団全体の健康と安全・衛生管理
5		5	保健における養護と教育の一体性 子どもの健康増進と保 育環境 ・子どもの生活習慣と心身の健康
6		6	子どもの発達援助と保健活動 乳児の抱き方、育児用品の使い方
7		7	子どもの発達援助と保健活動 食事の与え方・排泄のさせかた
8		8	子どもの発達援助と保健活動・身体の清潔 手洗いの演習
9		9	体調不良が発生した場合の対応・感染症の予防と対策 乳児、障害のある個別的配慮を要する子どもへの対応
10		10	事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組 保育における看護と応急処置
11		11	救急処置及び救急蘇生法の習得
12		12	保育における看護と応急処置
13		13	保育における看護と応急処置 職員間の連携・協働と組織的取組
14		14	保育における看護と応急処置 災害への備えと危機管理
15		15	子どもの養育環境と心の健康問題 心とからだの健康づくりと地域保健活動

成績評価基準及び方法

定期試験(70%) 学習態度(30%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「子どもの保健Ⅱ」 白野幸子 医歯薬出版KK	
関連のある授業科目	資格等
子どもの保健Ⅰ・乳児保育・子どもの食と栄養	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

- ・なるべく演習を多く取り入れて、保育園の現場で役立つようにする。
- ・一方的な講義ではなく、学生が能動的に参加するような手立てを考える。

授業目的
・ねらい

子どもが健康で安全な生活が出来るように保育現場において医学的知識を下に実践出来る
応用能力技術を身につける。

乳児保育 I

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／保育士必修》

担当者

賀久久美子

授業の概要

受胎から誕生までのメカニズムを絵本を通して学ぶ。
尊い生命を通してその成長と援助に必要な知識を学び、人の愛情ある行動の重要性を確認する。乳児期の基本的な生活習慣が身に付き生きる力の基盤が出来上がると云われる。“育てること”は生命を守ること。人の生涯の基礎づくりの時期に携わる者として心して学ぶ。育てることは素晴らしい。

到達目標

知識を習得し感性豊かな保育者になることを目指す。
・成長、発達に応じた特質や援助のあり方を習得する。
・乳児保育の実践に対応できる知識を得て心と体力を養う。
・自らの基本的な生活習慣を見直す。

事前事後学習

- ① テキストを事前によく読んだり、学ぶべき内容を把握する。
- ② 講義内容をまとめ、興味関心を深め楽しめる工夫をする。
- ③ 学んだことを、実習など現場で活用表現できるようにする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(乳児保育制度と内容)	16	オリエンテーション(アンヨが出来た)
2	乳児保育の現状と課題	17	15ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助
3	保育所保育指針における乳児保育	18	離乳食と食器
4	新しい生命との出会い 新生児の特徴	19	園児と遊ぼう(子どもたちとの交流)
5	赤ちゃんの成長の秘密	20	18ヶ月児の育ち(アンヨ大好き、登るのが大好き)
6	3・4ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	21	子どもにやさしい安全と環境
7	5ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	22	24ヶ月児の育ちと援助、運動、遊び
8	6・7ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	23	30ヶ月児の育ちと援助(バランス抜群)
9	実習、調乳と授乳	24	3才未満児の作品とあそび
10	8ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	25	保育指針(乳児保育における記録と評価)
11	9ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	26	乳児保育の指導計画
12	10・11ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	27	乳児保育の実践記録・保育日誌
13	12ヶ月児、1歳の誕生日に！！	28	職員間の連携 協働
14	課題、レポート提出	29	保護者との連携 協働
15	制作	30	まとめ(関係機関との連携)

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、授業中に行なう演習・発表(20%)、課題レポート・試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「見る考える創り出す乳児保育」萌文書林 随時資料配布	「乳児保育の基本」フレーベル館 「なるほど赤ちゃん学」
関連のある授業科目	資格等
子どもの保健Ⅰ・子どもの保健Ⅱ・乳児保育Ⅱ	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

乳児期の心身の発達、生理的な特徴を熟知し最適な援助の仕方について学ぶ。
保育現場での乳児の対応の仕方及び保育計画、記録の仕方など即実践へつなげる学習。

乳児保育Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

賀久久美子

授業の概要

乳児は生まれてすぐは未熟で手厚い養護を必要とする。乳児の育ちを理解し、その基礎の上に乳児の生活や遊びについて具体的に演習をする。乳児期の生活から遊びが生まれ、遊びから学ぶとも言える。保育の内容や方法、保育計画などを習得する。

到達目標

○乳児保育における健やかな成長発達を支える養護、保育内容を理解し実践できる。
・乳児保育Ⅰでの学習を基礎にして、求められる知識や技術の理解を深める。
・乳児の生活や遊びの場面における保育のポイントを実践的に理解する。
・乳児期の心身の発達の知識を学び、どのように保育のねらいを達成するのか実際に指導計画を立てる。 ・乳児保育の現状と課題について理解する。

事前事後学習

①毎授業前には必ずテキストをよく読んだり、学ぶべき内容を把握する。
②講義内容をまとめ、興味関心を深め楽しめるよう工夫する。
③学んだことを実習など現場で活用、表現できるようにする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	乳児保育の基本、オリエンテーション
2		2	乳児期の生活と保育
3		3	乳児期のあそび
4		4	乳児保育と保育内容(乳児とおもちゃ)
5		5	乳児保育と保育内容(布おもちゃ作成)
6		6	乳児期の児童文化
7		7	乳児期の保育計画とは
8		8	保育計画の立案・実践
9		9	保育の流れと保育上の働き
10		10	子どもの保育環境に対する配慮
11		11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定
12		12	子どもの基本生活(保育環境と安全管理)
13		13	乳児の発達と活動のまとめ
14		14	乳児保育における連携・家庭支援
15		15	まとめ 乳児保育の課題

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、授業中に行なう演習・発表(20%)、課題レポート・試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
乳児保育第3版 保育所保育指針 随時資料配布	乳児保育Ⅱ 生活習慣百科 ココロとカラダほぐしあそび
関連のある授業科目	資格等
子どもの保健Ⅰ・子どもの保健Ⅱ・乳児保育Ⅰ	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

保育の原点として、生命との出会いを大切に保育者をめざす。生命の保持と情緒の安定を図り、子どもの最善の利益を守ることを学ぶ。

保育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

惟任泰裕

授業の概要

本講義では、保育者に求められる基礎・基本となる事項について取り扱う。まず、保育の意味を歴史的にたどるとともに、現代における社会的意義を検討する。また、「保育所保育指針」等における保育の基本と関連して、発達や環境という視点を用いて保育を捉える。それらを踏まえて、改めて保育内容と方法について、その原理を取り上げる。さらに、保育の思想・歴史から、保育を支える原理を確認し、現代的な課題についても検討・考察する。

到達目標

- ①保育に関する基本的な知識や姿勢を修得している。
- ②保育の制度、内容、方法について理解している。
- ③「保育所保育指針」の基本について理解している。
- ④保育の思想と現状について理解している。

事前事後学習

下記テキストの関連箇所やレジュメ等を授業前後で読み、理解を深めていくこと。ワークシートについては授業内で作業することが多いが、課題として配布し、その記入と提出を求める場合がある。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	保育とは何か①「保育」の意味とその概念	2	
3	保育とは何か②保育の社会的意義	3	
4	保育とは何か③保育所保育	4	
5	保育の基本①発達のまなざし	5	
6	保育の基本②環境を通した保育	6	
7	保育の目標と内容－保育所保育指針	7	
8	保育の方法①生活と遊びを通した総合的な保育	8	
9	保育の方法②保育形態	9	
10	保育の方法③保育の計画・記録・評価	10	
11	保育の思想と歴史①ルソーとペスタロッチ	11	
12	保育の思想と歴史②オウエンとフレーベル	12	
13	保育の現状と課題①諸外国での現状	13	
14	保育の現状と課題②幼稚園とこども園	14	
15	講義のまとめ	15	

成績評価基準及び方法

講義各回におけるワークシートあるいは課題等の提出状況と内容(60%)、定期試験(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「おもしろく簡潔に学ぶ 保育原理」 上野恭裕編著 保育出版社 ※随時、レジュメ・資料を配布する。	適宜、紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育者論、教育原理	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

保育の思想と今日みられる保育との関連について、より具体的に言及する。

授業目的 ・ねらい	幼稚園教諭・保育士としての倫理観・責任感を養うとともに、協働における対人関係についての理解を深め、そのスキルを習得する。教育・保育実践における指導案作成・教材研究を研鑽し、現代的な保育課題に対処する基礎的な思考方法を確認・吟味する。
--------------	--

社会福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業選択必修》

担当者

矢ヶ部 陽一

授業の概要

専門職として理解が必要な社会福祉の基本的概要について学ぶ。特に、人びとが生活していくうえで欠かせない社会福祉と生活支援のつながりと意義について理解を深める。
なぜ社会福祉が存在するのか、また社会福祉がどのように構成され効力を発揮するのかを問いながら、保育者として必要な社会福祉の概略の理解とその役割を考察していく。

到達目標

- ・社会福祉の意義と歴史の変遷、こども家庭支援の視点について理解する。
- ・社会福祉の制度、実施体系について理解する。
- ・現代の社会福祉の動向と課題について理解する。
- ・社会福祉専門職としての保育士の視点と役割について説明できるようにする。

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。事後学習については、授業で学んだことを振り返り、課題(レポート等)についてまとめること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷	16	
2	こども家庭福祉	17	
3	こどもの人権援護と社会福祉	18	
4	家庭支援と社会福祉	19	
5	社会福祉の制度と法体系	20	
6	社会福祉行財政と実施機関	21	
7	社会福祉サービス	22	
8	社会福祉の専門職・実施者	23	
9	社会保障および関連制度の概要	24	
10	相談援助の意義と概要	25	
11	相談援助の方法と技術	26	
12	社会福祉における利用者保護のしくみ	27	
13	少子高齢化と社会福祉	28	
14	地域福祉の推進とネットワーク	29	
15	諸外国の社会福祉の動向	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題レポート等(20%)定期テスト(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
公益財団法人児童育成協会監修 松原康雄・朴洋一・金子充編「社会福祉」中央法規, 2019	古川孝順「福祉ってなんだ」岩波書店, 2008
関連のある授業科目	資格等
こども家庭福祉	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

社会科学としての抽象的な概念が多いため、実例や映像資料も含めてなるべくわかりやく講義を展開していく。

授業目的
・ねらい

保育者が携わるこども家庭福祉を取りまく社会福祉の意味や意義についての理解を促す。専門職として、社会福祉が人びとの生活を支えているシステムについて理解し、社会福祉の機能と実用性について学びを深める。

科目名【 障害児保育 】

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／選択必修・保育士必修》

担当者

國生 絵美

授業の概要

障がいについての理解を深め、保育する上での留意点や支援の方法を学ぶ。療育機関等について知識を深める。自分の中にある障がい観と向き合い、人と人がつながりあうことの大切さを学ぶ。

到達目標

- ・どんな子どもであれ、自信を持って寄り添い関われる保育者であることを目指す。
- ・分からないことを分からないと質問したり、分かるよう努力する。
- ・障がいについての正しい理解をもち、より良い支援の技術を身に付ける。
- ・障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について学ぶ。

事前事後学習

- ・事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
- ・事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	①オリエンテーション 障がいとは何かを考える	16	障がいの理解と保育支援③
2	②オリエンテーション 障がいとは何かを考える	17	・肢体不自由児
3	障がい児・者の権利について学ぶ	18	・脳性麻痺
4	障害者権利条約	19	・視覚・聴覚障害児・言語障害
5	障がいの理解と保育支援 ①	20	指導計画の作成と記録
6	・知的障害	21	子どもたちの遊びや環境
7	・染色体異常	22	こどもの視点・他者とのやりとり
8	・病弱	23	職員間の協働・連携
9	障がいの理解と保育支援 ②	24	保護者や家族に対する理解と支援
10	発達障害	25	専門機関との連携
11	・自閉症スペクトラム①	26	保育の現状と課題
12	・自閉症スペクトラム②	27	子どもの理解と支援
13	・学習障害	28	課題についてのグループ討議
14	・注意欠陥多動症候群	29	保育士に求められているもの
15	・発達性協調運動障害	30	総括

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、小テスト・提出物(20%)、レポート(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
実践に生かす障害児保育 萌文書林	障害児保育 障害のある子どもから考える教育・保育 久保田茂雄・小田豊編集 光生館
関連のある授業科目	資格等
社会的養護・社会的養護内容	保育士資格 ・ 幼稚園教諭

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	障がい児保育の理念と、障がいごとの理解と関わりの基本を学ぶ。
--------------	--------------------------------

保育実習指導 I

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／保育士必修》

担当者

高井和男・村上義次・森本直樹・矢ヶ部陽一・惟任泰裕

授業の概要

保育実習 I に臨むに当たり、実習に関する事前、事後指導を行う。
保育実習の意義・目的、内容を理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に学ぶ。さらに、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。

到達目標

- ・保育実習の意義・目的を理解する。
- ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
- ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
- ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

事前事後学習

社会の中で働くことや保育士の社会的役割についてそれぞれ考え、学んでおくこと。特に、社会的なマナーを意識して日常生活を過ごし、現場で実習に取り組ませていただく姿勢を培うようにしてほしい。また、実習の手続き、流れを十分に理解しておいてほしい。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション(授業概要の説明)	16	観察実習と責任実習の違い・実習記録の記入方法
2	実習の意義・目的	17	実習記録の振り返り
3	保育士の職務と1日の流れ(1)(保育所・未満児)	18	先輩からの実習体験談
4	保育士の職務と1日の流れ(2)(保育所・以上児)	19	実習生調書の書き方,本実習の目標の立て方
5	保育士の職務と1日の流れ(3)(児童養護施設,乳児院)	20	本実習の目標の記入方法
6	保育士の職務と1日の流れ(4) (肢体不自由児施設,重症心身障害児施設)	21	保育所の実習記録の記入方法
7	保育士の職務と1日の流れ(5) (知的障害児施設,盲ろうあ児施設)	22	施設の実習記録の記入方法
8	実習の種類・内容	23	省察の書き方と実習記録のまとめ
9	実習の目標と実習の心得	24	教材研究(2)(夏休み課題の発表 I)
10	保育所実習の心得	25	教材研究(3)(夏休み課題の発表 II)
11	施設実習の心得	26	教材研究(4)(夏休み課題の発表 III)
12	実習記録の記入方法の概要と記入例	27	実習オリエンテーション(2)(訪問マナー II)
13	教材研究(1)(夏休み課題の説明)	28	実習直前指導・実習上の守秘義務と職業倫理他
14	実習オリエンテーション(1)(訪問マナー I 他)	29	実習における実践・観察・記録・評価の方法の理解
15	観察実習事前指導	30	実習事後指導(実習反省会用の資料説明)

成績評価基準及び方法

発表(30%)、レポート・提出物(30%)、定期試験(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配布	随時紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育実習 I	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

保育士資格のために重要な科目であることを伝え、実習に必要な書類の提出や手続きを主体的に行うことの重要性を理解してもらうようにする。

授業目的
・ねらい

保育実習の目的、内容、方法を理解し、実習生として必要な知識・技術を習得する。さらに、自らの目標や課題を明確にし、実習に対する意欲を高める。また、実習後においては、実習の総括や自己評価をもとに、新たな課題や学習目標を明確にする。

科目名【 社会的養護Ⅰ 】

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期・保育士資格必修》

担当者

桐原 誠

授業の概要

社会的養護とは、「保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと」である。本講義では、社会的養護の意義と歴史の変遷を学び、そうした家庭を支える児童福祉施設職員、里親、行政の現状に触れていながら今日における社会的養護の課題について具体的に考察していく。

到達目標

- ・社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する
- ・施設養護の意味と施設の機能・役割を理解する
- ・社会的養護の制度や実施体系等を理解する
- ・児童の人権擁護や自立支援について理解する

事前事後学習

- ・事前に教科書を読んで予習しておきましょう。
- ・講義後は習った箇所を復習しましょう。
- ・板書したものは必ずノートに記入しましょう。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	社会的養護の現状	17	
3	社会的養護の歴史の変遷と今日的課題	18	
4	社会的養護の制度と実施体系について	19	
5	児童養護の理念と施設養護の原理・原則	20	
6	子どもの権利擁護について	21	
7	要養護児童の発達課題と養護の在り方	22	
8	児童養護施設の領域と概要	23	
9	施設養護における理論と実践	24	
10	ソーシャルワークの方法と技術	25	
11	施設と関係機関の連携	26	
12	施設職員の専門性と子ども観について	27	
13	里親とは何か	28	
14	社会的養護の課題と今後の展望	29	
15	総括	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「よくわかる社会的養護」ミネルヴァ書房 育・幼児教育のフロンティア」晃洋書房	「保 随時紹介
関連のある授業科目	資格等
こども家庭福祉 社会的養護Ⅱ	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

学生の意見も考慮しながら授業を組み立てていく。

授業目的
・ねらい

本講義では、「子どもの最善の利益」という視座で、子どもの健やかな成長と人権を保障できる社会的養護の在り方について考究していく。

科目名【 社会的養護Ⅱ 】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期・保育士資格必修》

担当者

桐原 誠

授業の概要

社会的養護の役割とは、子どもの権利擁護を基本として、子どもたちが安全且つ安心できる生活を保障し、社会的自立を見据えて支援していくものである。本科目は演習科目である為、児童福祉施設における支援の在り方に焦点をあて、保育士の専門性やソーシャルワーク、自立支援計画と内容、地域社会・学校との関係作り等、事例を通して理解を深めていく。

到達目標

- ・施設養護や社会的養護の実態を学ぶ
- ・現場で実践できるソーシャルワークの方法と技術の習得
- ・施設で生活する子どもたちの支援について、事例等を通して考える力を養う
- ・児童観や施設養護観を養う

事前事後学習

- ・事前に教科書を読んで予習しておきましょう。
- ・講義後は習った箇所を復習しましょう。
- ・板書したものは必ずノートに記入しましょう。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	社会的養護の背景と捉え方
3		3	施設養護の目的と機能
4		4	児童虐待の現状と課題
5		5	児童福祉施設における養護内容①
6		6	児童福祉施設における養護内容②
7		7	コミュニケーションスキルについて
8		8	個に応じた自立支援計画と内容
9		9	ソーシャルワークの技法①
10		10	ソーシャルワークの技法②
11		11	施設養護の実践と方法①
12		12	施設養護の実践と方法②
13		13	施設と関係機関の連携
14		14	施設職員の資質と倫理
15		15	総括

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「よくわかる社会的養護内容(第3版)」ミネルヴァ書房 「乳児保育のフロンティア」晃洋書房	随時紹介
関連のある授業科目	資格等
こども家庭福祉 社会的養護Ⅰ	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

学生の意見も考慮しながら授業を組み立てていく。

授業目的
・ねらい

社会的養護の中心的存在である児童福祉施設の保育士は、様々な家庭環境によって悩みを抱える子どもたちの問題点や課題を解決し、次代を担う子どもたちを育てるための専門的知識・技術・意識を養う。

こどもと表現

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

田邊裕子

授業の概要

保育内容の領域「表現」に関するねらい及び内容を知らせ、豊かな感性や表現はどのようにして生まれるのか、音楽表現活動を通して子どもの発達と表現活動について理解を深める。また、前期の「保育内容(表現Ⅰ)」を踏まえ、歌唱や器楽合奏、身体表現、制作など、様々な表現活動を支えるための知識や技能を習得し、幅広い活動に対応できる保育者をを目指す。

到達目標

- ・幼児の発達の特徴を理解し、様々な表現に対して共感し必要な援助ができる。
- ・幼児の特性に応じた題材選択や、その展開方法を学び実践に移すことができる。
- ・グループ活動を通し、学生相互の学び合いにより豊かな感性や表現力を高める。

事前事後学習

- ・その日実施された授業内容の理解を深めるために復習し、学習した内容を確実に身につけ、実習で活かせるよう努める。
- ・それぞれの表現活動においてピアノ技能の上達は有益である。日々の練習を積み重ねること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	授業のねらいや進め方(オリエンテーション)
2		2	領域「表現」のねらいと内容
3		3	子どもの発達と音楽表現活動
4		4	手あそび・歌あそび・絵かき歌①(既存曲)
5		5	手あそび・歌あそび・絵かき歌②(創作)
6		6	リズムあそび・ボディパーカッション①(グループ学習)
7		7	リズムあそび・ボディパーカッション②(グループ発表)
8		8	器楽合奏①(グループ学習)
9		9	器楽合奏②(グループ発表)
10		10	ハンドベル合奏①(グループ学習)
11		11	ハンドベル合奏②(グループ発表)
12		12	パネルシアター①制作
13		13	パネルシアター②制作・練習
14		14	パネルシアター③発表
15		15	まとめと振り返り

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、実技発表(30%)、課題作品およびレポート(30%)

テキスト

幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育
神原雅之・鈴木恵津子 監修・編著
(株)教育芸術社 その他、随時資料、楽譜を配布

参考文献・推薦図書

「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 権歌書房
「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社
その他、適宜、授業中に紹介する。

関連のある授業科目

基礎音楽、保育内容指導法、教育実習指導

資格等

幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

新設科目のため、申請書類提出時点では、特記事項なし。

授業目的
・ねらい

領域「表現」のねらいや内容を理解し、幼児の発達における表現について学ぶ。また、様々な表現活動のための基礎的な知識や技能を習得し、幼児の表現を支え豊かにするための実践力を養う。

こどもと健康

《1単位(演習)/幼児保育学科1年前期/卒業・保育士・幼免必修》

担当者

村上清英

科目	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門事項(健康) ・こどもと健康
授業の概要	領域「健康」の指導に関する、幼児の発育・発達、基本的なライフスタイル、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。また、これらの専門的事項と健康との関わりについて学ぶ。
到達目標	・領域「健康」のねらい及び内容を説明することができる。 ・乳幼児期の健康課題とその対策について説明することができる。 ・乳幼児期の発育・発達の特徴を説明することができる。 ・乳幼児の事故の実態および安全教育・安全管理の留意点を述べるることができる。
事前事後学習	・授業の前に、テキスト「健康」の当該箇所を読んでおくこと。授業の各関連事項のレポート提出あり(新聞記事の要約など)。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション、健康に関するアンケート	1	
2	領域「健康」のねらいと内容	2	
3	こどもの健康をめぐる課題	3	
4	こどもの発達理解(身体の発育と発達)	4	
5	こどもの発達理解(心の育ちと健康)	5	
6	こどもの遊びの発達と健康	6	
7	こどもの運動遊び(伝承遊びについて)	7	
8	こどもの体格・運動能力の現状と課題	8	
9	子どもの生活スタイル	9	
10	こどもの体格・運動能力測定法と評価	10	
11	こどもの安全管理と安全教育	11	
12	応急処置	12	
13	体育的行事	13	
14	保育の計画と指導案	14	
15	運動あそびの計画	15	

成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、レポート(30%)、学習態度(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「保育内容 健康」新版 民秋言・穂丸武臣編著 北大路書房	「事例で学ぶ保育内容 領域 健康」 萌文書林
関連のある授業科目	資格等
保育内容【健康】・【環境】・【言葉】・【表現】・【人間関係】	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

新設科目のため、申請書類提出時点では、特記事項なし。

授業目的 ・ねらい	子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域のねらいや内容について理解を深める。
--------------	---

こどもと言葉

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

嘉原カヲリ

授業の概要

言葉を獲得する過程で最も重要な乳幼児期について認識を深め、言葉の発達について学ぶ。さらに、現代の社会状況が言葉の発達に与えている影響を理解した上で、保育現場における言葉の指導及び援助の方法について学ぶ。
絵本の読み聞かせ(発表)も随時行う。

到達目標

- ・乳幼児期の言葉の発達について理解する。
- ・ことばを育てる保育者の役割と援助について理解を深める。
- ・ことばを育てる文化財について理解し、絵本の読み聞かせ等の基本的な実践方法を習得する。

事前事後学習

- ・毎授業の前に必ず、テキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後には、ノートを整理し、資料などを復習しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
		1	オリエンテーション :授業の学び方
		2	領域「言葉」のねらいと内容
		3	現代社会とことばをめぐる問題
		4	乳幼児期の発達とことば (誕生～1歳未満のころ)
		5	乳幼児期の発達とことば (1歳～2歳のころ)
		6	乳幼児期のことばの発達 (3歳～6歳のころ)
		7	乳幼児のことばの発達とおとなの存在
		8	信頼関係から生み出されることば
		9	自分の考えや思いを伝えることば
		10	保育の中の文化財
		11	書きことば(文字)が広がる世界
		12	ごっこ遊びとことば
		13	ことばを育てる保育者の役割と援助
		14	こどもの特性に応じた配慮と支援
		15	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、演習・発表(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
デザインする保育内容指導法「言葉」教育情報出版	子どもが育つ魔法の言葉 PHP研究所
関連のある授業科目	資格等
保育内容指導法、保育の心理学など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

新設科目のため、申請書類提出時点では、特記事項なし

授業目的
・ねらい

言葉を獲得する過程で最も重要な乳幼児期について認識を深め、言葉の発達について学ぶ。保育現場における言葉の指導及び援助の方法について学ぶ。

こどもと人間関係

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

村上義次

授業の概要

幼児教育の現場は、まさに人と人が出会い、関わる場である。本講義では、領域「人間関係」の指導の基礎となる、こどもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項について、発達・社会・臨床心理学的側面より解説していく。
また、グループワークや事例検討等も積極的に取り入れ、受講者自身のコミュニケーション・スキルの向上もはかりたい。

到達目標

- ・こどもを取り巻く人間関係の現代的問題について理解する。
- ・子どもの人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解を深める。
- ・乳幼児期における人と関わる力の育ちと保育者・教師の役割について理解する。

事前事後学習

・下記テキストの関連箇所および配布資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)こどもを取り巻く人間関係	1	
2	地域の中で育まれる子ども同士のかかわり	2	
3	乳児期の人とかかわる力の育ち	3	
4	3歳児未満の人とかかわる力の育ち:自我の芽生え	4	
5	3歳児未満の人とかかわる力の育ち:感情の発達	5	
6	3歳児以上の人とかかわる力の育ち:遊びの発達	6	
7	3歳児以上の人とかかわる力の育ち:協同性の発達	7	
8	3歳児以上の人とかかわる力の育ち:個と集団	8	
9	乳幼児の人とかかわる力を育む保育者の役割: 安心・安全の心の基地としての役割	9	
10	乳幼児の人とかかわる力を育む保育者の役割: モデルとしての役割	10	
11	個と集団の育ち:自分の居場所の発見	11	
12	個と集団の育ち:クラス内での子どもの関係	12	
13	実際の子どもの生活:子どもの生活習慣と意欲	13	
14	実際の子どもの生活:生活を育むかかわりと協同性	14	
15	講義全体のまとめ	15	

成績評価基準及び方法

演習参加における学習態度(50%)、定期試(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
実践から学ぶ子どもと人間関係 浅見均編 大学図書出版 ※随時レジュメ配布	社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」、無藤隆、古賀松香編 北大路書房
関連のある授業科目	資格等
保育内容【生活と人間関係】、保育の心理学等	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

新設科目のため、申請書類提出時点では、特記事項なし。

授業目的
・ねらい

こどもを取り巻く、人間関係の現代的問題について理解するとともに、より良い人間関係を築くための考え方や行動のしかたを学ぶ。

保育内容【健康】

【2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／卒業・保育士・幼免必修】

担当者

村上清英

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
授業の概要	保育現場での活動を通して育みたい幼児の資質・能力を理解し、領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。そして、幼児の発育・発達段階に応じた、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。具体的には、様々な運動遊びを経験し、子どもが熱中する運動遊びを創作し、その支援・実践法について考える。
到達目標	・乳幼児期の子どもの運動あそびに関心を持つようになる。 ・領域「健康」の特性及び幼児の経験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ・安全面に留意した環境構成について述べるができる。 ・指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・環境や体力・健康状態に応じて運動遊びを変化・発展させることができる。
事前事後学習	・授業の前に、テキスト「幼児の体育」の当該箇所を読んでおくこと。レポート提出あり。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(概論)	16	準備運動と整理運動
2	乳幼児の健康問題	17	からだを使ったあそび:鬼遊び①
3	運動の必要性	18	からだを使ったあそび:鬼遊び②
4	こどもの生活と運動について	19	からだを使ったあそび:力くらべ, ジャンケン
5	幼児教育における幼児体育の意義	20	からだを使ったあそび:かけっこ・リレー
6	運動発現のメカニズムと運動発動	21	体育器具を使ったあそびの指導法
7	幼児期の運動指導の留意点	22	体育器具を使ったあそび:マット・とび箱
8	障がい児の運動指導について	23	体育器具を使ったあそび:鉄棒・平均台
9	体力・運動能力について	24	用具を使ったあそび:長・短なわ
10	体格, 体力・運動能力の測定・評価	25	用具を使ったあそび:ボール, フープ
11	安全面の配慮と応急処置の実際	26	用具を使ったあそび:新聞紙, ダンボール
12	物的・場の環境づくりについて	27	親子の運動あそび
13	幼児体育の指導案の書き方と作成①	28	環境づくりと運動あそび
14	幼児体育の指導案の書き方と作成②	29	運動会の企画と運営
15	幼児体育と小学校体育科の接続のあり方	30	小学校体育につながる幼児期の運動あそび

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、講義内試験(25%)、課題発表(35%)、レポート等(30%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
コンパス「幼児の体育」前橋明 編著 建帛社	「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編 萌文書林 「幼少年期の体育」デビットガラヒュー著 大修館書店 「幼稚園教育要領」/「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
関連のある授業科目	資格等
こどもと健康・保育内容総論	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

幼児の発育・発達段階に応じた、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。具体的には、マルチメディアを活用して幼児や保育現場での問題点をリサーチし、それぞれの問題点について改善案を考えていく。	様々な運動遊びを経験し、子どもが熱中する運動遊びを創作し、その支援・実践法について理解を深める。
授業目的 ・ねらい	

保育内容【人間関係】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者	村上義次
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
授業の概要	子どもの健全な発達には、子どもたちを取り巻く他者(家族・保育者・友だち・地域社会等)との良好な関係づくりが不可欠であることを学ぶ。また、その中で子どもは、愛他的行動、道徳性、社会性、自立心等を育み、自らの存在を認められている感覚や「自分らしさ」を発揮していくことを学ぶ。また、視聴覚教材(映像)等の事例をもとに具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法及び技術(情報機器及び教材の活用法を含む)を修得する。具体的には、テキスト、視聴覚教材(映像)を活用し、幼児の心の育ちと人とのかかわりを促す支援・実践方法及び情報機器活用法について修得する。
到達目標	・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいや内容等を理解する。 ・領域「人間関係」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ・子どもの良好な育ちへ寄与する、保育者としての心構えを習得する。 ・具体的な保育を想定した、指導計画の作成方法を理解する。
事前事後学習	・下記テキストの関連箇所および配布資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。 ・マルチメディアを活用したレポート提出あり。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(講義の目的と目標)、保育の基本
2		2	領域「人間関係」のねらいと内容
3		3	年齢による発達の特徴:(0・1・2歳児)
4		4	年齢による発達の特徴:(3歳児)視聴覚教材(映像)を視聴して気づいたことをまとめる。
5		5	年齢による発達の特徴:(4・5歳児<前半>)
6		6	年齢による発達の特徴:(5歳児<後半>)教材(絵本)に描かれている人間関係について考える。
7		7	子どもの社会性の発達:(自立心・葛藤)
8		8	子どもの社会性の発達:(道徳性・生きる力)
9		9	子どもの社会性の発達:(向社会的行動・思いやり)
10		10	特別の配慮を要する子どもたちの理解 視聴覚教材(映像)を視聴して気づいたことをまとめる。
11		11	特別の配慮を要する子どもたちへの支援方法発表(情報機器の活用法を含む)
12		12	子どもの安心につながる保育者の関わり
13		13	保育者の連携体制について
14		14	家庭・家族・地域に育まれる子どもたち
15		15	人間関係の指導計画発表(情報機器の活用法を含む) 講義全体のまとめ

成績評価基準及び方法

グループ発表など学習態度(50%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「人間関係」小櫃智子・谷口明子編著 一藝社 ※随時レジュメ配布。	最新保育講座⑧保育内容人間関係 森上史郎・小林紀子・渡辺英則編 ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領」／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学、保育内容総論	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

双方向の講義がさらに進むように、視聴覚機器の使用やグループワークの取り組み方の改善を行いたい。

授業目的 ・ねらい	年齢ごとの発達の特徴を理解し、子どもの良好な育ちへ寄与する保育者としての心構えを学び、具体的な場面を想定した、指導計画の作成方法について理解する。
--------------	---

保育内容【言葉】

【1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼児必修】

担当者	嘉原カヨリ
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
授業の概要	幼稚園、保育所の保育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに示された当該領域のねらい及び内容について背景となる5領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達段階を理解し、主体的・対話的な学びを勘案し、具体的指導場面をイメージし、保育の実現方法について考慮し、身につける。
到達目標	・幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を把握し、指導上の留意点を理解し、小学校の教科などとの繋がりを考える。 ・幼児の心情や認識、活動などを視野に入れた保育構想の重要性、領域「言葉」との特性などと関連した情報機器や教材などを保育構想に活用することができる。 ・模擬保育とその振り返りで改善点を整理し、領域「言葉」の特性に応じた現代課題を知り、保育構想に取り組める。
事前事後学習	・毎授業の前に必ず、テキストの当該箇所を読んでおくこと。 ・授業後には、ノートを整理し、資料などを復習しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション :言葉のもつ機能		
2	コミュニケーションの基本的理解		
3	5領域の概要と領域「言葉」のねらい・内容		
4	乳幼児の発達段階をふまえた内容と指導上の留意点		
5	保育における評価の考え方		
6	幼児が経験し身につける領域「言葉」の内容		
7	領域「言葉」と小学校の教科のつながり		
8	乳幼児の特性及び行動をふまえた保育のイメージ		
9	領域「言葉」の特性と乳幼児体験の関連性		
10	指導案の構造の理解		
11	指導案の作成の実施(3歳児)		
12	指導案の作成の実施(4歳以上児)		
13	指導案作成による模擬保育の実施とその振り返り		
14	領域「言葉」の特性に応じた現代的課題		
15	領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向		

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、演習・発表(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
テキスト:教育 保育シリーズ「保育内容 言葉」秋田喜代美・野口隆子 編著(光生館)2018.3発行予定	「幼稚園教育要領」フレーベル館「保育所保育指針」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」フレーベル館 随時資料を配布する。
関連のある授業科目	資格等
保育内容指導法、保育内容【表現Ⅰ】、保育内容【表現Ⅱ】など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

私自身の保育実践を生かし、「言葉」について保育内容や指導方法を含めわかりやすい授業に取り組んでいきたい。 また、保育のすばらしさを学生に伝えていきたい。

授業目的・ねらい	言葉を獲得する過程で最も重要な乳幼児期について認識を深め、言葉の発達について学ぶ。保育現場における言葉の指導及び援助の方法について学ぶ。
----------	--

保育内容【表現Ⅰ】

【1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修】

担当者	田邊裕子
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
授業の概要	感性と表現に関する領域「表現」は、子どもの豊かな感性を育て感じたことや考えたことを表現する意欲を養い創造性を豊かにする観点から示したものである。そこで、子どもたちの日々の生活や遊びの中から子ども一人ひとりの表現を読み取り、子どもの個性を尊重し、それぞれの成長・発達に合わせた表現活動ができる保育者を目指す。 授業では、音楽・身体表現を中心に、保育の総合的な展開をしていくために表現活動を展開する。また、創造的・即興的な表現活動を通して、豊かな感性や表現する力を養う。保育内容を理解し、幼児期における生活と遊びの中で親しまれている教材を中心に、展開方法や指導方法を学ぶ。
到達目標	・子どもの生活や遊びを通して音楽表現や身体表現などを理解する。 ・子ども一人ひとりの表現力や創造力を伸ばすための工夫や指導の方法を習得する。 ・グループ活動を通し、学生相互の学び合いにより豊かな感性や表現力を高める。
事前事後学習	・授業に関連した子どもの表現活動の事例を集め、発表や実践の準備をすること。 ・事後学習として、個人およびグループ活動による発表や作品に対する評価・反省などを、保育者の専門技術に生かせるよう整理をして記録しておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業のねらいや進め方(オリエンテーション)		
2	領域「表現」のねらいと内容		
3	子どもの発達と音楽表現活動		
4	わらべうたと歌あそび・手あそび		
5	生活と行事の歌		
6	季節の歌(春・夏)		
7	季節の歌(秋・冬)		
8	身近な歌(ディズニー・アニメソング)		
9	楽器の奏法とリズム遊び		
10	指導計画立案と評価に対する考え方		
11	模擬保育(歌唱指導)に向けた計画立案(グループ学習)		
12	模擬保育(歌唱指導)に向けた準備と練習		
13	模擬保育(歌唱指導)として指導実践の発表		
14	指導案の作成と提出		
15	まとめと振り返り		

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、実技発表(30%)、課題作品およびレポート(30%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 神原雅之・鈴木恵津子 監修・編著 (株)教育芸術社 その他、随時資料、楽譜を配布	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 権歌書房 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 その他、適宜、授業中に紹介する。 「幼稚園教育要領」／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
関連のある授業科目	資格等
基礎音楽、保育内容指導法、教育実習指導	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

テキストの活用方法を検討し充実させる。また、演習形式の学生個人及びグループ活動において、学生が目標・目的を理解しやすいよう伝え方を工夫する。

授業目的 ・ねらい

領域「表現」のねらいや内容を踏まえ、幼稚園教育における豊かな感性や創造性を育むための資質能力を理解する。また、幼児の発達に即した具体的な表現活動の指導方法を学び、小学校音楽教育へのつながりを理解する。

保育内容【表現Ⅱ】

【2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士・幼免必修】

担当者

森本直樹

科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目

施行規則に定める
科目区分又は事項等

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業の概要

領域「表現」のねらい及び内容をふまえて、幼児造形表現の理論と実践、実技を学ぶ。造形要素による子どもの発達を理解し、教材研究をとおして、様々な素材や用具、表現法に触れ、理解する。幼児造形活動の指導や支援に必要な基礎的な知識や技術を習得し、就学前教育においてのつながりを身に付けさせるための、方法や指導を理解する。また協同制作での対話や、造形遊び、描く、作る活動内容をとおして、楽しさを味わい、保育者としての感性や造形表現力及び、指導方法を身につける。

到達目標

・領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
・子どもの造形の発達段階や学びにおけるの課程を理解する。
・素材や用具、表現法に触れ、幼児造形活動の指導法や支援に必要な、基礎的な知識と技術を体験する。
・就学前教育における内容の関連性や教科等のつながりについて理解する。
・個人やグループでの対話や制作に積極的に取り組み、幼児の造形表現が豊かになるための工夫を体験する。

事前事後学習

・指定された用具を持参すること。
・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション: 幼児の造形表現についての概観	16	幼児造形の指導: かく活動の制作体験
2	幼児の造形表現の理解: 領域「表現」のねらい及び内容についての理解	17	幼児造形の指導: かく活動の指導法
3	ものを観察して: デッサンを描く	18	幼児造形の指導: つくる活動の制作体験
4	色彩基礎: 色相環の理解、色彩構成(基礎)	19	幼児造形の指導: つくる活動の指導法
5	絵画表現と画材経験: モダンテクニック技法	20	造形遊びの理解: ねらいと内容、制作体験
6	絵画表現と画材経験: 組み合わせによる描画	21	造形遊びの理解: 実践と評価
7	子どもの発達と造形表現の理解: かく活動	22	子どもの発達: 幼児絵画の見方
8	子どもの発達と造形表現の理解: つくる活動	23	造形表現の実践: 教材開発研究
9	造形表現の基礎: 線描における表現	24	造形表現の実践: 指導案作成
10	造形表現の基礎: 絵の具における表現	25	造形表現の実践: 模擬保育
11	造形表現の基礎: 遊び活動	26	造形表現の実践: 模擬保育の振り返り、まとめ
12	造形表現の基礎: 素材における活動	27	造形表現の応用: 協同活動の実践と指導法
13	作品制作: 絵本の世界(イメージづくり)	28	造形表現の応用: 教材制作(協同制作)
14	作品制作: 絵本の世界(鑑賞、評価)	29	造形表現の応用: 教材制作、発表(協同制作)
15	まとめ: 振り返り(ワークシート活動、レポート作成)	30	まとめ: 振り返り(ワークシート活動、レポート作成)

成績評価基準及び方法

ワークシート(20%)、課題等提出物(50%)、レポート(20%) 学習態度(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
『新造形表現 理論・実践編』編著 花篤 實・岡田愨吾 三晃書房	『流れがわかる幼稚園・保育所実習』 発達年齢、季節や場所にあった指導案を考えよう 浅川繭子著他 萌文書林 2015 「幼稚園教育要領」／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
関連のある授業科目	資格等
保育内容指導法、保育内容総論など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

保育現場において実践的な要素を高めるために、造形表現における子どもの発達段階を理解し、知識を高め、保育者としての実践力を身に付けさせるための改善を行う。

授業目的
・ねらい

領域「表現」のねらい及び内容について理解し、子どもの造形活動におけるの発達段階及び、学びについての課程を理解する。造形活動の指導法や支援に必要な、基礎的な知識や技術を体験し、就学前教育の関連性及び教科等のつながりについて学び理解する。個人やグループ活動の対話により、幼児の表現が豊かになるための工夫を体験をして理解する。

保育内容【環境】

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

横峯孝昭

科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目

施行規則に定める科目区分又は事項等

保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業の概要

まず、環境の意味を抑え、環境を取り巻く、5つの資源(社会的資源・物的資源・文化的資源・人的資源・天然(自然)資源)を具体的に理解する。
また、子どもが身近な環境と積極的にかかわり、好奇心・探求心をもち、それらを生活に取り入れていこうとする力、豊かな感性を育てる保育内容について学ぶ。

到達目標

・幼稚園教育要領における教育の基本、ねらい、内容並びに全体構造を理解した上で、領域「環境」のねらいと内容を理解する。
・幼児の発達段階を踏まえ、環境に興味や関心を示し、環境に対する豊かな感性を育てることを想定した指導案の作成が出来る。
・身近な環境、たとえば地域社会と積極的にかかわり、さらに小学校とのつながりを踏まえた上で領域の全体構造を理解する。

事前事後学習

・事前では、身近な環境に気付き、興味や関心を示すこと。
学習後は、学んだ内容を実際の生活の中に取り入れ豊かな感性を育てる。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション：授業の概要説明
2		2	「環境」とは何か
3		3	環境—天然(自然)資源
4		4	環境—社会的資源
5		5	環境—人的資源
6		6	環境—物的資源
7		7	環境—文化的資源
8		8	「保育所保育指針」の中の環境に関するねらい・内容
9		9	「幼稚園教育要領」の中の環境に関するねらい・内容
10		10	「認定こども園」の中の環境に関するねらい・内容
11		11	環境と道徳性(規範意識)
12		12	生活の中での図形・数量・文字の学び
13		13	文化・伝統行事・地域社会とのつながり
14		14	環境を踏まえた指導案の作成
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、授業内提出物(20%)、小テスト(20%)、定期試験(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
コンパス『保育内容環境』高橋貴志・目良秋子編著建帛社	「幼稚園教育要領」／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」／「保育所保育指針」
関連のある授業科目	資格等
保育内容総論・保育内容指導法	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

本教科においては、「環境」という言葉から、理解や解釈において捉えにくいという意見がある。したがって、「環境」という言葉の広義・狭義も踏まえ、保育内容総論と保育内容の「環境」における位置づけ—総論と各論—を明確にして教授する必要がある。

授業目的
・ねらい

・「環境」という言葉をキーワードに、様々な視点から保育者として必要な基礎知識を学ぶ。
・「環境を通して行う教育・保育」とはいかなるものか、そして、子どもの発達と環境とのかわりについて考える。

こども家庭福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業必修》

担当者

矢ヶ部 陽一

授業の概要

保育者として、こどもの権利や福祉を守るための基本的な知識を修得する。
こども家庭福祉を取り巻く環境は変化が激しい最中にある。授業においては、その背景と歴史的変遷について学び、こども家庭福祉を構成する制度や実施体制、支援現場における課題について学んでいく。また、近年、話題となっている児童虐待や発達障害との関連性についても概説する。

到達目標

- ・こどもの人権や権利を援護するこども家庭福祉の歴史の変遷や意義について理解する。
- ・こども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。
- ・こども家庭福祉の現状と課題、そして今後の展望について理解する。

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。事後学習については、授業で学んだことを振り返り、課題(レポート等)についてまとめること。
事後学習としては、疑問に思ったことや保育者として必要と思うことについて整理してほしい。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	現代社会におけるこども家庭福祉の理念
2		2	こども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向
3		3	こども家庭福祉と保育
4		4	こどもの人権援護とこども家庭福祉
5		5	こども家庭福祉の制度と実施体制
6		6	こども家庭福祉の施設と専門職
7		7	少子化と子育てサービス
8		8	母子保健とこどもの健全育成
9		9	多様な保育ニーズへの対応
10		10	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス
11		11	社会的養護
12		12	障害のあるこどもへの対応
13		13	少年非行等への対応
14		14	こどもの貧困と社会福祉
15		15	こども家庭福祉の動向と展望

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、課題レポート等(20%) 定期テスト(50%)

テキスト

公益財団法人児童育成協会監修 新保幸男・小林理編「こども家庭福祉」中央法規, 2019

参考文献・推薦図書

随時、紹介する

関連のある授業科目

社会福祉、社会的養護

資格等

保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

事例や映像資料などをもちいて、学生が体験的にこども家庭福祉を理解できるよう工夫を図っていく。

授業目的
・ねらい

前期講義の社会福祉に続いて、保育者として理解が必要なこども家庭福祉の概略について学びを深める。特に、保育者業務と直結する制度やシステムを重点的に理解できるようにする。

こどもの理解と援助

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

村上義次

授業の概要

発達を援助するために重要な心身発達のアセスメント、子どもの経験や学習過程について理解を深める。また、実際にどのような援助、支援が考えられるのか、子ども理解に基づく援助の具体的な方法についても理解を深める。

到達目標

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解、する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

事前事後学習

事前に授業に関連する資料を配布するので、授業前に読んでおく。授業後には授業にて配布したプリントを整理しまとめておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(講義の目的と目標) 保育における子ども理解の意義
2		2	子どもの発達の特性
3		3	子ども理解と子どもとの関わり
4		4	環境を通しての教育と子ども理解
5		5	子ども理解とは
6		6	個と集団の関係
7		7	子どもを理解するための保育者の姿勢
8		8	子どもを理解するためのカウンセリングマインド
9		9	観察、記録、省察・評価
10		10	職員間の対話、保護者との情報の共有
11		11	発達の課題に応じた援助と関わり
12		12	特別な配慮を要する子どもの理解
13		13	特別な配慮を要する子どもの援助
14		14	発達の連続性と就学への支援
15		15	講義全体のまとめ、子育て支援と保育相談

成績評価基準及び方法

提出物・発表など学習態度(30%)、定期試験(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「子ども理解と保育実践」塚本美知子編著 萌文書林	「保育の心理学Ⅱ」井戸ゆかり編著 萌文書林
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学, 子ども家庭支援の心理学	保育士資格・ピアヘルパー認定資格

【次年度に向けての改善等について】

新設科目のため、特記事項なし。

授業目的
・ねらい

保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握するとともに子どもを理解するための具体的な方法を習得する。

人間研究

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／選択必修》

担当者

山本八重子

授業の概要

青少年の時期は、自分を取り巻く世界との接触によって心身ともに大きく成長し変化する。本講義では、人と人、人と社会との関係などについて、さまざまな分野から切り込み、八代に関係ある実在した人物及び児童文学等に登場した人物像に焦点を当て、人間の生き方及び人間関係や社会生活のあり方について考えさせる。また、グループで活動したり、意見を発表する場を設けたりして多面的な展開をして自分自身の生活を振り返らせる。

到達目標

本講義で学んだことを自分なりに咀嚼しノートにまとめ、自己理解、他者理解、人間理解を深めることができる。人の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりして主体的な活動ができるようにする。

事前事後学習

ノートは必ず持参し配布されたプリントは糊づけすること。
た、5回と10回は終了後ノートを提出すること。
人になってもノートを身近に置き参考にしよう心掛けること。

ま
社会

kai

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(授業内容の説明)
2		2	君はどう生きるか
3		3	芥川龍之介『蜘蛛の糸』に学ぶ
4		4	芥川龍之介『蜘蛛の糸』に学ぶ
5		5	学長「中川静也先生」に学ぶ
6		6	学長「中川静也先生」に学ぶ
7		7	逆境を生きる農聖松田喜一の生き方に学ぶ
8		8	逆境を生きる 農聖松田喜一の生き方に学ぶ
9		9	逆境を生きる 農聖松田喜一の生き方に学ぶ
10		0	坂本村出身 谷口巳一郎に学ぶ
11		11	宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」「永訣の朝」
12		12	宮沢賢治の童話に学ぶ
13		13	児童文学 浜田廣介『泣いたあかおに』
14		14	課題提示 小論文の書き方
15		15	講義のまとめ・課題提出

成績評価基準及び方法

テキスト	参考文献・推薦図書
随時提示	新聞 コラム提示
関連のある授業科目	資格等
	幼稚園教諭2種免許

【次年度に向けての改善等について】

人のため、世のため、人類の進歩のために役立った人物を八代に関係のある実在の人物を中心に学ばせる。

授業目的
・ねらい

英雄とか偉人とか言われている人々の中で、人のため世のため人類の進歩のために役立った人の考え方、ものの見方を学び、人間理解を深める。後期期間中に2回ほどノート提示を求め理解度等を見る

心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期》／選択必修

担当者

坂本哲朗

授業の概要

「かつて大人は子どもであった」のだから、振り返れば分かることもあるかもしれない。子どもの成長に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。
緊急に解決すべき課題が発生した場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション。幼稚園の砂場で学んだこととは	1	
2	本当の私とはⅠ 自尊感情	2	
3	本当の私とはⅡ 感情と健康	3	
4	相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション	4	
5	相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾	5	
6	もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則	6	
7	もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展	7	
8	みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力	8	
9	みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力	9	
10	見えない情報圧力とはⅠ 消費行動	10	
11	見えない情報圧力とはⅡ 群衆心理	11	
12	ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存	12	
13	ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ	13	
14	小論文作成	14	
15	小論文発表会・意見交流	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時、資料を配布する。	「本当にわかる心理学」植木理恵著 日本実業出版社 「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
	なし

【次年度に向けての改善等について】

かつて子どもだったことを想起しながら、健やかさとしなやかさについて追求させる。

授業目的・ねらい	多様な人間関係の中で、自他の心について学び合い、育ち合うことの大切さを感じさせる。
----------	---

科目名【 日本国憲法 】

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期後期／選択必修》

担当者

原田八重

授業の概要

日本国憲法の基本構造、基本原理等について講義。
幼稚園教諭免許の取得後、身近に感じられるような判例を中心に講義。

到達目標

経済的、政治的状況の変化に応じ憲法意識が変化している今日において、
憲法を学ぶことで、自分の考え方をしっかりとめるようになる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所の条文を読んでおくこと。
事後学習として、レジュメ及びノートに目を通し、復習を行うこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	法の意義
2		2	日本国憲法の歴史
3		3	憲法9条
4		4	人権の享有主体性
5		5	幸福追求権と法のもとの平等
6		6	思想良心の自由と表現の自由
7		7	表現の自由
8		8	経済的自由権
9		9	社会権
10		10	人身の自由
11		11	人権のまとめ
12		12	国会
13		13	裁判所
14		14	内閣
15		15	憲法まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、レポート・課題(15%)、学習態度(15%)

テキスト	参考文献・推薦図書
講義毎にレジュメを作成して配布	「基本法学入門」蓮井良憲・畑博之 有信堂高文社
関連のある授業科目	資格等
教育制度論	幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

授業目的 ・ねらい	将来、幼稚園や保育園に就職して社会生活をおくる時、様々なトラブルや困難に直面することもあると思うが、日本国憲法にはこう書いてあったというように、法を身近に感じ、法律に則った考え方ができるようになってもらう目的がある。
--------------	--

科目名【 情報機器演習 】

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

深町修一

授業の概要

本講義では、パソコンやインターネットの基本的な操作を学び、さらに社会人になるために必須となっているワードプロセッサ・表計算・プレゼンテーションのアプリケーションの操作方法を中心に学ぶ。

到達目標

コンピュータの基本的な操作とオフィススイートの操作を習得することを目標とする。また、インターネットを利用した基本的なIT技術を身につける。

事前事後学習

演習中に行う演習については、時間内に終わらない場合は必ず次の演習までに終えておくこと。また、数回の課題提出をしてもらうので必ず提出すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期・後期 (※1クラス半期30コマ)	回	前期・後期 (※1クラス半期30コマ)
1	パソコンの基礎知識・基礎操作	16	Excel よく利用する関数の使い方
2		17	Excel 簡単な表の作り方
3	インターネット、eメールなど	18	
4		19	
5	Word 文章の入力・文字の装飾	20	PowerPoint プレゼンテーションの作成
6		21	
7	Word 基本的なビジネス文書	22	画像データの処理
8		23	
9	Word おたより作成	24	ホームページ作成 I
10		25	
11	Word 七夕のチラシ作成	26	ホームページ作成 II
12		27	
13	Excel 簡単な表の作成	28	動画の作成
14		29	
15	Excel よく利用する関数の使い方	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、演習での成果(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
特になし(必要に応じて資料を配布します)	
関連のある授業科目	資格等
特になし	幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

授業目的
・ねらい

卒業研究(幼保)

《2単位(演習)/幼児保育学科2年通年/卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

授業の概要

本演習は保育士、幼稚園教諭、福祉施設職員としての資質や能力及び倫理観を育成し、保育等の現場で力を発揮できる人材を育成することを第一の目的である。その目的達成のため、これまでの学習の省察、マナー・生活態度など社会人としての基本的姿勢の形成、漢字テストや文章作成技術等基礎学力の強化を図る。また各種ガイダンスにおいては、保育・教育等の就業意識を深め、実践的な就職スキル向上を目指す。また、加えてゼミ別研究においては、各ゼミ担当教員の専門性を生かしたゼミ活動を展開し、その学習成果として卒業研究発表を実施する。

到達目標

- ・現場で活躍できる保育士・教諭等としての資質・能力・倫理観等の獲得。
- ・保育技術など保育実践で活用できる専門的な知識・技術の向上。
- ・就職活動経験を通しての、社会人としてのマナーや成果態度の習得。
- ・キャリア意識の形成など、幅広い視野、将来展望の涵養。

事前事後学習

授業教科書、資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨むこと。また卒業研究発表に向け、関連資料の収集や整理、調査、論文添削などの作業についても個別的に取り組むこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期・後期(通年中15回)	回	
1	オリエンテーション(ゼミ選択希望調査等)	16	ゼミ別研究
2	これまでの学習の省察	17	専門職ガイダンス(OB講話)
3	保育専門用語Ⅰ	18	就職ガイダンス⑥(就職試験対策前編)
4	就職につながる大学での学び(学習・生活面等)	19	就職ガイダンス⑦(就職試験対策後編)
5	ゼミ別研究	20	ゼミ別研究
6	専門職ガイダンス(福祉・教育現場Ⅰ)	21	専門職ガイダンス⑧(福祉・教育現場Ⅱ)
7	保育専門用語Ⅱ	22	保育専門用語Ⅴ
8	ゼミ別研究	23	ゼミ別研究
9	ゼミ別研究	24	専門職ガイダンス④(福祉・教育現場Ⅲ)
10	就職ガイダンス①(社会人としての心構え等)	25	ゼミ別研究
11	保育専門用語Ⅲ	26	ゼミ別研究
12	就職ガイダンス②(就職活動の流れ、求人票の見方等)	27	ゼミ別研究
13	就職ガイダンス③(履歴書作成に向けた自己分析)	28	ゼミ別研究
14	就職ガイダンス④(応募方法・自主実習等)	29	ゼミ別研究
15	保育専門用語Ⅳ・学習のまとめ	30	学習のまとめ

成績評価基準及び方法

卒業研究発表(50%)、保育用語テスト(10%)、ガイダンスレポート(20%)、参加態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本的用語」長島和代編 わかば社 その他、適宜資料を配布する。	適宜指示する。
関連のある授業科目	資格等
基礎ゼミ、保育実習指導(Ⅰ～Ⅲ)、教職(幼稚園)・保育)実践演習他	なし

【次年度に向けての改善等について】

自分の興味あることや子ども理解、子どもの発達段階等をふまえた研究に主体的に取り組み専門性が発揮できるような内容にしていきたい。

授業目的 ・ねらい

学生が各自、研究課題を選択し、担当教員の指導の下、それぞれの研究課題について調査・分析する事により研究し、まとめ、発表する。これにより、学生各自が卒業後、保育者として歩むにあたり、自身の方向性と研究する姿勢を知り、指針となるよう学習させる。

キャリアスタディ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

授業の概要

本演習は保育士、幼稚園教諭、福祉施設職員としての資質や能力及び倫理観を育成し、保育等の現場で力を発揮できる人材を育成することを第一の目的である。その目的達成のため、これまでの学習の省察、マナー・生活態度など社会人としての基本的姿勢の形成、漢字テストや文章作成技術等基礎学力の強化などを図る。また各種ガイダンスにおいては、保育・教育等の就業意識を深め、実践的な就職スキル向上を目指す。

到達目標

- ・現場で活躍できる保育士・教諭等としての資質・能力・倫理観等を習得する。
- ・保育技術など保育実践で活用できる専門的な知識・技術を習得する。
- ・就職活動経験を通し、社会人としてのマナーや成果態度を習得する。
- ・キャリア意識の形成など、幅広い視野、将来の展望について説明できる。

事前事後学習

提示する資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨むこと。講義を通じて、社会の動向を察知し、社会人に求められる職業倫理への意識を高めてほしい。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	就職につながる大学での学び(学習・生活面等)	17	
3	キャリアデザインを描く	18	
4	社会人の私を描く	19	
5	社会人に求められる人材とは	20	
6	就職ガイダンス①(就職試験対策前編)	21	
7	就職ガイダンス②(就職試験対策後編)	22	
8	キャリアを築く自己の振り返り	23	
9	専門職ガイダンス①(福祉・教育現場Ⅱ)	24	
10	専門職ガイダンス②(福祉・教育現場Ⅲ)	25	
11	就職活動(自主実習)の流れと求人票の見方	26	
12	就職までのスケジュールリング	27	
13	履歴書作成について①	28	
14	履歴書作成について②	29	
15	学習のまとめ	30	

成績評価基準及び方法

ガイダンスレポート(40%)、保育用語テスト(30%)、参加態度(30%)

テキスト	参考文献・推薦図書
適宜資料を配布する。	紙透雅子編「保育の道をめざす人へのアドバイス 改訂版 養成校での学び方から就職活動まで」みらい、2016年。
関連のある授業科目	資格等
卒業、幼稚園教諭二種免許・保育士資格を得る上での、必修科目と関連する	保育士資格・幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

外部の就職講話を盛り込み、学生が就職する意識を高められるようにしたい。

授業目的
・ねらい

社会人としてのマナーの習得をはじめ、保育者としての倫理観を身につけていく。そして、就職活動時における必要な情報収集の方法を理解し、それぞれが希望する就職先を選択できるようになる。

幼児体育

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

村上清英

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
授業の概要	保育現場での活動を通して育みたい幼児の資質・能力を理解し、領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。そして、幼児の発育・発達段階に応じた、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、事例検討や動画学習を通して具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)を身に付ける。具体的には、テキスト、視聴覚教材(映像)を中心に行い、様々な運動遊びを経験し、子どもが熱中する運動遊びを創作し、その支援・実践法について考える。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・乳幼児期の子どもの運動あそびに関心を持つようになる。・領域「健康」の特性及び幼児の経験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。・安全面に留意した環境構成について述べることができる。・指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。・環境や体力・健康状態に応じて運動遊びを変化・発展させることができる。
事前事後学習	・授業の前に、テキスト「幼児の体育」の当該箇所を読んでおくこと。マルチメディアを活用したレポート提出あり。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(概論)	16	準備運動と整理運動
2	乳幼児の健康問題	17	からだを使ったあそび:鬼遊び(動画撮影及び事例検討)
3	運動の必要性	18	からだを使ったあそび:かくらべ、ジャンケン(動画撮影及び事例検討)
4	こどもの生活と運動について	19	からだを使ったあそび:かけっこ・リレー(動画撮影及び事例検討)
5	幼児教育における幼児体育の意義	20	体育器具を使ったあそびの指導法
6	運動発現のメカニズムと運動発動	21	体育器具を使ったあそび:マット・とび箱(動画撮影及び事例検討)
7	幼児期の運動指導の留意点	22	体育器具を使ったあそび:鉄棒・平均台(動画撮影及び事例検討)
8	障がい児の運動指導について	23	用具を使ったあそび:長・短なわ(動画撮影及び事例検討)
9	体力・運動能力について	24	用具を使ったあそび:ボール、フープ(動画撮影及び事例検討)
10	体格、体力・運動能力の測定・評価(情報機器及び教材の活用を含む)	25	用具を使ったあそび:新聞紙、ダンボール(動画撮影及び事例検討)
11	安全面の配慮と応急処置の実際(情報機器及び教材の活用を含む)	26	親子の運動あそび(事例検討)
12	物的・場の環境づくりについて(情報機器及び教材の活用を含む)	27	環境づくりと運動あそび(事例検討)
13	幼児体育の指導案の書き方と作成①	28	運動会の企画と運営
14	幼児体育の指導案の書き方と作成②	29	幼児期の運動あそびの計画①(情報機器及び教材の活用を含む)
15	幼児体育と小学校体育科の接続のあり方	30	幼児期の運動あそびの計画②(情報機器及び教材の活用を含む)

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、講義内試験(25%)、課題発表(35%)、レポート等(30%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
コンパス「幼児の体育」前橋明 編著 建帛社	「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編 萌文書林 「幼少年期の体育」デビットガラヒュー著 大修館書店 「幼稚園教育要領」/「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
関連のある授業科目	資格等
こどもと健康・保育内容総論・こどもの遊びと運動学	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

幼児の発育・発達段階に応じた、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。具体的には、マルチメディアを活用して幼児や保育現場での問題点をリサーチし、それぞれの問題点について改善案を考えていく。	
授業目的・ねらい	様々な運動遊びを経験し、子どもが熱中する運動遊びを創作し、その支援・実践法について理解を深める。

国語表現法

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業必修》

担当者

山本八重子

授業の概要

現代学生の表現(特に書く、読む)力の低下は否めない。その表現への抵抗を少しでも取り除いて国語による表現力を高めるために、基礎となる読解力・論理的思考力(主張と根拠と理由)・文章構成力・正しく表記する力等をつけることが重要である。本講義では小論文、感想文、手紙文の書き方や詩歌、随想、児童文学を取り上げる。「書く」活動では新聞のコラムの書写、「読む」活動では朗読や読み聞かせ等を実施する。

到達目標

○文章を正しく理解し読解力や情緒力をつけることができる。
○小論文を書くとき段落構成を考えて主張とその根拠・理由付け・具体例を記述することができる。
○語彙を増やし正しい表記をすることができる。「反省並びに感想」を添削指導する。また、コラムの書写をさせて評価の一つとしたい。

事前事後学習

ノートは必ず持参し配布されたプリントや資料はノートに貼り保存すること。また、講義を欠席した場合はプリントや資料を取りに来ることを徹底する。5回と10回は終了後ノートを提出すること。

kai

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(表現力とは何だろう)	16	
2	自己紹介の仕方(原稿用紙の使い方 挨拶)	17	
3	文章表現(基礎編)原稿用紙の使い方、正しい表記	18	
4	実習礼状など手紙・はがきの書き方(敬語の使い方)	19	
5	実習日誌の書き方 コラム書写	20	
6	小論文と感想文の比較 原稿用紙 コラム書写	21	
7	小論文・感想文の比較と書き方 コラム書写	22	
8	小論文・感想文の比較と書き方 コラム書写	23	
9	文章表現(応用編)、演習問題	24	
10	随筆(エッセイを読み取る力)『春宵十話』	25	
11	詩歌と出合う(詩)	26	
12	詩歌と出合う(短歌・俳句)	27	
13	絵本の世界 絵本は心の栄養	28	
14	絵本の世界 朗読 課題提示	29	
15	国語表現法のまとめ、課題提出	30	

成績評価基準及び方法

課題等提出物(20%)、学習態度(20%) 定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
『保育者になるための国語表現』田上貞一郎	新聞 コラム提示
関連のある授業科目	資格等
	幼稚園教諭2種免許

【次年度に向けての改善等について】

本年度は教材をその都度プリントして講義していたが、次年度は教科書としてテキストを使い自学できるように

授業目的
・ねらい

保育者としてよい国語表現ができるように、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の基礎基本及び応用を学ばせ表現力を伸ばす。前期期間中に3回ほどノート提示を求め理解度等を見る。

教育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

惟任泰裕

授業の概要

本講義では、「教育」という営みを理解するための基礎的作業として、歴史を紐解きながら、その理念や思想などについて学ぶ。その際には、「教師と子ども」という関係だけでなく「学校と家庭」「教師と親」「社会と子ども」といった諸関係のなかで「教育」を把握することをめざす。加えて代表的な教育家の思想と実践について、歴史的な文脈において理解を深める。講義の前半は主として戦前の教育を取り扱い、後半では戦後教育の歴史的・思想的展開についてみていくこととする。

到達目標

・教育に関する基本的な諸概念を身につけ、教育の意義や目的を理解している。
・家庭・社会・学校、大人・教師・子どもなどの関係性において教育を把握している。
・教育の歴史や思想についての知識を獲得している。
・教育における理念や思想と実践との関係性について理解している。

事前事後学習

・下記テキストの関連箇所やレジュメ等を授業前後で読み、理解を深めていくこと。
・ワークシートについては授業内で作業することが多いが、課題として配布し、その記入と提出を求める場合がある。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション—教育原理をめぐる問い	1	
2	「教育」とは何か—教育学の基礎概念	2	
3	家庭と社会の「子育て」と「教育」—教育と形成、発達	3	
4	「子ども」の発見—ルソーの教育思想	4	
5	近代教育制度の成立—「学校」の誕生	5	
6	「幼稚園」の成立—ペスタロッチからフレーベルへ	6	
7	日本における近代学校の導入—明治国家と教育	7	
8	「幼稚園」の展開と改善—倉橋惣三を中心に	8	
9	戦後改革と教育理念—日本国憲法と教育基本法	9	
10	幼児教育の目的と方向—「幼稚園教育要領」の成立	10	
11	教育実践の展開—海卓子と畑谷光代	11	
12	教育方法の探求—生活集団からレジオエミアまで	12	
13	子どもの人権—コルチャックと「子どもの権利条約」	13	
14	「認定こども園」の成立—幼保一元化に向けて	14	
15	講義のまとめ—現代の教育課題への視座	15	

成績評価基準及び方法

講義各回におけるワークシートあるいは課題等の提出状況と内容(60%)、定期試験(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「よくわかる教育原理」 汐見稔幸ほか編著 ミネルヴァ書房※随時、レジュメ・資料を配布する。	「日本における保育園の誕生—子どもたちの貧困に挑んだ人びと」 穴戸健夫 新読書社 2014年 「子どもたちの100の言葉」 レジオ・チルドレン 日東書院本社 2012年 ※その他、授業中に随時紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育原理、保育者論、教育制度論	幼稚園教諭二種免許、保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

人物に焦点を当てて、分かりやすい講義を心がける。

授業目的
・ねらい

本講義では、「教育」という営みを理解するための基礎的作業として、歴史を紐解きながら、その理念や思想などについて学ぶ。そのなかで、現代につうじる課題や価値などについても理解を深める。

教育制度論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／幼免必修》

担当者

惟任泰裕

授業の概要

教育という営みを支え、ときには縛りもかける、制度について検討する。まず、公教育の理念と関連する法規をとりあげ、学校制度の構造を捉える。併せて学校体系の成り立ちを確認し、我が国と諸外国の制度比較も行う。次に、教育行政の理念と仕組み、教育費についてとり上げる。学校の動きに視点を置き、開かれた学校づくりの経緯を、評価制度ともに捉える。その際、地域における協働活動についても確認する。また、学校安全の方法も事例を通して学ぶ。最後に幼児教育・保育をはじめとする教育制度の課題について整理し、考察を行う。

到達目標

- ・公教育の原理及び理念を理解している。
- ・教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
- ・教育行政の理念・仕組みを理解している。
- ・学校改革の動向と学校安全について理解している。
- ・教育制度が直面する課題に対する関心を持っている。

事前事後学習

- ・下記テキストの関連箇所やレジュメ等を授業前後で読み、理解を深めていくこと。
- ・ワークシートについては授業内で作業することが多いが、課題として配布し、その記入と提出を求める場合がある。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	教育の理念と目的－教育基本法
3		3	義務教育の意味と仕組み
4		4	学校制度の歴史的展開と学校体系
5		5	諸外国の教育制度
6		6	教育委員会制度の理念
7		7	教育委員会制度の仕組み
8		8	文部科学省の役割
9		9	教育財政－公費と私費
10		10	開かれた学校づくりと評価
11		11	地域学校協働活動
12		12	危機管理と学校安全
13		13	教育制度課題①認定子ども園の制度化
14		14	教育制度課題②格差社会と貧困
15		15	講義のまとめ

成績評価基準及び方法

講義各回におけるワークシートあるいは課題等の提出状況と内容(60%)、定期試験(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「よくわかる教育原理」 汐見稔幸ほか編著 ミネルヴァ書房 ※随時、レジュメ・資料を配布する。	「要説教育制度 新訂第三版」 教育制度研究会 学術図書出版社 2011年 「日本の貧困－日本の不公平を考える」 阿部彩 岩波新書 2008年 ※その他、授業中に随時紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育原理、保育者論、教育原理	幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

教育制度全体を俯瞰的にみるとともに、幼児教育制度についての理解をより深められるように心がける。

授業目的・ねらい	教育という営みを支え、ときには縛りもかける、制度について検討する。公教育の理念や関連する法規、学校体系の成り立ちや教育行政の理念と仕組み、教育費などについて学ぶ。加えて幼児教育・保育をはじめとする教育制度の課題について整理し、考察を行う。
-----------------	---

保育課程論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／幼免・保育士必修》

担当者

西田紀代子

授業の概要

・子どもを取りまく環境の変化のなか、時代の要請に基づいた質の高い保育を展開するための保育の計画と評価について理解する。
・保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。

到達目標

・保育課程・教育課程の意義や重要性を理解する。
・編成と作成にあたっては、子どもの発達過程をふまえた基本的な考え方を習得する。
・保育計画を立案し、計画から評価、改善までの保育過程と全体構造を理解する。

事前事後学習

・事前に実習で学んだ保育計画について再確認して復習する。
・学習後は、立案した保育計画を実践の場で活かしてみる。

授業計画(項目・内容)

回	2年前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業の概要説明	1	
2	保育課程・教育課程の歴史的变化と意義及び役割	2	
3	保育の計画と評価の基本	3	
4	幼稚園の教育課程の編成	4	
5	保育所の保育課程の編成	5	
6	教育課程・保育課程の共通の計画作成上の留意点	6	
7	保育課程の計画作成上の留意点(0.1.2歳児)	7	
8	指導計画の種類と作成上のポイント(1)	8	
9	指導計画の種類と作成上のポイント(2)	9	
10	保育計画・指導計画の実際(1)年間指導計画の立案	10	
11	保育計画・指導計画の実際(2)月間指導計画の立案	11	
12	保育計画・指導計画の実際(3)週の指導計画の立案	12	
13	保育計画・指導計画の実際(4)日の指導計画の立案	13	
14	指導計画の実際及び評価と改善点	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

発表(10%)、課題(保育計画、指導計画立案)(30%)、小レポート(10%)・中間試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「幼稚園教育要領」フレーベル館 「保育所保育指針」フレーベル館 *随時資料配布	「教育課程・保育課程を学ぶ」松村和子・近藤幹生・椛島香代「ななみ書房」
関連のある授業科目	資格等
保育内容総論	幼稚園教諭二種免許・保育士

【次年度に向けての改善等について】

子ども理解と子どもの発達段階をふまえた指導案作成を行い保育技術の活用方法など主体的に取り組めるようにしたい。

授業目的
・ねらい

子どもを理解するとともに指導の観点を持ち、保育現場における基礎力及び実践力を身につける。

保育方法論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／幼免必修》

担当者

岡山 愛子

授業の概要

この授業では、教育・保育の「方法論」について学ぶ。保育の仕事は、一見、子どもと遊んでいるだけのようにも見えるが、そうではない。保育者は子どもの育ちにおいて、遊びを視野に入れておく必要がある。ここでは、子どもの育ちを支援する教育・保育を行うための方法について総論(総合)的に学ぶ。

到達目標

- ・子どもの「遊び」についての理解を深める。
- ・子どもの育ちに影響を与える多様な教育・保育方法のあり方についての理解を深める。

事前事後学習

毎授業前に指定する箇所「幼稚園教育要領」を読んでおくこと。
授業後は、授業内容の整理をし、ノートをまとめること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業の概要説明	16	
2	保育の基本と保育方法	17	
3	幼児理解とその方法	18	
4	環境の構成と保育の展開	19	
5	一人一人に応じた指導	20	
6	保育の質と評価	21	
7	遊びの指導、アクティブラーニング	22	
8	生活の指導	23	
9	豊かな体験と園行事	24	
10	小学校との連携	25	
11	様々な指導形態	26	
12	教材研究	27	
13	学び合い育ち合うクラスづくり	28	
14	児童文化財と保育	29	
15	園内外の環境を活かした保育、まとめ	30	

成績評価基準及び方法

受講態度、提出物(30%),定期試験(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
保育方法論(光生館) 神長美津子、津金美智子、五十嵐市郎編著	『保育方法の基礎』柴崎正行編、わかば社／幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
関連のある授業科目	資格等
保育課程論等	幼稚園教諭二種免許・保育士

【次年度に向けての改善等について】

子ども理解と子どもの発達段階をふまえた保育方法など主体的に取り組めるようにしたい。

授業目的
・ねらい

情報機器を活用しながら、教育・保育の方法論の歴史と現状を学び、理解する。

保育臨床相談

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／幼免許必》

担当者

橋口真人

授業の概要

保育現場で見られる様々な問題についての事例を取り上げ、問題の捉え方、援助の方法を検討をしていく。具体的には、発達心理学、臨床心理学等の理論的背景をもとに、自ら考える機会や、グループ・ディスカッション等を通して、保育実践上、有益な知見を深める。

到達目標

・子どもや保護者が抱える心理的問題を理解し、基本的対応について学ぶこと。
・保育現場でぶつかる様々な問題への対応について、自ら考える力を養うこと。

事前事後学習

事前に授業に関連する資料を配布するので、授業前に読んでおく。授業後には授業にて配布したプリントを整理しまとめておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	オリエンテーション(講義の目的と目標)
2		17	現代社会と子どもの育ち 親の労働状況、孤(子)育ての時代
3		18	現代社会と子どもの育ち 幼稚園や保育所を取り巻く状況の変化
4		19	現代社会と子どもの育ち 母性性と父性性、子ども関連施策
5		20	幼児期の発達と遊び
6		21	保育者の役割と専門性(臨床心理学的な視点)
7		22	保育臨床の実践 観察と記録
8		23	保育者の資質向上の取り組み
9		24	保育におけるカウンセリング(カウンセリングマインド)
10		25	保育技術としてのカウンセリング(聴き方)
11		26	保育技術としてのカウンセリング(話し方)
12		27	保育技術としてのカウンセリング(見立て)
13		28	事例 子どもへの対応
14		29	事例 保護者への対応
15		30	講義全体のまとめ

成績評価基準及び方法

提出物・学習態度(30%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
新保育ライブラリ保育臨床相談 小田豊・菅野信夫・中橋美穂編著 北大路書房	地域における保育臨床相談のあり方 一般社団法人日本保育学会保育臨床相談システム検討委員会編 ミネルヴァ書房
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学Ⅱ, 臨床心理学	幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

授業目的・ねらい	幼児の発達や学びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための理論や方法を考えることができる。
-----------------	---

教育実習

《4単位(実習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

惟任泰裕

授業の概要

大学で学んだ理論や知識が、いかに幼稚園等での教育・保育の内容・機能と関わっているかを知り、生きた実践の場で具体的な保育方法等について学ぶ機会とする。また、子どもとの関わりを通して、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、自らの教育・保育についての考えを深め、必要な技術を身に付ける機会とする。なお実習との前後に行われる教育実習指導において事前・事後指導を行い、幼稚園等での教育・保育に対する課題や認識を明確にしていく。

到達目標

- ・幼稚園等の生活に参加し、園の方針や一日の流れを理解している。
- ・保育全般に参加し、保育技術を習得している。
- ・子どもの個人差についての理解を深め、対応方法を学んでいる。
- ・安全及び疾病予防への配慮について理解している。
- ・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価等について実際に取り組み、理解を深めている。
- ・職員間の役割分担や連携について理解している。
- ・保護者支援や地域社会等との連携について総合的に学んでいる。
- ・幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化している。

事前事後学習

前半の教育実習では、観察実習を中心に行う。そのため、大学で学んだ理論・知識の整理を行い、観察の視点を養い、実習に臨むことを求める。その際、教育実習指導内での目標作成を通じて、明確な課題意識をもつ。実習の事後には、目標や実習日誌を振り返ることで、実習で得た学びや課題を明確にする。後半の教育実習では、前半の教育実習を踏まえて、改めて参加実習を念頭にした課題を設定し、教材研究を経て実習に臨む。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	
2	6月	2	11月
3	幼稚園・幼保連携型認定こども園実習	3	幼稚園・幼保連携型認定こども園実習
4	10日間	4	10日間
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

成績評価基準及び方法

実習およびその記録等(100%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」	適宜、紹介する。
関連のある授業科目	資格等
教育実習指導、保育・教職実践演習(幼稚園)	幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

記録指導や巡回指導に重点を置きつつ、学生の教育・保育理解を図る。

授業目的
・ねらい

大学で学んだ理論や知識が、いかに幼稚園等での教育・保育の内容・機能と関わっているかを知り、生きた実践の場で具体的な保育方法等について学ぶ。子どもとの関わりを通して、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、自らの教育・保育についての考えを深め、必要な技術を身に付ける。

教育実習指導

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／幼免必修》

担当者

高井和夫・山本八重子・惟任泰裕

授業の概要

大学で学んだ理論や知識を、教育・保育という実践の場で具体的に活用するための方法について学習する。また、実習に向けての準備、実習の反省等を通して、子どもとの関わり方や、実習生自身が行う様々な働きかけを省察し、自らの教育・保育についての考えを深める。さらに、実習の前後に事前・事後指導を行い、幼児教育・保育に対する課題や認識を明確にしていく。

到達目標

- ・幼稚園での生活を学び、一日の流れを理解している。
- ・子どもの個人差についての理解を深め、対応方法を学んでいる。
- ・保育の計画、実践、観察、記録、自己評価等について基本的な事項を学び、実習に備えている。
- ・保護者支援や地域社会等との連携について総合的に学んでいる。
- ・安全及び疾病予防への配慮について理解している。
- ・幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化している。

事前事後学習

教育実習指導の事前・事後学習としては、講義・演習時に指定された課題に取り組むことを重要視する。また、分からないことは教員に積極的に尋ねるよう要請する。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション	16	
2	実習の意義・目的、目標の設定	17	
3	指導案の書き方	18	
4	実習記録の書き方	19	
5	教材研究(1)模擬設定保育(絵本の読み聞かせ)	20	
6	教材研究(2)模擬設定保育(表現活動)	21	
7	教育研究(1)保健・安全への配慮	22	
8	実習オリエンテーション	23	
9	実習反省会(前期)	24	
10	教材研究(3)模擬設定保育(主活動の導入)	25	
11	教材研究(4)模擬設定保育(主活動)	26	
12	教育研究(2)保護者等との連携	27	
13	実習オリエンテーション	28	
14	実習反省会(後期)	29	
15	実習の振り返り	30	

成績評価基準及び方法

演習・発表等(60%)、レポート(40%)本授業における出席は実習を許可する基準となるので、留意して出席すること。原則として欠席に対する補講は行わない。

テキスト	参考文献・推薦図書
「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の他、随時資料を配布する。	適宜、紹介する。
関連のある授業科目	資格等
教育実習、教職(幼稚園)・保育実践演習	幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

実践力を高めるための指導を増やす。

授業目的
・ねらい

幼児を取り巻く環境に注視し、これまで学んだ知識、技術を現場で十分に活かしていける実践者として基礎を身に付ける。

教職(幼稚園)・保育実践演習

《2単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育士・幼免必修》

担当者

高井和夫・山本八重子・惟任泰裕・矢ヶ部陽一

授業の概要

本演習は、保育者としての準備性を高めるために、これまでの学修や実習を振り返り、自己の課題を把握するとともに、必要に応じて不足する知識・技能の修得を目指すものである。具体的には、保育者としての役割理解の深化、対人関係でのスキル獲得、幼児・人間理解の姿勢・思考術の向上、教材研究も含めた保育技術の研鑽等が挙げられる。

到達目標

- ・幼稚園教諭・保育士としての倫理観を理解し、責任感を養っている。
- ・保育者の基礎として、また保育者間、保護者・他機関との協働を視野に、対人関係能力に関わる理解を深め、スキルを習得している。
- ・指導案の作成、教材研究などを通して、保育に求められる知識、教養および技術を修得している。
- ・現代的な保育課題を理解し、それらに対処する上での基礎的な観点・思考術を得ている。

事前事後学習

履修カルテの整理を随時行う。演習を通して、明確にされた自己課題への取り組みを継続的に行う。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーションー学習の振り返り(高井・惟任)
2		2	対人関係理解とスキル獲得への一歩
3		3	保育技術の育成①(高井・惟任・矢ヶ部)
4		4	保育技術の育成②(高井・惟任・矢ヶ部)
5		5	保育技術の育成③(高井・惟任・矢ヶ部)
6		6	教職の意義と役割
7		7	幼稚園・保育所・認定こども園の学級経営(高井)
8		8	全実習の振り返りとこれからの課題の検討(惟任)
9		9	保育技術の育成④(高井・惟任)
10		10	保育士の役割と倫理
11		11	保育者間の連携を図るロールプレイング(矢ヶ部)
12		12	現代における保育の課題検討①(高井・矢ヶ部)
13		13	現代における保育の課題検討②(山本・高井・惟任・矢ヶ部)
14		14	現代における保育の課題検討③(山本・高井・惟任・矢ヶ部)
15		15	本演習の総括と反省会(山本)

成績評価基準及び方法

各单元ごとの演習・発表・ミニレポート等(80%)、本演習の総括となるレポート等(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
特になし。適宜、各回担当者がプリントを配布する。	適宜、各回担当教員より紹介する。
関連のある授業科目	資格等
幼稚園教諭二種免許・保育士資格を得る上での、必修科目と関連する。	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

認定こども園での実践内容を増やす。

授業目的
・ねらい

幼稚園教諭・保育士としての倫理観・責任感を養うとともに、協働における対人関係についての理解を深め、そのスキルを習得する。教育・保育実践における指導案作成・教材研究を研鑽し、現代的な保育課題に対処する基礎的な思考方法を確認・吟味する。

相談援助

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業選択必修》

担当者

矢ヶ部陽一

授業の概要

保育士は対人援助職であり、子どもへの支援のみならず家庭に関わる相談援助に携わることが求められる。相談援助を実践していくには、信頼関係を構築していく対人スキルに加えて個人と社会がどのように関係しているのかという社会関係の視点が必要になる。
授業では、相談援助の基本的理解と、演習をとおして初歩的スキルを概説する。

到達目標

- ・保育士にとって相談援助スキルが必要な背景を理解する。
- ・相談援助の意義、機能、対象等の基本的な構造について理解する。
- ・対人援助職としての保育士の役割とスキルについて説明できる。

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。また、保育実習Ⅰの経験を振り返り、相談援助がどのように行われていたのかを考えておくこと。
事後学習では、自身の興味関心や体験に応じて何らかの課題を考察することが望ましい。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	相談援助の理論	16	
2	相談援助の意義	17	
3	相談援助の機能	18	
4	相談援助とソーシャルワーク	19	
5	保育とソーシャルワーク	20	
6	相談援助の対象	21	
7	相談援助の過程	22	
8	相談援助の技術・アプローチ	23	
9	相談援助の計画・記録・評価	24	
10	相談援助の関係機関との協働	25	
11	相談援助の多様な専門職との連携	26	
12	相談援助の社会資源の活用、調整、開発	27	
13	ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析	28	
14	虐待の予防と対応等の事例分析	29	
15	障害のある子どもとその保護者への支援等の事例分析	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、授業課題(20%)、定期テスト(50%)

テキスト

公益財団法人児童育成協会監修 松原康雄・村田典子・南野奈津子編「相談援助」中央法規, 2017

参考文献・推薦図書

(仮称)「保育の協働性を高める『子ども家庭支援』『子育て支援』」晃洋書房, 2019

関連のある授業科目

保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ・Ⅲ、保育相談支援

k

保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

学生がイメージしやすい授業となるように、視覚教材等を活用していく。

授業目的
・ねらい

保育士として相談援助に必要な基本的な知識と技術について学ぶことができるようにしていく。演習をとおして、学生の体験や経験に応じた振り返りができる機会を提供していく。

子どもの食と栄養

《2単位(演習)／幼児保育学科2年前期・後期／卒業必修》

担当者

稲田 美和子

授業の概要

平成28年に改定された「食育基本法(第3次)」で「保育所保育指針」は、これまでの局長通知から厚生労働大臣告示となり、第5章「健康及び安全」の章に食育の推進の項で、保育所における食育は、健康な食生活の基本となる「食をいとむ力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標としている。この現状を踏まえ、この授業を通して「食」の大切さを学び「食」の自立ができるような学習の機会となるようにしていく。

到達目標

小児期の「食」に関する実情や正しい栄養を摂取について、小児を含め、養育者に対して「食育」が行える「保育士」として、活躍できるような知識を習得させる。また、自分自身の健康管理から、正しい食生活が送れるような生活習慣の改善に結びつける

事前事後学習

授業には、教科書を必ず持参し、資料に記載してある重要項目を必ず見直しておく。実習では、調理の基本を理解し、安全な料理を作ることを念頭において行うこと。演習では、グループで、食育媒体作成と発表を行うため、かねてより友好を築いておくこと。

回	前期・後期	回	前期・後期
1	1、子どもの健康と食生活の意義	16	実習〔保育所給食(3～5歳)〕
2	調理実習オリエンテーション	17	E子どもの発育・発達と食生活(学童期)
3	2、A、栄養の基本的概念と食事摂取基準	18	実習(学校給食の献立)
4	実習(朝ご飯をつくろう)	19	F、生涯発達と食生活
5	B、栄養の基本的知識1～2	20	実習〔保育所給食おやつ〕
6	実習(20歳女子の1日の献立中口絵⑧)	21	4、食育の基本と内容1～2
7	B、栄養の基本的知識3～4～5	22	実習〔保育園児のお弁当〕
8	実習(幼児期の食事)1～2歳	23	食育の基本と内容3～6
9	3、子どもの発育・発達と食生活A	24	実習(成人期のバランス食)
10	演習(栄養評価と食品群別)	25	5、家庭や児童福祉施設における食事と栄養
11	B子どもの発育・発達と食生活(胎児期)	26	実習〔保育所給食(お誕生会メニュー)〕
12	実習(妊娠期の食事)	27	6、特別な配慮を要する子どもの食と栄養
13	C子どもの発育・発達と食生活(離乳期)	28	演習〔保育園での食育媒体を作成〕
14	実習(離乳食を作ろう)	29	演習〔保育園での食育媒体を作成〕
15	D子どもの発育・発達と食生活(幼児期)	30	演習〔食育媒体の発表〕

成績評価基準及び方法

定期テスト(60%)、学習態度(10%)、課題等提出物(10%)、媒体作成(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新 子どもの食と栄養」 編著 学建書院	「見てわかる! 栄養の図解辞典」 中村丁次 「日本人の食事摂取基準2015」 第一出版
関連のある授業科目	資格等
乳児保育・子どもの保健1・子どもの保健Ⅱ	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

授業の内容に興味がない学生が多い(栄養素の体の中での作用が目に見えないため)ので、できるだけわかりやすいように表現し伝えていくことに心がけたい

授業目的
・ねらい

栄養素とからだの関係を理解し、正しい食生活が実践できる。
子どもの発達と食生活の意義を理解し、「食育」の出来る保育士として活躍できる。

家庭支援論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／保育士必修》

担当者

賀久久美子

授業の概要

保育士は保育に欠ける子どもの保育をし、その保護者の子育てを支援し、地域の子育てを拠点としての働きをする専門性を求められている。変動する現代社会の中で、改めて家庭とは何か、子どもが育つとはどんな事か、家庭の役割は何か、又その働きにどんな期待がされているか、等家庭についての基本的な課題に視点を置き、現在のこどもたちの豊かな育ちのために、多方面からの子育て支援の必要性を学ぶ。

到達目標

- 子供たちの自尊感情を高めることを認識する。
- 自分も隣人も大切にすることを基本に、いろいろな生き方を受容する大らかな心を養う。
- 地域活動など広く関心を持ち、前向きに対応できる支援者になろう。
- 子育て支援を通して、保護者の対応など保育者として成長する。

事前事後学習

- ・テキストを事前によく読んでおく。
- ・講義内容をよくまとめ、理解する。
- ・様々な家族形態・家庭への配慮ができるようにする。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション 家族援助論概要
2		2	子育てと家族・家庭(意義と機能)
3		3	子育てをめぐる問題(家庭支援の必要性)
4		4	子育て困難の様々(人間関係～夫婦・親子関係)
5		5	子育て家庭支援の政策動向と展望
6		6	子育て家庭を支援する具体的な制度
7		7	子育て家庭支援のあり方(現代における親の理解)
8		8	支援の実際(男女共同参画社会とWLB)
9		9	特別なニーズをもつ家庭への支援
10		10	育て難さのある子ども
11		11	子育て支援センター母子との交流会
12		12	子育て支援の実際(子ども虐待への保育者の支援)
13		13	保育者の生活発表会を見学(地域の支援)
14		14	子育て支援の実際と課題
15		15	まとめ

成績評価基準及び方法

学習態度(感想文含む)(50%)、定期試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「学ぶわかるみえる保育と家庭支援」上田 衛(株)みらい	「子ども・子育て支援新制度」前田尚美 「子ども事典」
	資格等
相談援助	保育士資格

保育相談支援

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／卒業選択必修》

担当者

矢ヶ部陽一

授業の概要

保育士の相談支援としては、子どものケアのみならず保護者への支援が業務として法的にも位置づけられている。
授業においては、保育士の専門性に基づく保護者支援について理解し、日常的な保育場面における相談支援について概説する。前期授業「相談援助」の延長として相談支援の基本的スキルを学んでいく。

到達目標

- ・保育士の専門性として、保護者支援についての基本的な理解ができる。
- ・事例をとおして、子どもと保護者をとりまく社会関係的な構造を考察する。
- ・保護者支援における保育士の役割と意義について説明できる。

事前事後学習

事前学習として、次回授業に該当するテキストについて通読しておく。前期で学んだ「相談援助」とおして考察した事項を整理しておくこと。
事後学習として、保育実習、教育実習等で聞き取った現場保育士の保育相談支援をとおして自身の保育士としての課題について振り返りを実施する。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	保護者に対する保育相談支援の意義
2		2	保育の特性と保育士の専門性を活かした支援
3		3	子どもの最善の利益と福祉の重視
4		4	子どもの成長の喜びと共有
5		5	保護者の養育力の向上に資する支援
6		6	信頼関係を基本とした受容的かかわり等
7		7	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
8		8	保育に関する保護者に対する指導
9		9	保護者支援の内容
10		10	保護者支援の方法と技術
11		11	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12		12	保育所における保育相談支援の実際
13		13	保育所における特別な対応を要する家庭への支援
14		14	児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15		15	障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、授業課題(20%)、定期テスト(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
(仮称)「保育の協働性を高める『子ども家庭支援』『子育て支援』」晃洋書房、2019	随時、紹介する
関連のある授業科目	資格等
相談援助、保育実習Ⅱ・Ⅲ	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

学生がイメージしやすい授業となるように、視覚教材等を活用していく。

授業目的
・ねらい

前期の「相談援助」に続き、保育士として保育相談支援に必要な基本的な知識と技術について学ぶことができるようにしていく。演習をとおして、学生の実習体験の振り返りができる機会を提供していく。

保育実習指導Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／保育士選択必修》

担当者

高井和夫・矢ヶ部陽一・惟任泰裕

授業の概要

保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育の観察、記録、計画、実践など保育について総合的に学ぶ。保育の表現技術を生かした保育実践力を高めるため、教材の研究や指導計画に基づいた保育実践を行う。また、既習の教科との関連性を踏まえ、子どもの保育と保護者支援について具体的に考える。なお、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。

到達目標

- ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- ・実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
- ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

事前事後学習

保育実習指導Ⅰの授業資料を振り返り、講義や演習の内容を整理しておくこと。
毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
模擬保育に向けて、子どもの遊びや生活に関する資料収集や準備(教材作りなど)及び指導案の作成と見直しを行うこと。
授業後には自分・他者の指導案を見直し、改善点などについて考察すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期・後期(通年中15回)	回	
1	授業オリエンテーション		
2	実習の意義・目的		
3	実習生調書・本実習の目標の書き方		
4	実習記録の書き方(保育実習Ⅰの実習記録を基に)		
5	指導案の作成方法と子ども理解		
6	教材研究(1)模擬設定保育(主活動)		
7	教材研究(2)模擬設定保育(朝・帰りのお集まり)		
8	教材研究(3)模擬設定保育(主活動への導入)		
9	教材研究(4)模擬設定保育(主活動)		
10	保育における表現技術の実践1		
11	実習オリエンテーション		
12	実習の振り返りと改善点		
13	保育士の専門性と職業倫理		
14	保育における表現技術の実践2		
15	実習のまとめと今後の課題		

成績評価基準及び方法

発表(15%)、レポート・提出物(35%)、中間試験(50%)
本授業における出席は実習を許可する基準となるので、留意して出席すること。原則として欠席に対する補講は行わない。

テキスト	参考文献・推薦図書
「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配布	「教育・保育課程論 書いて学べる指導計画」 岩崎淳子他 萌文書林
関連のある授業科目	資格等
保育実習指導Ⅱ、保育実践演習	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

保育士資格のために重要な科目であることを伝え、実習に必要な書類の提出や手続きを主体的に行うことの重要性を理解し、自分で実践できるようにする。

授業目的
・ねらい

保育実習の目的、内容、方法を理解し、実習生として必要な知識・技術を習得する。さらに、自らの目標や課題を明確にし、実習に対する意欲を高める。また、実習後においては、実習の総括や自己評価をもとに、新たな課題や学習目標を明確にする。改善点を見つけ、自己研鑽ができる。

保育実習Ⅲ

《2単位(実習)／幼児保育学科2年集中／保育士選択必修》

担当者

矢ヶ部 陽一

授業の概要

児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について、実践現場での体験を踏まえて理解を深めていく。特に、こども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に関する学びを深めつつ、保護者や家庭への支援についての知識や技術、判断力の習得を目指していく。
また、実習経験のフィードバックを行いながら、自己の課題を明確化していき、保育士の業務体内容や職業倫理について理解できるように促していく。

到達目標

- ・児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能について説明できる。
- ・児童福祉施設における支援の実際(こどものニーズ把握、支援スキル、家族支援等)について体験し、自己の特性や課題と結び付けながら考察を深める。
- ・各施設における保育士の業務内容と職業倫理について説明できる。

事前事後学習

児童福祉施設等の機能や役割を理解するために、ボランティア活動などへ積極的に参加すること。また、保育実習Ⅰの振り返りを行い、児童福祉施設等での実際の支援について自分なりにイメージできるよう準備を行っておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	
2	8月～9月	2	
3	施設実習(12日間)	3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

成績評価基準及び方法

実習評価(100%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時、レジュメを配布する	公益財団法人児童育成協会監修 近喰晴子他編「保育実習」中央法規, 2019
関連のある授業科目	資格等
保育実習指導Ⅲ・こども家庭福祉・社会的養護	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

実習施設については早期の調整を図り、学生の希望やニーズに応じた準備を図っていく。

授業目的
・ねらい

保育実習Ⅰ(施設)での経験を踏まえ、自己の適性や傾向についても考察を行う。こども家庭福祉に携わる保育者として、基本的知識や資質について学びを深めるようにする。

保育実習指導Ⅲ

《1単位(演習)／幼児保育学科2年通年／保育士選択必修》

担当者

矢ヶ部陽一

授業の概要

児童福祉施設等(保育所以外)で実習に臨むにあたって、必要となる知識や技術、倫理について学ぶ。特に、施設の機能や役割について理解を深め、そのうえで保育実習Ⅲを実施する意義と目的を説明できるようにする。また、各授業でのフィードバックをとおして、自己の課題も明確化していく。

さらに、社会的養護、障害児等の理解を深めながら、家庭支援や保護者支援の実践力を習得できるように学んでいく。実践事例等をおして基本的な専門性の理解を図り、保育士としての判断力や職業倫理についても理解を深める。

到達目標

- ・施設実習の意義と目的について考察し、保育の理解を深められるようにする。
- ・専門科目の学びの内容と関連を踏まえて、保育の実践力の習得を目指していく。
- ・事例をおして、観察、記録、自己評価等の保育実践改善スキルを理解する。
- ・実習総括と評価に基づき、保育士の専門性と職業倫理の理解や課題についてを深めていく。

事前事後学習

児童福祉施設等(保育所以外)の専門的理解を深めるため、保育実習指導Ⅰおよび保育実習Ⅰ(施設)の振り返りを行っておくこと。また、こども家庭福祉や社会福祉に関わる基本的な知識を復習し、施設実習に臨むための準備を図っておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	施設実習オリエンテーション	1	
2	児童福祉施設等の役割と機能	2	
3	社会的養護	3	
4	障害児の支援	4	
5	児童福祉施設における記録	5	
6	児童福祉施設における支援事例	6	
7	受容・共感などの支援スキル	7	
8	子どものニーズ把握と理解(アセスメント)	8	
9	個別支援計画の実際	9	
10	子どもの家族に関する理解と支援	10	
11	施設における専門職との連携・協働	11	
12	地域における連携・協働	12	
13	保育士業務と職業倫理	13	
14	自己省察と課題の明確化	14	
15	まとめ	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、授業課題(20%)、定期テスト(50%)

テキスト

公益財団法人児童育成協会監修 近喰晴子他編「保育実習」中央法規, 2019

参考文献・推薦図書

随時、レジュメを配布する

関連のある授業科目

保育実習指導Ⅲ・社会的養護・こども家庭福祉

資格等

保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

本科目の選択者が、保育実習Ⅰ(施設)を踏まえた課題意識や実習目的をもつことができようサポートしていく。

授業目的
・ねらい

保育実習Ⅰ(施設)での経験をベースとして、自身の長所や反省点について形式化できるよう促していく。その点を踏まえて、保育実習Ⅲに臨めるよう準備を図っていく。

障害総論

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期集中／卒業選択必修》

担当者

村上清英・矢ヶ部陽一・辻 啓司

授業の概要

障害者スポーツの歴史的な背景を学び、その制度についても理解する。障害がある方がスポーツに取り組む際の支援とその課題についても理解を深める。特に、スポーツ指導を実践する際に必要となる障害に関する基礎知識を修得する。
また、障害者との触れ合いや関りをとおして、障害者福祉の意義や現状について学びを深めるようにする。

到達目標

障害者福祉の基礎知識について理解する。また、実技をとおして障害者スポーツに関する知識や技術を学び、スポーツ指導法を修得する。

事前事後学習

保育実習等での障害福祉についての経験を踏まえながら、ボランティア活動等に積極的に参加することを求める。また、講義の他に実技も実施するので、日ごろから健康に留意し、適度な運動を心がけること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	障害者福祉施策(矢ヶ部)	1	
2	障害者福祉制度と障害の捉え方(矢ヶ部)	2	
3	ボランティア論①(矢ヶ部)	3	
4	安全管理(村上)	4	
5	障害者スポーツの意義と理念(辻)	5	
6	障害者スポーツの意義と理念(辻) 障害の理解とスポーツ(辻)	6	
7	障害の理解とスポーツ(辻)	7	
8	障害の理解とスポーツ(辻)	8	
9	ボランティア論②(矢ヶ部)	9	
10	(財)日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度(辻)	10	
11	全国障害者スポーツ大会の概要(辻)	11	
12	障害に応じたスポーツの工夫・実施(実技)(村上)	12	
13	障害に応じたスポーツの工夫・実施(実技)(村上)	13	
14	障害者との交流(実技)(村上)	14	
15	障害者との交流(実技)(村上)	15	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、授業内課題(30%)、発表(20%)、定期試験(30%)

テキスト	参考文献・推薦図書
随時指示し、プリントを配布する	(公財)日本障がい者スポーツ協会編「新版 障がい者スポーツ指導教本」ぎょうせい、2017
関連のある授業科目	資格等
保育内容(生活と健康)、幼児体育、社会福祉	初級障がい者スポーツ指導員

【次年度に向けての改善等について】

集中講義であるため、なるべく学生が受講しやすい時間帯で検討していく。

授業目的
・ねらい

初級障がい者スポーツ指導員として活動するため、障害者スポーツの基本事項について学ぶ。特に、障害についての基本的理解、そして障害に応じたスポーツ指導を身に付けていけるようにする。

こどもの音楽遊び

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育総合コース選択》

担当者

田邊裕子

授業の概要

子ども一人ひとりの成長・発達の特性に合った表現活動ができる保育者を目指すために、創造豊かな音楽遊びが展開できる感性豊かな保育者を育てることを目的とする。
幼児期における生活と遊びの中で創造的・即興的な表現活動を通して、発展的な展開方法や指導方法を学ぶ。豊かな感性や表現する力を養うために、基礎的な音楽の知識や技術を習得し、保育現場で応用できるこどもの音楽遊びを研究する。個人およびグループによる主体的な活動に取り組むことにより、こどもの発達・成長に応じた音楽遊びの展開方法を学び実践する。

到達目標

- ・子どもの生活や遊びを通して実践する音楽活動を理解する。
- ・子どもの成長に合わせた音楽遊びの工夫や指導方法を習得する。
- ・グループ活動における学生相互の学び合いにより、主体的な音楽遊びの展開ができる。

事前事後学習

毎回の授業課題の準備のために、前もってピアノの弾き歌いなどの練習等を重ねることが必要である。日頃から子どもの音楽遊びに対する興味を持ち事例を収集しておくこと。
授業後には、課題のために準備した資料や作品を整理しまとめておくこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	オリエンテーション
2		17	こどもの生活と音楽あそび
3		18	園の行事と音楽活動
4		19	手づくり楽器とこどもの遊び
5		20	季節(春)の歌あそび
6		21	季節(夏)の歌あそび
7		22	季節(秋)の歌あそび
8		23	季節(冬)の歌あそび
9		24	ハンドベル演奏(クリスマスバージョン1)
10		25	ハンドベル演奏(クリスマスバージョン2)
11		26	こどもの遊びと楽器
12		27	楽器あそび(合奏1)
13		28	楽器あそび(合奏1)
14		29	音楽遊びのグループ発表
15		30	まとめと振り返り

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、実技発表(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
適宜、資料や楽譜を配布する。	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 樞歌書房 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著音楽之友社 「幼児のための音楽教育」神原雅之ほか編著 教育芸術社 その他、適宜紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育内容(生活と表現Ⅰ)、教育実習、保育実習など	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

実践に役立つ様々な場面における手遊びや、発表会を想定した歌唱や合奏活動を更に充実させる。リトミックも取り入れ、学生自身が音楽を楽しむことのできる授業になるよう工夫する。

授業目的
・ねらい

子ども一人ひとりの成長・発達の特性に合った表現活動ができる保育者を目指すために、創造豊かな音楽遊びが展開できる感性豊かな保育者を育てることを目的とする。
幼児期における生活と遊びの中で創造的・即興的な表現活動を通して、発展的な展開方法や指導方法を学ぶ。感性や表現する力を養うための技術を習得し、保育現場で応用できるこどもの音楽遊びを研究する。

子どもの造形遊び

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／保育総合コース選択》

担当者

森本直樹

授業の概要

造形遊びは、幼児の造形表現全体を包括するものであり、子どもの主体的な学びを促し、学ぶ楽しさを味わう。子どもと環境の関わりを持ち、遊びを通して自ら経験を行うことで発見し、創造的な表現力を養うことが必要である。ここでは、豊富な材料経験や保育者自身の感性や表現を豊かにし、表現技法及び、保育技術を習得することを目標とする。

到達目標

- ・造形遊びの意義と目的を理解する。
- ・材料・素材の持つ魅力を探求し、思い付いたことを表現する。
- ・身近な場所や空間において、五感を認識して造形活動を行うことを理解する。
- ・実際に保育現場で役に立つ表現技法、保育技術の基礎を習得する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:造形遊びとは、	16	
2	造形遊びの基礎:描く活動①	17	
3	造形遊びの基礎:描く活動②	18	
4	造形遊びの基礎:作る活動①	19	
5	造形遊びの基礎:作る活動②	20	
6	造形遊びの援助①:制作研究	21	
7	造形遊びの援助②:制作活動	22	
8	造形遊びの援助③:模擬保育	23	
9	造形遊びの援助④:振り返り	24	
10	造形遊びにおける身近な素材	25	
11	造形遊びの応用:教材づくり	26	
12	造形遊びの応用:指導案	27	
13	造形遊びの応用:協同制作①	28	
14	造形遊びの応用:協同制作②	29	
15	まとめ:振り返り、ワークシート活動、レポート作成	30	

成績評価基準及び方法

ワークシート(10%)、課題等提出物(50%)、レポート(20%)、学習態度(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
『保育内容 表現(第2班)』 編著 中川香子・清原知二 未来	『新造形表現 実技編』 編著 花篤 實・岡田愨吾 三晃書房
関連のある授業科目	資格等
保育実習指導法、保育内容(全教科)など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

制作の基礎ならびに応用を学び、保育者としての表現力を高める。また模擬保育などにおいて、保育技術を身につける。

授業目的
・ねらい

保育者として、豊かな感性を身につけるためにも、素材からイメージされる表現力を高める必要がある。また表現技法などを体験することで、教材づくりや模擬保育などを通じて、保育技術を身につけていくことを目的とする。

幼児造形

《1単位(演習)／幼児保育学科2年後期／保育総合コース選択》

担当者

森本直樹

授業の概要

表現活動は、幼児の発達段階において素朴な表現を見出すことは、保育者の受け止め方により、幼児に与える反応に違いが出てくる。幼児に豊かな感性や創造性を育むためには、表現することの楽しさを実感させる必要がある。また、生み出す要因について学び、分析する必要がある。生活の中からの経験をとおり、五感で捉え、素材の持つ特性を生かすためには、保育者自身の体験し、学んだ感覚により、幼児の表現力を高めることができる。また協同活動を体験することでコミュニケーション能力を身につける。

到達目標

- ・幼児の発達段階における表現活動を理解する。
- ・領域「表現」における活動内容について、位置付けができる。
- ・自ら、表現することの楽しさを実感し、楽しさから生まれる要因について分析する。
- ・様々な表現の基礎的な知識・技能を生かし、幼児の表現活動に展開できる。
- ・協働して表現することに、他者の意見などに共感し、豊かな感性について理解する。

事前事後学習

- ・指定された用具を持参すること。
- ・造形表現活動に関する題材や資料の収集をすること。
- ・授業内に作品が仕上がらない場合は、指定する期限までに完成させること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		16	オリエンテーション:幼児の発達と表現
2		17	領域「表現」活動:造形表現を楽しむ
3		18	造形表現活動①:色彩構成・配色理論
4		19	造形表現活動②:生活の中から(ちぎり絵)
5		20	協同制作①:立体表現(素材研究)
6		21	協同制作②:立体表現(制作)
7		22	協同制作③:立体表現(制作、展示)
8		23	イメージ表現活動③:構成□
9		24	イメージ表現活動④:制作、発表□
10		25	造形表現活動:張り子①
11		26	造形表現活動:張り子②
12		27	身体をとりこんだ表現:衣装づくり①
13		28	身体をとりこんだ表現:衣装づくり②
14		29	まとめ①:活動報告、振り返り
15		30	まとめ②:ワークシート、レポート作成

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、課題等提出物(50%)、ワークシート(20%)、レポート(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
『保育内容 表現(第2班)』編著 中川香子・清原知二 みらい	『新造形表現 実技編』編著 花篤 實・岡田愨吾 三晃書房
関連のある授業科目	資格等
保育実習指導法、保育内容(全教科)など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

時間内に制作を終えることができない学生が多かったために、時間外での制作が発生した。次年度からは、計画段階で制作時間を考慮することを検討したい。

授業目的
・ねらい

素材からイメージされるものを読み解き、明るく、楽しい制作物を表現する力を養う。その際に、素材研究、幼児の発達に応じた活動内容などを考察し、保育の現場で使用される教材及び、制作物として考案し、制作時間を踏まえ、丁寧に制作する。

こどもの遊びと運動学

《1単位(演習)/幼児保育学科2年前期/保育総合コース選択》

担当者

村上清英

授業の概要

運動学の基礎知識を学び、子どもの運動能力を引き出す運動指導法の習得を目指す。また、運動遊びを計画する際に参考となる子どもの運動能力の実態を把握する手法について学ぶ。

到達目標

- ①子どもの運動意欲や多様な動きを引き出す指導法について述べるができる。
- ②他者の動きの観察を通じて適切なからだの動かし方に関心を持つようになる。
- ③様々な運動遊びの基礎的な技能を高める。

事前事後学習

授業中に与えられる課題(実技テスト、レポート等)を出す。課題をクリアできるように工夫すること。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	
2	運動技術の理解Ⅰ:運動の局面構造の理解	17	
3	運動技術の理解Ⅱ:からだの動かし方(関節可動域)	18	
4	運動技術の理解Ⅲ:運動の伝導と正確性	19	
5	運動技術の学習Ⅰ:走る・跳ぶ動作	20	
6	運動技術の学習Ⅱ:投げる・捕る・打つ動作	21	
7	運動技術の学習Ⅲ:マット運動	22	
8	運動技術の学習Ⅳ:とび箱を使った運動	23	
9	運動技術の学習Ⅴ:鉄棒を使った運動	24	
10	運動技術の学習Ⅵ:なわを使った運動	25	
11	子どもの運動能力測定:体力測定の内容と評価	26	
12	運動と学習Ⅰ:サッカーのルールと個人・集団技術	27	
13	運動と学習Ⅱ:バレーボールのルールと個人・集団技術	28	
14	運動と学習Ⅲ:バスケットボールのルールと個人・集団技術	29	
15	測定・評価に基づいた運動遊びの計画	30	

成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、講義内課題(50%)、レポート(30%)

テキスト	参考文献・推薦図書
	「教師のための運動学」吉田茂、三木四郎編 大修館書店 「スポーツができる子になる方法」深代千之 著 ASCII
関連のある授業科目	資格等
幼児体育	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

幼児の発育・発達段階に応じた、運動遊びを踏まえて具体的な指導場面を想定して運動スキルの向上を目指した関わりかたを学ぶ。具体的には、マルチメディアを活用して保育現場での問題点をリサーチし、それぞれの問題点について改善案を考えていく。

授業目的・ねらい	様々な運動遊びを経験し、子どもが楽しく運動スキルを向上できるような運動遊びを創作し、その支援・実践法について理解を深める。
----------	---

臨床心理学

《2単位(演習)／幼児保育学科2年通年／選択必修》

担当者

森上 真由美

授業の概要

さまざまな臨床心理学の理論を学び、基本的な知識や技術を習得していく。ロールプレイやグループワーク、心理テスト等の体験を通じて、自己理解及び他者理解を深める。なお、この授業はピアヘルパー資格試験を受験するための必須科目である。

到達目標

・「こころ」について理解するために必要な知識、技術、心構えを学ぶ。
・「気づき」からの思考や行動の変容を意識する。
・子どもと向き合う専門家として求められるコミュニケーションスキルを身につける。

事前事後学習

・授業後には配布したプリントやノートを整理しておく。
学んだ技術を現場で活かせるようにまとめておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	16	学校臨床
2	臨床心理学とは	17	臨床心理アセスメント
3	臨床動作法	18	心理テストの種類と分類
4	心の問題	19	心理テストの体験:作業検査法
5	心理学史	20	心理テストの体験:質問紙法①
6	フロイトの精神分析	21	心理テストの体験:質問紙法②
7	ユングの分析心理学	22	心理テストの体験:投影法①
8	エリクソンの発達課題	23	心理テストの体験:投影法②
9	ピアジェの発達段階説	24	精神医学①
10	ボウルビイの愛着理論	25	精神医学②
11	ロジャースのクライエント中心療法	26	ピアヘルパー対策①
12	ロールプレイ	27	ピアヘルパー対策②
13	グループワーク	28	ピアヘルパー対策③
14	行動主義心理学	29	ピアヘルパー対策④
15	認知行動療法	30	後期まとめ

成績評価基準及び方法

提出物・学習態度(30%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「ピアヘルパーハンドブック」日本教育カウンセラー協会編 図書文化	随時紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学Ⅱ、保育臨床相談	ピアヘルパー

【次年度に向けての改善等について】

保育現場、教育現場における「臨床」を、実践を交えて、よりダイレクトに学んでいけるよう工夫する。

授業目的
・ねらい

・「何を感じ、何に気付いたか」を毎授業の最後に振り返ることで、自らの心の成長につなげる。

こどもの発達障害

《1単位(演習)/幼児保育学科2年前期/こども心理コース選択》

担当者

村上義次

授業の概要

現在の保育・教育現場において、非常に関心が高まっている、特別な配慮を要する子どもたちについて詳しく取り上げる。彼らとより良い関係を築くうえでのポイントなどを紹介し、子どもの育ちの支援において、実践的かつ有益な知見を得る機会も提供したい。

到達目標

- ・子どもの障がい(発達・精神)障害について、心理学や療育現場における知見を学ぶ。
- ・障がい児への具体的支援について理解を深める。

事前事後学習

授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。
教材制作等に必要な情報収集・検討を、授業の前後においてもおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)・「発達」理解について	1	
2	発達の違いを理解する	2	
3	障がい特性の理解①自閉症スペクトラム(1)	3	
4	障がい特性の理解②自閉症スペクトラム(2)	4	
5	障がい特性の理解③注意欠如多動症(1)	5	
6	障がい特性の理解④注意欠如多動症(2)	6	
7	障がい特性の理解⑤学習症(1)	7	
8	障がい特性の理解⑥学習症(2)	8	
9	支援方法の理解①心の支援・発達論による支援	9	
10	支援方法の理解②行動への支援・環境調整による支援	10	
11	支援方法の理解③連携による支援	11	
12	支援方法を考える①アセスメント	12	
13	支援方法を考える②個別の教育支援計画	13	
14	支援方法を考える③ケーススタディ	14	
15	保護者支援を考える・講義全体のまとめ	15	

成績評価基準及び方法

授業参加状況・学習態度(50%)、授業課題提出物(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園」内山登紀夫監修 ミネルヴァ書房	「障害児保育ワークブック」星山麻木編著 萌文書林
関連のある授業科目	資格等
障がい児保育、保育の心理学Ⅰ・保育の心理学Ⅱ等	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

双方向の講義がさらに進むように、視聴覚機器の使用やグループワークの取り組み方の改善を行いたい。

授業目的
・ねらい

子どもの障がい(発達・精神)について、心理学や療育現場における知見を学ぶとともに、具体的支援について理解を深める。

保育現場の人間関係

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／こども心理コース選択》

担当者

村上義次

授業の概要

保育現場は、まさに人と人が出会い、かかわる場である。本演習では保育・教育現場で生じる対人関係上の様々な問題について、発達・社会・臨床心理学的側面より解説していく。
また、グループワークや事例検討等も積極的に取り入れ、受講者自身のコミュニケーション・スキルの向上もはかりたい。

到達目標

- ・自分がどのような人間であるか自分自身を見つめ直す。
- ・保育現場におけるコミュニケーションについて理解を深める。
- ・保育者に必須である、対人関係における観点を広げる。

事前事後学習

授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。
個人およびグループにて、課題等に必要な情報収集・検討を授業の前後においてもおこなうこと。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標) 自己を理解する①ライフサークル	1	
2	自己を理解する②私マップづくり	2	
3	自己を理解する③エゴグラム	3	
4	自己を理解する④クルーザー物語	4	
5	自己を理解する⑤コラージュ作成	5	
6	他者との関係を理解する①第一印象	6	
7	他者との関係を理解する②私の対人関係地図	7	
8	コミュニケーションの取り方①自分の話し方、きき方	8	
9	コミュニケーションの取り方②たずねる、こたえる、観る	9	
10	コミュニケーションの取り方③適切な自己主張	10	
11	コミュニケーションの取り方④アサーショントレーニング	11	
12	葛藤とのつきあい方	12	
13	自己開示とフィードバック	13	
14	事例検討保護者とのコミュニケーション	14	
15	講義全体のまとめ	15	

成績評価基準及び方法

演習参加における学習態度(60%)、レポート課題等(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「人間関係づくりトレーニング」星野欣生著 金子書房	「保護者のシグナル」観る聴く応える 保育者のためのコミュニケーションスキル 掛札逸美・加藤絵美 ぎょうせい
関連のある授業科目	資格等
保育内容(生活と人間関係)、保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱ他	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

双方向の講義がさらに進むように、視聴覚機器の使用やグループワークの取り組み方の改善を行いたい。

授業目的
・ねらい

自分がどのような人間であるか自分自身を見つめ直すとともに、保育者に必須である、対人関係における観点を広げる。

特別支援教育論

《1単位(演習)／幼児保育学科2年前期／卒業・幼免必修》

担当者

村上義次

科目

教育の基礎的理解に関する科目

施行規則に定める科目区分又は事項等

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

授業の概要

現在の保育・教育現場において非常に関心が高まっている特別の支援を必要とする子ども、及び、障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもについて詳しく取り上げる。また、LD、ADHD等の発達障がいのある子ども、視覚障害、知的障害等様々な障がいのある子どもの障がい特性を理解し、どのような支援が必要か理解を深める。

到達目標

・特別の支援を必要とする子どもの障害特性の理解について、心理学や療育現場における知見を学ぶ。
・特別の支援を必要とする子どもへの具体的な支援について、理解を深める。
・障害はないが、特別の教育的ニーズのある子どもの理解とその対応について学ぶ。

事前事後学習

・授業配布資料、下記参考図書等を精読し、学習理解を深めること。
・教材制作等に必要な情報収集・検討を、授業の前後においてもおこなうこと。

授業計画 (項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(講義の目的と目標)・「発達」理解について		
2	発達の違いを理解する		
3	障がい特性の理解:自閉スペクトラム症の理解		
4	障がい特性の理解:自閉スペクトラム症への支援		
5	障がい特性の理解:注意欠如・多動症の理解		
6	障がい特性の理解:注意欠如・多動症への支援		
7	障がい特性の理解:限局性学習症の理解		
8	障がい特性の理解:限局性学習症への支援		
9	障がい特性の理解:視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等の理解		
10	障がい特性の理解:視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等への支援		
11	通常の学級における特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援		
12	支援方法の理解:心の支援・発達論による支援		
13	支援方法の理解:行動への支援・環境調整、連携による支援		
14	支援方法を考える:アセスメント		
15	支援方法を考える:個別の教育支援計画、講義全体のまとめ		

成績評価基準及び方法

授業参加状況・学習態度(50%)、授業課題提出物(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園」内山登紀夫監修 ミネルヴァ書房 ※随時レジュメ配布。	「障害児保育ワークブック」星山麻木編著 萌文書林 「特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント」上野一彦他著 金剛出版
関連のある授業科目	資格等
障がい児保育、保育の心理学等	幼稚園教諭二種免許

【次年度に向けての改善等について】

新設科目のため、申請書類提出時点では、特記事項なし。

授業目的
・ねらい

特別の支援を必要とする子ども、障がいはないが、特別の教育的ニーズのある子どもの特性および心身の発達を理解し、具体的な支援方法について学ぶ。

保育・教育課程論(計画と評価)

《2単位(講義)／幼児保育学科2年前期／幼免・保育士必修》

担当者

大森万里子

授業の概要

・幼稚園教育要領、認定こども園教育保育要領、保育所保育指針保育内容を踏まえた各園において編成される教育課程についてその意義や編成の方法を理解する。
・時代の要請に基づいた質の高い保育を展開するため各園の実情に応じたカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。

到達目標

・学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷や社会状況を把握しその内容、性質と特色及び保育課程・教育課程の目的、意義や重要性と役割を理解する。
・保育課程・教育課程の基本原則及び各園の保育実践に即した教育課程編成の方法と幼児や地域の実態に即した指導計画の検討することの必要性を理解する。
・領域・教科などのカリキュラムを把握し、幼稚園を含んだ学校での教育課程をマネジメントする意義を理解する。

事前事後学習

・事前に実習で学んだ保育計画について再確認して復習する。
・学習後は、立案した保育計画を実践の場で活かしてみる。

授業計画(項目・内容)

回	前期・後期(通年中15回)	回	
1	オリエンテーション:授業の概要説明		
2	保育課程・教育課程の歴史的变化と意義及び役割		
3	保育の計画と評価の基本		
4	幼稚園の教育課程の編成		
5	保育所の保育課程の編成		
6	教育課程・保育課程の共通の計画作成上の留意点		
7	保育課程の計画作成上の留意点(0.1.2歳児)		
8	保育課程の計画作成上の留意点(3歳以上児)		
9	指導計画の種類と作成上のポイント		
10	保育計画・指導計画の実際(1)年間指導計画の立案		
11	保育計画・指導計画の実際(2)月間指導計画の立案		
12	保育計画・指導計画の実際(3)週の指導計画の立案		
13	保育計画・指導計画の実際(4)日の指導計画の立案		
14	指導計画の実践及び評価と改善点		
15	まとめ		

成績評価基準及び方法

発表(10%)、課題(保育計画、指導計画立案)(30%)、小レポート(10%)・中間試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
千葉武夫監修他(2016)「教育課程・保育課程論」中央法規	「幼稚園教育要領」フレーベル館「保育所保育指針」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」フレーベル館 随時資料を配布する。
関連のある授業科目	資格等
保育内容総論 保育内容指導法	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

子ども理解と子どもの発達段階をふまえた指導案作成を行い保育技術の活用方法など主体的に取り組めるようにしたい。

授業目的
・ねらい

教育課程の成立を理解し基礎的な知識を修得することで初歩的な保育・教育課程の編成ができることを目的とする。

こども家庭支援の心理学

《2単位(講義)／幼児保育学科2年後期／保育士必修》

担当者

村上義次

授業の概要

本講義では、生涯発達の見点から、発達のプロセスや初期経験の重要性、子どもの心の健康に関わる問題等について解説する。また、親子関係や家族関係等について、現代の社会的状況を踏まえながら理解を深める。

到達目標

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

事前事後学習

事前に授業に関連する資料を配布するので、授業前に読んでおく。授業後には授業にて配布したプリントを整理しまとめておく。

授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション(講義の目的と目標)、生涯発達理解の意義
2		2	乳児期の発達
3		3	幼児期の発達
4		4	学童期の発達
5		5	青年期から成人期・老年期における発達
6		6	家族・家庭の意義と機能
7		7	親子関係・家族関係の理解
8		8	子育ての経験と親としての育ち
9		9	子育てを取り巻く社会的状況
10		10	ライフコースと仕事・子育て
11		11	多様な家庭とその理解
12		12	特別な配慮を要する家庭
13		13	子どもの精神保健とその課題
14		14	子どもの生活・生育環境とその影響
15		15	講義全体のまとめ、子どもの心の健康に関わる問題

成績評価基準及び方法

提出物・発表など学習態度(30%)、定期試験(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「家庭支援の理論と方法」渡辺頭一郎・金山美和子著 金子書房	「家庭支援の保育学」武藤康子ら編著 建帛社
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学, 子どもの理解と援助	保育士資格

【次年度に向けての改善等について】

新設科目のため、特記事項なし。

授業目的 ・ねらい

家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解を深め、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

幼児保育学科

	担当科目	担当者名	所属	単位数	開講年次	学期
1	保育内容指導法	岡山愛子	非常勤講師	2	1	通年
2	保育方法論	岡山愛子	非常勤講師	2	2	半期
3	乳児保育Ⅰ	賀久久美子	非常勤講師	2	1	通年
4	乳児保育Ⅱ	賀久久美子	非常勤講師	1	1	半期
5	家庭支援論	賀久久美子	非常勤講師	2	2	半期
6	保育内容【言葉】	嘉原カヲリ	常勤（教授）	1	1	半期
7	こどもと言葉	嘉原カヲリ	常勤（教授）	1	1	半期
8	保育内容総論	西田紀代子	非常勤講師	1	1	半期
			合計	12		

担当者名	実務経験
嘉原カヲリ	保育所に勤務
岡山愛子	保育所に勤務
賀久久美子	保育所に勤務
西田紀代子	保育所に勤務

国際・ビジネスコース

	担当科目	担当者名	所属	単位数	開講年次	学期
1	所得税法	鶴濱邦昭	非常勤講師	2	2年	前期
2	相続税法	原田八重	非常勤講師	2	2年	後期
3	簿記	礒部雄大	非常勤講師	4	1年	前期
4	簿記演習	坂口慶多	非常勤講師	2	1年	後期
5	情報ビジネス論Ⅰ	村上亜由美	非常勤講師	2	1年	前期
6	情報ビジネス論Ⅱ	村上亜由美	非常勤講師	2	1年	後期
			合計	14		

担当者名	実務経験
鶴濱邦昭	税理士事務所に勤務
原田八重	税理士事務所に勤務
礒部雄大	税理士事務所に勤務
坂口慶多	税理士事務所に勤務
村上亜由美	航空会社に勤務

介護福祉士コース

	担当科目	担当者名	所 属	単位数	開講年次	学期
1	ライフプランニングⅠ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	1年	前期
2	ライフプランニングⅡ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	1年	後期
3	介護過程Ⅰ	松本末信	常勤（講師）	1	1年	前期
4	介護過程Ⅱ	黒木真吾	常勤（准教授）	1	1年	後期
5	からだのしくみⅠ	篠原淑子	常勤（准教授）	4	1年	通年
6	生活支援技術Ⅰ	松本末信	常勤（講師）	2	1年	前期
7	生活支援技術Ⅱ	松本末信	常勤（講師）	1	1年	前期
8	生活支援技術Ⅳ	黒木真吾	常勤（准教授）	2	1年	後期
9	生活支援技術Ⅴ	黒木真吾	常勤（准教授）	1	1年	後期
10	生活支援技術Ⅶ	山口亮治	非常勤講師	2	1年	後期
11	発達と老化の理解Ⅰ	篠原淑子	常勤（准教授）	2	1年	前期
12	発達と老化の理解Ⅱ	篠原淑子	常勤（准教授）	1	1年	後期
13	医療的ケア概論Ⅰ	中村京子	非常勤講師	2	1年	前期
14	医療的ケア概論Ⅱ	中村京子	非常勤講師	2	1年	後期
15	認知症の理解Ⅰ	篠原淑子	常勤（准教授）	2	1年	前期
16	認知症の理解Ⅱ	篠原淑子	常勤（准教授）	1	1年	後期
17	介護総合演習Ⅰ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	1年	前期
18	介護総合演習Ⅱ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	1年	後期
19	社会の理解Ⅰ	久保英樹	常勤（准教授）	2	1年	前期
20	社会福祉概論	久保英樹	常勤（准教授）	2	1年	後期
21	介護基本Ⅰ	黒木真吾	常勤（准教授）	4	1年	前期

22	介護基本Ⅱ	松本末信	常勤（講師）	1	1年	後期
23	介護基本Ⅴ	松永智也	常勤（教授）	1	1年	後期
24	介護実習Ⅰa	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	2	1年	前期
25	介護実習Ⅰb	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	2	1年	後期
26	ライフプランニングⅢ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	2年	前期
27	介護基本Ⅲ	松本末信	常勤（講師）	4	2年	前期
28	生活支援技術Ⅷ	山口亮治	非常勤講師	2	2年	前期
29	からだのしくみⅡ	篠原淑子	常勤（准教授）	2	2年	前期
30	生活支援技術Ⅸ	松永智也	常勤（教授）	1	2年	前期
31	社会の理解Ⅱ	久保英樹	常勤（准教授）	1	2年	前期
32	障がい理解Ⅰ	篠原淑子	常勤（准教授）	2	2年	前期
33	医療的ケア概論Ⅲ	中村京子	非常勤講師	2	2年	後期
34	介護過程Ⅲ	松永智也	常勤（教授）	2	2年	前期
35	介護総合演習Ⅲ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	2年	前期
36	医療的ケア演習	中村京子 篠原淑子	非常勤講師 常勤（准教授）	1	2年	前期
37	ライフプランニングⅣ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	2年	後期
38	人間関係とコミュニケーション	久保英樹	常勤（准教授）	1	2年	後期

39	地域福祉論	久保英樹	常勤（准教授）	2	2年	後期
40	からだのしくみⅢ	篠原淑子	常勤（准教授）	2	2年	後期
41	障がい理解Ⅱ	篠原淑子	常勤（准教授）	1	2年	後期
42	介護基本Ⅳ	皆吉秀太	非常勤講師	1	2年	後期
43	介護基本Ⅵ	皆吉秀太	非常勤講師	1	2年	後期
44	介護過程Ⅳ	黒木真吾	常勤（准教授）	1	2年	後期
45	生活支援技術Ⅹ	松永智也	常勤（教授）	2	2年	後期
46	介護総合演習Ⅳ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	1	2年	後期
47	介護実習Ⅰc	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	2	2年	前期
48	介護実習Ⅱ	松永智也 黒木真吾 久保英樹 篠原淑子 松本末信	常勤（教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（准教授） 常勤（講師）	4	2年	後期
合計				80		

担当者名	実務経験
松永智也	施設に勤務
黒木真吾	施設に勤務
久保英樹	施設に勤務
篠原淑子	病院に勤務
松本末信	施設に勤務
山口亮治	病院に勤務
中村京子	病院に勤務
皆吉秀太	施設に勤務